

長野県松本市

HATASHIMOHARA

波田下原遺跡 2・3

WADANAKANISHIHARA

和田中西原遺跡 2

—発掘調査報告書—

2015. 3

松本市教育委員会

長野県松本市

HATASHIMOHARA

波田下原遺跡 2・3

WADANAKANISHIHARA

和田中西原遺跡 2

—発掘調査報告書—

2015. 3

松本市教育委員会

例 言

- 1 本書は平成23年10月3日～同24年3月16日に実施された、松本市波田9568-1他に所在する波田下原遺跡・和田中西原遺跡の第2次、平成25年5月31日～同26年3月21日に実施された、波田下原遺跡の第3次調査の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、県営畑地帯総合土地改良事業に伴う緊急発掘調査であり、松本市教育委員会が発掘調査を実施し、本書の作成を行ったものである。
- 3 本書の執筆は、I章：事務局、II章：石井佑樹、V章1節1：石川真理子、同1節2：原田健司、その他を三村竜一が行った。
- 4 本書作成にあたっての作業分担は、以下のとおりである。
遺物洗浄、注記：内田和子、佐々木正子、中澤温子
土器接合：市川二三夫、竹平悦子、中澤温子
土器実測、トレース：石川真理子、柏原佳子、久保田瑞恵、竹内直美、八坂千佳、安田津由紀、村山牧枝
拓本：石川真理子、内田和子、佐々木正子、中澤温子、洞沢文江、三澤栄子
石器・石製品実測、トレース：原田健司、白鳥文彦
遺構図調整、トレース：荒井留美子
一覧表作成：荒井留美子、白鳥文彦、石川真理子
遺構写真：(2次) 石井佑樹、吉井理
(3次) 三村竜一、片山祐介、山田梨恵
遺物写真：宮嶋洋一
総括・編集：三村竜一
- 5 本書で略称を用いる場合は以下のとおりに表記している。
第○号竪穴建物址→○住、第○号土坑→○土、第○号溝→○溝
- 6 遺物の記述で用いた古代の土器の種別・器種・時期区分等は、次の文献による。
〔長野県埋蔵文化財センター 1990 「中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4-松本市内その1-総論編」〕
- 7 調査・整理期間中、以下の方々から指導・助言・協力を得た。記して感謝申しあげる。
和田和哉、吉井理、田多井用章
- 8 本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類は、松本市教育委員会が保管し、松本市立考古博物館(〒390-0823 長野県松本市大字中山3738-1 TEL 0263-86-4710 Fax 0263-86-9189)に収蔵されている。

目 次

例 言

目 次

第 I 章 調査の経過	
第 1 節 調査の経緯	1
第 2 節 調査体制	3
第 II 章 遺跡の環境	
第 1 節 地理的環境	5
第 2 節 歴史的環境	6
第 3 節 過去の調査	7
第 III 章 調査の概要	9
第 IV 章 検出遺構	
1 竪穴建物址	11
2 土坑	12
3 溝	12
第 V 章 出土遺物	
第 1 節 縄紋時代の遺物	
1 土器	28
2 石器・石製品	31
3 土製品	33
第 2 節 古代の遺物	33
第 VI 章 調査のまとめ	66
写真図版	
報告書抄録	
図版目次	
第 1 図 調査地の位置と周辺遺跡	4
第 2 図 調査範囲	8
第 3 図 基本土層	9
第 4 図 波田下原遺跡概要図	10
第 5～7 図 遺構配置図 (1)～(3)	15～17
第 8～15 図 竪穴建物址 (1)～(8)	18～25
第 16・17 図 土坑 (1)・土坑 (2)・溝	26・27
第 18～30 図 縄紋時代出土土器 (1)～(12)・縄紋時代出土土器 (13)・土製品	46～58
第 31～36 図 出土石器・石製品 (1)～(6)	59～64
第 37 図 古代出土土器	65
表目次	
第 1 表 竪穴建物址一覧表	13
第 2 表 土坑一覧表	14
第 3 表 縄紋土器一覧表	34
第 4 表 石器・石製品一覧表	40
第 5 表 石器・石製品遺構単位器種組成一覧表	44
第 6 表 古代の土器一覧表	45

第 I 章 調査の経過

第 1 節 調査の経緯

長野県松本地方事務所（以下「県」という。）は、平成 22 年着工事業として、松本市波田（平成 22 年 3 月までは東筑摩郡波田町）字下原の畑地に、県営畑地帯総合土地改良事業の一環で畑地灌漑設備の埋設管理設工事を計画した。この計画地には、旧波田町下原遺跡が存在し、和田下原遺跡、和田中西原遺跡、山形村下原遺跡が近接していた。そこで、松本市教育委員会（以下「市教委」という。平成 22 年 3 月までは波田町教育委員会、平成 23 年 3 月までは松本市役所波田支所地域支援課が担当）は、県の担当である農地整備課と長野県教育委員会文化財・生涯学習課ほかの関係部署を交え、平成 21 年度以降、これらの遺跡の保護協議を行なってきた。その結果、予定地内で試掘調査を行い、埋蔵文化財の有無を確認することとした。

試掘調査は平成 22 年 11 月 4 日～17 日及び平成 23 年 2 月 14 日～16 日にかけて、事業予定地内に 29ヶ所の試掘溝（トレンチ）を設定して行った。その結果、山形村との境界際を中心として遺物と遺構が確認されたため、事業地内には埋蔵文化財が分布していることが予想された。市教委は試掘結果に基づき県と再度協議を行い、地下への掘削で埋蔵文化財が破壊される部分については発掘調査による記録保存をはかることにした。また試掘結果により、遺跡範囲の変更を行い、平成 22 年 4 月の松本市・旧波田町の合併に伴い、旧波田町下原遺跡と和田下原遺跡を統廃合し、波田下原遺跡とした。

発掘調査は、県から松本市が委託を受け、市教委が行なうこととし、平成 23 年度～25 年度に発掘調査と整理作業、平成 26 年度に報告書刊行を行うことにした。

今回の文書記録等は以下のとおりである。

平成 23 年度

- 6 月 3 日 「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知書」(23 松地農整第 60 号)
- 6 月 14 日 「波田下原遺跡並びに和田中西原遺跡に関わる保護意見書」(J630-0614-0001)
- 7 月 1 日 「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」(23 教文 8-57 号)
- 7 月 11 日 「県営畑地帯総合改良事業下原地区埋蔵文化財の保護措置に係る調査費用の見積りについて（依頼）」(23 松地農整第 60-1 号)
- 7 月 12 日 「県営畑地帯総合改良事業下原地区埋蔵文化財の保護措置に係る調査費用の見積りについて（提出）」(J630-0712-0002)
- 7 月 21 日 「委託契約書」
業 務：発掘調査
期 間：平成 23 年 7 月 21 日～平成 24 年 3 月 19 日
- 8 月 15 日 「農地法第 5 条第 1 項の規定による許可申請書」
- 9 月 15 日 「農地法第 5 条第 1 項の規定による許可申請書」
- 9 月 16 日 「農地の転用を伴う使用貸借権の設定許可（8 月 15 日付け申請分）」(長野県指令 23 松地農第 5 号 114)
- 10 月 3 日 和田中西原遺跡、波田下原遺跡発掘調査（～3 月 16 日）
- 10 月 18 日 「農地の転用を伴う使用貸借権の設定許可（9 月 15 日付け申請分）」(長野県指令 23 松地農第 5 号 138)
- 1 月 25 日 「畑地帯総合整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査業務委託の取次決算見込について」(J631-0126-0001)

- 1月31日 「契約の変更について（通知）」(23松地農整第2-29号)
- 2月6日 「変更委託契約書」
- 3月19日 「発掘完了報告書」(J631-0319-0001)
- 3月22日 「発掘調査終了報告書の提出」(J631-0322-0001)
「埋蔵文化財発見届及び埋蔵文化財保管証の提出」(J631-0322-0002)
- 3月27日 「完了検査結果通知書」(23松地農整2-29号)
- 平成24年度
- 4月4日 「埋蔵物の受領及び文化財認定について（通知）」(24教文第20-2号)
「文化財の認定及び県帰属について（通知）」(24教文第20-2号)
- 5月31日 「県営畑地帯総合改良事業下原地区埋蔵文化財の保護措置に係る調査費用の見積りについて（依頼）」(24松地農整第72号)
- 6月4日 「県営畑地帯総合改良事業下原地区埋蔵文化財の保護措置に係る調査費用の見積りについて（提出）」(J630-0604-0004)
- 6月12日 「委託契約書」
業 務：整理作業
期 間：平成24年6月12日～平成25年2月28日
- 9月24日 「出土文化財譲与申請書の提出」(J631-0924-0003)
- 9月27日 「出土文化財の譲与」（長野県教育委員会指令24教文第21-91号)
- 2月28日 「完了報告書」(J631-0228-0001)
- 3月7日 「完了検査結果通知書」(24松地農整2-7号)
- 平成25年度
- 5月21日 「県営畑地帯総合改良事業下原地区埋蔵文化財の保護措置に係る調査費用の見積りについて（依頼）」(25松地農整第61号)
- 5月27日 「県営畑地帯総合改良事業下原地区埋蔵文化財の保護措置に係る調査費用の見積りについて（提出）」(J630-0527-0002)
- 5月31日 「委託契約書」
業 務：発掘調査、整理作業
期 間：平成25年5月31日～平成26年3月21日
- 11月25日 波田下原遺跡発掘調査（～1月31日）
- 1月31日 埋蔵文化財発見届及び埋蔵文化財保管証の提出」(J631-0131-0001)
- 2月5日 「発掘調査終了報告書の提出」(J631-0205-0009)
- 2月18日 「埋蔵物の受領及び文化財認定について（通知）」(25教文第20-106号)
「文化財の認定及び県帰属について（通知）」(25教文第20-106号)
- 3月20日 「完了報告書」(J631-0320-0001)
- 4月3日 「完了検査結果通知書」(25松地農整11-3号)
- 平成26年度
- 4月14日 「県営畑地帯総合改良事業下原地区埋蔵文化財の保護措置に係る調査費用の見積りについて（依頼）」(26松地農整第27号)
- 4月16日 「県営畑地帯総合改良事業下原地区埋蔵文化財の保護措置に係る調査費用の見積りについて（提出）」(J630-0416-0001)

7月17日 「委託契約書」

業 務：整理作業、発掘調査学術報告書作成

期 間：平成26年7月17日～平成27年3月16日

11月18日 「出土文化財譲与申請書の提出」(J631-1118-0003)

12月1日 「出土文化財の譲与について（通知）」(26教文第24-29号)

第2節 調査体制

調査団長：吉江 厚（松本市教育長）

平成23年度（発掘調査）

調査担当者：石井佑樹、吉井 理

調 査 員：熊谷康治

協 力 者：荒井留美子、井口方宏、伊藤節子、今井文雄、大滝清次、柏原佳子、金井秀雄、川崎勝英、木谷昌治、木原恵一、黒崎 奨、小林伸一、佐々木正子、猿楽あい子、澤柳 博、塩原政夫、白鳥文彦、清水陽子、下条ちか子、鈴木 高、鈴木将之、関口 滋、関谷昌也、竹内直美、田島通史、田中重正、田中勇一郎、谷崎 智、鳥井和幸、長岩千晴、中澤温子、西村一敏、林 秋好、前沢里江、待井正和、松林耕司、松本修治、丸山祐司、道浦久美子、宮澤昭敬、宮澤文雄、村山牧枝、沼田和男、望月 速、百瀬泰宏、八木 航、安田津由紀、山崎素行、柳さおり、矢満田伸子

平成24年度（整理作業）

整理協力者：荒井留美子、市川二三夫、内田和子、柏原佳子、佐々木正子、白鳥文彦、竹内直美、竹平悦子、中澤温子、洞沢文江、前沢里江、村山牧枝、八坂千佳、安田津由紀

平成25年度（発掘調査）

調査担当者：三村竜一、片山祐介、山田梨恵

調 査 員：宮嶋洋一

協 力 者：荒井留美子、市川二三夫、内田和子、大滝清次、柏原佳子、黒崎 奨、佐々木正子、竹内直美、茅野信彦、西村一敏、古屋美江、前沢里江、待井正和、道浦久美子、吉澤五美

平成26年度（報告書刊行）

報告書作成：三村竜一、石井佑樹、片山祐介

整理協力者：柏原佳子、前沢里江、安田津由紀、村山牧枝、竹内直美

事 務 局：松本市教育委員会文化財課

塩原明彦（課長 ～ H24.3）、伊佐治裕子（同 H24.4 ～ H26.3）、内城秀典（同 H26.4 ～）、大竹永明（課長補佐・埋蔵文化財担当係長 ～ H25.3）、直井雅尚（主査 ～ H24.3、埋蔵文化財担当係長 H24.4 ～）、竹原 学（埋蔵文化財担当係長 H24.4 ～）、三村竜一（同 H26.4 ～）、竹内靖長（同 H26.4 ～）、久保田 剛（主査 ～ H25.3）、櫻井 了（同 H25.4 ～）、百瀬耕司（主任）、石井佑樹（主事 H26.4 ～）、柳澤希歩（嘱託 ～ H26.3）、吉見寿美恵（同 H26.4 ～）



- | | | | | | | |
|---------|--------|-----------|-----------|--------|----------|-----------|
| (松本市域) | 9 御殿場 | 15 西和田 | (山形村域) | 25 神明 | 31 殿村 | 37 大久保古墳群 |
| 1 波田下原 | 10 五十畝 | 16 和田下西原 | 3 下原 | 26 堀/内 | 32 ヨシバタ | 38 秋葉城址 |
| 2 和田中西原 | 11 権現 | 17 三間沢川左岸 | 4 三夜塚 | 27 北竹原 | 33 中町立道西 | 40 サカイクボ |
| 5 波田下島 | 12 平林 | 18 和田西原南 | 21 三間沢川左岸 | 28 穴観音 | 34 名籠 | |
| 6 葦原 | 13 麻神 | 19 川西開田 | 22 三間沢川右岸 | 29 本郷 | 35 宮村 | |
| 7 上野 | 14 柳原 | 20 埴窪 | 23 唐沢 | 30 四ツ谷 | 36 中原 | |
| 8 見付久保 | | | 24 北唐沢 | | | |

第1図 調査地の位置と周辺遺跡

第二章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

1 遺跡付近の地形と地質の概観

波田下原遺跡・和田中西原遺跡は南北に長い松本盆地の南西部に位置する。地質的にも松本盆地の第四紀層地域に属している。長野県内で最も広い松本盆地は、更新世中期に起きた造盆地運動で誕生した構造性の盆地である。松本盆地形成については「波田町誌 自然民俗編」に詳しいため引用する。「松本盆地が形成される以前は飛騨山脈（西山）とフォッサマグナ側の筑摩山地（東山）とは地形的に連続していたと考えられ、その地表面は第三紀末から更新世前期にかけて準平原化され比較的なだらかな地形を呈し、山砂利の堆積も行われた。しかし、東西両山地の間は中生代末から地質的には不連続で、糸魚川静岡構造線に沿った断層活動が行われた。特に更新世の中頃には南北方向とこれに斜向する断層活動があり、いくつかの地塊が形成された。これらの地塊は東西両山地に対しては、相対的に沈降した。この時落差の大きい地塊の部分には盆地が形成され、落差が小さかった部分では両側の山地は地形的に今でも接し合っている。盆地の部分では、山砂利を最低位にして第四紀層が厚く堆積し今日に至っている。」^[1]

2 遺跡は、松本盆地の南西部を東北東方向へ流れる梓川によって形成された扇状地上で、波田面と呼ばれる段丘面の上のっており、東へ緩く傾斜し、標高は650～680m付近である。梓川の扇状地面は、さらに河岸段丘で穿たれているのが特徴で、梓川右岸では高位段丘面の波田面、中位段丘面の森口面、低位段丘面の上海渡面及び現河床の氾濫原である押手面が形成されている。波田面は波田堰付近を境にして、標高の高い西側の方は1000分の60位の急勾配で、その上部はさらに急な唐沢川扇状地に続いている。現在は集落や畑地が多い。対して2遺跡が位置する堰より東側の方は1000分の20位の緩傾斜で集落は少なく、基盤整備された水田が主である。

波田面は梓川の古い堆積物である波田礫層を波田ロームが厚く覆っている。波田ロームは乗鞍火山の古い火山灰が風化して赤土となったものである。

2 発掘地点の地形と地質

波田下原遺跡の発掘地点は波田地区の山形村との境界際である。南の山形村側には東西方向に長くのびる凹地状の浅い谷があり、旧唐沢川流路（以下、推定旧唐沢川と記載する。）と推定されている^[2]。この推定旧唐沢川の左岸に山形村下原遺跡があり、波田下原遺跡はその縁辺にあたる。行政区分上、山形村内で下原遺跡、松本市内で波田下原遺跡と命名されているが、一続きの1遺跡である。

和田中西原遺跡は、そこから400mほど北東に位置する。

2 遺跡の発掘地点の周辺は、地域の方々の話によると、構造改善以前は小丘陵の多い凸凹した土地で松林となっており、山形村下竹田地区から和田地区へ向かう（南西から北東方向の）道があったという。現在は、3度にわたる構造改善により、林も切り開かれ、碁盤目状の平坦な農地となっている。そのため農閑期に強風が吹くと多量の土が巻き上げられるという問題も起こっている。耕作者によると、毎年春先の強風により30cm程の厚さの耕作土が失われ、麦を植えるなどして対策をしておくで飛来した土が堆積してしまうという。発掘調査地の一部では遺物包含層が確認できたが、概して構造改善に伴う削平が著しく、耕作土直下は地山のローム層となっていた。

第2節 歴史的環境

波田下原遺跡・和田中西原遺跡の周辺に分布する遺跡について、山形村内の遺跡を含めて歴史的環境を概観する(第1図)。なお、煩雑を避けるため、遺跡名はゴシック体で表示し、「遺跡」は省略して記載する。

旧石器時代

旧石器時代の遺跡としては唐沢川左岸の三夜塚(4)から局部磨製石斧が2点発見されている。遺跡の様相は不明である。

縄紋時代

縄紋時代は多くの遺跡の存在が知られている。波田面には、平林(12)、五十畝(10)、権現(11)、麻神(13)、見付久保(8)、御殿場(9)、和田下西原(16)、下柳原(14)、森口面では、波田下島(5)、葦原(6)、上野(7)、唐沢川流域を上流から辿ると、左岸に北唐沢(24)、神明(25)、北竹原(27)、堀ノ内(26)、三夜塚、下原(3)、右岸には唐沢(23)、四ツ谷(30)、殿村(31)、本郷(29)、三間沢川流域では、左岸に中町立道西(33)、ヨシバタ(32)、三間沢川左岸(山形村)(21)、和田西原南(18)、右岸に三間沢川右岸(22)、川西開田(19)、西山山麓には穴観音(28)、名籠(34)、宮村(35)と分布するほとんどの遺跡で縄紋土器や石器等の遺物が確認されている。このうち、波田下島で前期末の堅穴建物址が調査されている。葦原では中期の堅穴建物址、中期末～後期初頭の敷石住居及び後期の平地住居などが調査されている。上野、麻神でも中期の堅穴建物址が調査されている。現在東京国立博物館収蔵の下波田出土土器は、明治時代に麻神で発見された³⁾と伝わっている。唐沢では前期中葉の堅穴建物址が発見されている。殿村、三夜塚、下原では中期中葉～後葉の拠点的な集落が発見されている。ヨシバタで前期・中期の集落が確認されているほか、中町立道西、和田西原南、川西開田で中期の堅穴建物址などが調査されている。名籠では前期末～中期後葉の集落が調査されている。

弥生時代

現在までに知られている遺跡は少ない。平林、麻神、唐沢、殿村、中町立道西、ヨシバタ、境窪(20)がある。三間沢川右岸に位置する境窪では、中期中葉の集落跡や墓址が調査されており、松本平への弥生文化伝来期の遺跡と捉えられている。三間沢川左岸のヨシバタで後期の集落が確認されているほか、中町立道西で同期の土器が出土している。唐沢川流域では、殿村で後期の方形周溝墓、唐沢で中期中葉前半の土器が出土している。

古墳時代

古墳時代の遺跡は、現在まで波田地区では確認されていない。ただし「土地の古老は平林地籍の南の縁あたりに、かつて数基の円墳が築かれていたと話された⁴⁾。」との記録がある。山形村上竹田に8世紀代の5基の小型円墳からなる大久保古墳群(37)がある。ただしこれに関連する集落跡は未発見である。唐沢川右岸に本郷があるが詳細は不明である。『延喜式』にみえる御牧であり、その後洞院家の荘園となった大野牧が波田から山形村にかけての水沢山東麓の台地一帯に比定されており、これらの古墳の被葬者は大野牧につながる人々ではないかと考えられている⁵⁾。新村には同じく8世紀代の安塚古墳群があり、新村、鳥立、波田、和田及び神林に比定されている大井郷の開発者が被葬者として考えられている⁶⁾。三間沢川右岸の川西開田で前期の土器がまとまって出土しているが、集落跡は未発見である。

平安時代

広範囲に遺跡が分布している。平林、見付久保、御殿場、波田下島、葦原、殿村、本郷、中町立道西、ヨシバタ、境窪、川西開田、三間沢川左岸(松本市)(17)がある。三間沢川流域での集落の展開が著しい。三間沢川左岸(松本市)で9～10世紀代、川西開田では9～12世紀代の大集落が発見されており、この時期に付近で大規模な開発があったことが知られている。そのほかに中町立道西で11世紀初頭の堅穴建物址、

ヨシバタで9～11世紀の集落が調査されている。唐沢川流域では、殿村で堅穴建物址がまとまって発見されている。葦原の調査では平安後期の堅穴建物址が発見されている。

中世以降

葦原、名菴、中町立道西、川西開田がある。名菴では鎌倉期の集落と室町期の墓城が、川西開田では12世紀末～16世紀初頭にかけての大規模な墓城が調査されている。下原地区の下原霊園隔には戦国時代の細郷郷司であった「腰孫右衛門信政の墓との伝承の異塚(39)」がある。その他には城館址として秋葉城址(38)がある。

第3節 過去の調査

平成12年に和田中西原遺跡・波田下原遺跡(調査時の遺跡名は和田下原遺跡)第1次調査が行われ、波田下原遺跡では縄紋時代中期の土坑・ピット群(波田下原遺跡第1次調査、山形村域の下原遺跡では、穴の規模が長径50cm以上を土坑、それ未満をピットに分類している。)が確認されている。

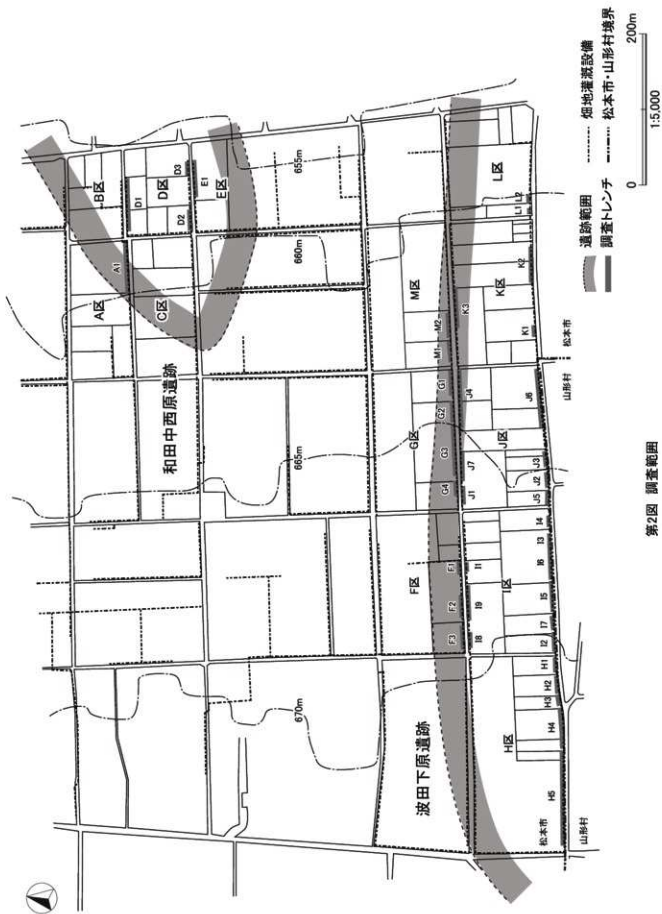
平成19年には山形村教育委員会により、下原遺跡第1次調査が行われ、縄紋時代中期後葉の集落址が確認されている。発見された堅穴建物址(堅穴住居址)は22軒を数え、そのほかに土坑123基、ピット160基が調査されている。それらの遺構からは、堅穴建物址を中心として多数の縄紋時代中期の土器・石器類が出土している。特筆される遺物には、ほぼ完形の有孔罅付土器がある。

註

- (1) 平林照雄「第1章 地形地質」『波田町誌 自然民俗編』より引用、一部語句変更
- (2) 和田和哉「Ⅱ 遺跡の立地と歴史的環境」『三夜塚遺跡Ⅲ』
- (3) 桐原健「信濃国東筑摩郡波多村発見の土面」2011『考古研究』第41号
- (4) 桐原健「第二章 古代 第一節 考古学的にみた古代」『波田町誌 歴史現代編』
- (5) 中川治雄「第二章 古代 第五節 大野牧」『波田町誌 歴史現代編』
- (6) 中川治雄「第二章 古代 第四節 大井郷と波田」『波田町誌 歴史現代編』
- (7) 百瀬光信「第三章 中世 第四節 戦国時代」『波田町誌 歴史現代編』

参考文献

- 波田町誌編纂委員会編 1983 『波田町誌 自然民俗編』
波田町誌編纂委員会編 1987 『波田町誌 歴史現代編』
波田町教育委員会 1995 『下島(梓川高校敷地内)遺跡』
山形村教育委員会 2002 『三夜塚遺跡Ⅲ』
山形村教育委員会 2007 『名菴遺跡』
山形村教育委員会 2009 『下原遺跡 三夜塚遺跡Ⅳ』
山形村教育委員会 2012 『ヨシバタ遺跡』



第2図 調査範囲

第三章 調査の概要

1 調査地の設定（第2図）

事業対象地の範囲内で、事前の試掘調査の成果に基づき、遺構・遺物の存在が予想される地点を調査対象地とした。畑地灌漑設備（水道管）の埋設に伴う調査のため、調査地は一般的に行われている平面的な形状ではなく、わずか幅1m程の溝状のトレンチである。

同一事業に伴う一連の調査であるため、調査区名は両遺跡、調査次を通じて一続きの名称とした。便宜上、道路によって方形に区画されている調査対象地をA～M区とした。トレンチの名称は調査区毎に1から掘削の順にNo.を付した。（例えばI区で2番目に掘削したトレンチはTI-2と名付けた。略称はI2とした。）調査面積は和田中西原遺跡234㎡、波田下原遺跡1,221㎡、計1,455㎡である。

2 調査方法

各トレンチは建設用機械バックホーで表土～遺物包含層を除去した。遺構の検出・掘り下げ・記録は人力で行った。遺構図・遺物出土図等の平面記録は、簡易遣り方測量で行った。土層断面図・遺物出土状況図・完掘状況図は原則1/20の縮尺で実測し、必要に応じて詳細図を1/10の縮尺で作成した。測量基準点は、国家座標の世界測地系第Ⅷ系 X=21414.499, Y=-54482.887, H=656.548mを原点としている。

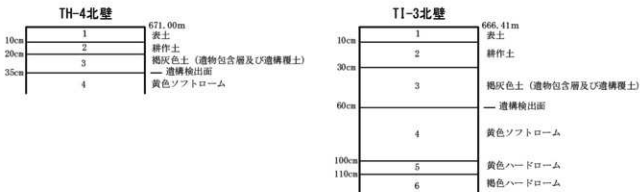
3 検出遺構・遺物

(1) 波田下原遺跡 堅穴建物址25軒（縄紋）、土坑48基（縄紋か）、溝2条（古代1・不明1）が確認され、縄紋土器、石器・石製品、土師器、須恵器が出土した。近現代の削平等により、遺存状況は極めて悪い。波田下原遺跡は推定旧唐沢川の左岸に沿って、南北300m、東西1,700m程の広範囲にひろがる縄紋時代の大規模遺跡とされており、北西部の遺構の遺存状況、分布状況等を解明する手掛かりを得た。

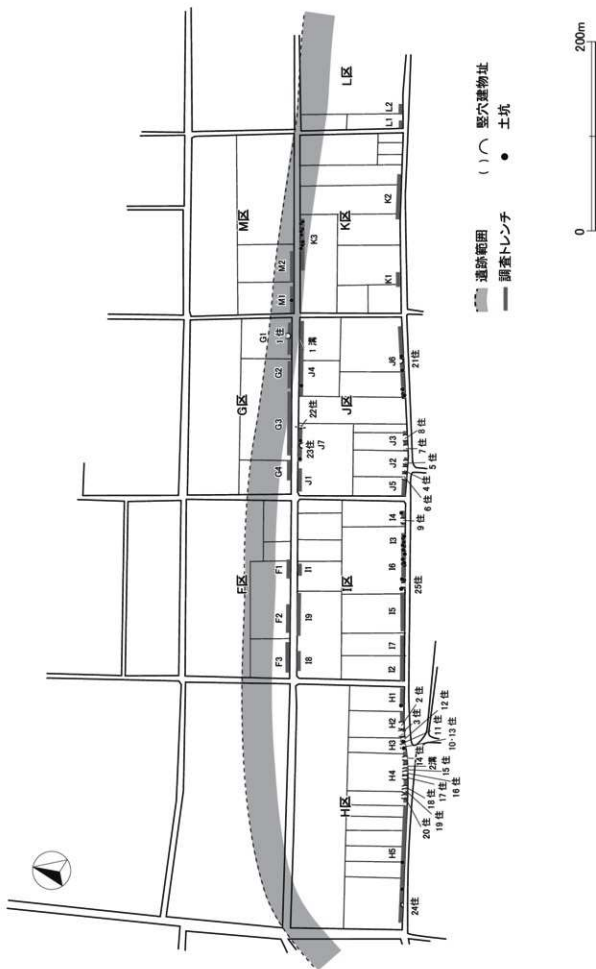
(2) 和田中西原遺跡 遺構・遺物は皆無であった。遺物包含層は存在せず、耕作土直下に黄色ソフトローム層が認められた。近現代の耕作や造成による削平等により、遺跡が消失している可能性がある。

4 基本土層（第3図）

調査範囲は南北550m、東西1,000m程に及ぶ。削平により消失している部分もあるが、ほぼ全域に褐色ハードローム（6層）、黄色ハードローム（5層）、黄色ソフトローム（4層）、褐灰色土（3層）、耕作土（2層）、表土（1層）の堆積が推測された。縄紋時代・古代の遺構が掘り込まれる6～4層に微量のスコリア等の火山噴出物が検出された。後期旧石器時代以前の火山起源物質が粘土化した地層と考えられる。5層と4層間是不整合で波状帯になる。3層は遺物包含層及び遺構覆土で、基本的に4層上面を遺構検出面とした。調査地はほぼ全域に長茅等の生産に伴う溝状の掘削（攪乱）が無数に並び、その深さは大多数の遺構の床面や底面下まで及んでいる。



第3図 基本土層図



第4図 波田下原遺跡 概要図

第四章 検出遺構

トレンチは40ヶ所設定し、延長1,780m、面積1,455㎡を調査した。このうち波田下原遺跡の範囲内に設定したG～K、M区の6調査区で縄紋時代の遺構が検出された。H区では古代の遺構も検出された。

和田中西原遺跡内の事業対象地は、これまで縄紋時代、古代の遺物包含層、遺構が存在するとされていたが、遺構・遺物は残存せず、4万㎡を超える範囲が削平等により消失している可能性が極めて高い。

波田下原遺跡の範囲内でも、調査地東側のK・L両区南側、西側のF区～I区西側一帯は1万㎡を超えて遺構が消失しているものと思われる。以下、検出した遺構を種別毎に概観したい。

1 竪穴建物址（第1表、第8～15図） 縄紋時代中期中葉～中期後葉の竪穴建物址25軒が確認された。

平面形態 調査地幅が狭く、平面形態は把握できなかった。

規模 推定可能な3軒は、直径6.3m（2住）、8.8m（7住）、5.2m（20住）の規模を測る。

覆土 覆土は主に褐灰色土及び黒褐色土が堆積していた。炭化した建物構材等は検出しておらず、焼失家屋と推定される例はない。人為的な埋没はピット等の付属施設を除いてみられない。

床面 貼床は11軒で認められた。床面に貼床が施されたものは1・3・5・10・12・14～17・19・25住である。そのうち1・5・12住の3軒では、貼床下からピットが検出された。貼床が施されない14軒は地山のハードローム層、ソフトローム層をそのまま床としている。平面形態、柱配置、床面の関連性は不明である。

炉 幅1mの狭い調査区にも関わらず、13軒で石囲炉が確認された。ほとんどの石囲炉は緑石の一部もしくは全てが除去された状態で検出され、緑石が火床上で検出される例が複数認められた。今回は床面からの掘り込みが無いため炉址として扱わなかったが、17住では床面の一部が激しく被熱し、焼土化していた。未検出の他の竪穴建物址に伴う炉址、あるいは17住に伴う類似施設の可能性もある。

ピット 柱穴と推定されるピットは径17～58cm、深さ30～70cmを測る。圧力を受け底面及び壁面が硬化するものが多い。貯蔵穴等と推定されるピットには8住のP1・2、18住のP1等がある。8住のP1・2は側壁が床面よりひろがってオーバーハング状になり、断面形は袋状を呈する。このうちP1は複雑な堆積状況がみられた。覆土上層の掘り下げの際には、同心円状に炭化物が認められ、全体に微細な黒曜石片が多数含まれていた。P1の13層以下は、未検出の土坑の可能性もある。

柱配置 平面形態と柱配置の関連性は不明であり、柱配置を推定できるものはほとんど存在しない。

遺物出土状況 ほとんどが畑地の造成や長芋栽培に伴う掘削を床面下まで受けており、多くの遺物が廃棄時の位置を留めず、攪乱土や表土から出土した。このため遺存状況の良い遺物は非常に少ないが、縄紋土器の一括出土が8住P1・2で認められた。P1ではほぼ完形の縄紋土器深鉢（No.39）が底面に正位に置かれた状態で出土している。P2でもほぼ完形の縄紋土器深鉢（No.40）が横倒しの状態で覆土上層から出土している。

埋壘 帰属時期から埋壘を伴うものが多数あると推定されるが、耕作による破壊等により消失した可能性が高く、全く検出していない。

分布状況 今回の調査地は幅1m程であることに加え、近現代の畑地造成等による削平によって、遺構包含層、遺構群が消失していると推定される範囲が広い。このため今回の調査結果が本来の分布状況を示している可能性は低いが、得られた成果から推測を試みたい。

竪穴建物址の密集域はH区南東部、J区南西部の2カ所に認められる。H区南東部には2住他全13軒の竪穴建物址があり、東西80m程のひろがりがある。所属時期は縄紋時代中期中葉～後葉（井戸尻式Ⅲ式期～唐草紋系土器第4段階）である。東に接するI区は削平により遺構が消失した一帯で、更に竪穴建物群がひろがっていた可能性がある。J区南西部には4住他全5軒の竪穴建物址があり、東西40m程のひろがり

がある。所属時期は縄紋時代中期中葉～後葉（井戸尻式Ⅲ式期～唐草紋系土器第3段階）である。東方には40m程の未調査部があり、その先には土坑集中域がある。未調査部の範囲内に竪穴建物址集中域の東端・土坑集中域の西端があると考えられる。この2カ所の竪穴建物址の密集域は、遺跡全体が概ね東緩斜面上に立地しているため、等高線の直交方向にのびていることになる。また明確ではないもののJ区北西端部では、多数の縄紋土器片が畑の地表面に散布しており、耕作者の「この辺りに十数基のいりりがあった。」という情報もある。一方、単独で検出された竪穴建物址は、G区南東隅の1住、J区南東隅の21住、H区南西端の24住等の数軒があり、遺跡の縁辺部に多い傾向がある。

2 土坑（第2表、第16・17図）

総数48基が確認された。今回の調査では、規模の大小にかかわらず単独の穴を土坑とした。出土遺物、検出状況等から、ほとんどが縄紋時代中期後葉に属するものと推定される。比較的少数だが、集中域はK区北端部、I区南東部、J区南東部の3カ所にある。I区南東部はJ区南西部の竪穴建物址密集域に近接するものの、それらとの重複はほとんど見られない。

平面形態は不明のものを除くと、円形に類するものが最も多く28、次いで楕円11、方形2、不整形2を数える。規模は長径で18～258cmを測る。ほとんどが地山の褐色ハードローム層又は黄色ハードローム層をそのまま底面とするが、一部に貼底を行なうものがある。また大多数が堆積状況から自然埋没と推定されるが、例外的なものに9土があり、覆土中に炭化物の多量混入層が螺旋状に堆積していた。その成因は不明だが自然埋没に起因するものとは考え難い。遺物の一括出土例は少ないが、3土では縄紋土器深鉢（No.80）の上半部破片が底面上にひろがって出土している。

3 溝（第17図）

J・H区でそれぞれ1条の溝が検出された。

(1) 第1号溝

TJ4で検出した。人為的に掘られたものと推定される。規模は不明だが、西南西から東北東に向かって直線的にのびている。幅は30cm程を測り、長さ4.8mを調査した。2枚の硬化面、あるいは2層構造の1枚の硬化面を伴う可能性がある。上層面は黒褐色土に黄色・褐色・褐灰色の土塊が混入した状態で硬化し、マーブル模様を呈していた。下層面は明黄褐色土が硬化したもので、竪穴建物址の貼床に酷似していた。意図的に運び入れた土を硬化させた可能性もある。覆土には流水、滯水の痕跡を示す堆積物等は認められなかった。出土遺物はなく、帰属時代、用途は不明である。

(2) 第2号溝

TH4で検出された。推定旧唐沢川から北に150m程の位置にあたる。わずかに長さ80cm程を検出したのみだが、幅約3m、深さ1m以上を測る大型の溝である。覆土の最下層には砂礫が堆積していた。兩岸の黄色土の斜面は硬化し、黒褐色土塊等が混在することから人為的な形成と推測される。今回確認された中では、古代に属する唯一の遺構である。

本址は形状、堆積状況等から導水を目的とした水路の可能性が高く、計画的な大規模土木工事によって掘られた溝と推定したい。調査部分が狭小のため、流れの方向は明確ではないが、東緩斜面上をほぼ直交して北を指しており、本遺跡内あるいは近隣の集落や耕作地等に向かっていたものと推測される。同様の水路は波田下原遺跡の南東に近接する三間沢川左岸遺跡でも確認されている。

遺物の出土量は比較的多く、覆土上層から土師器・須恵器片が出土した。松本地域の同時期の遺跡に比べ、墨書土器の比率が高い。開発時期は不明だが、出土状況から9世紀後半頃に埋没し、廃絶した可能性が高い。

第1表 竪穴建物址一覧表

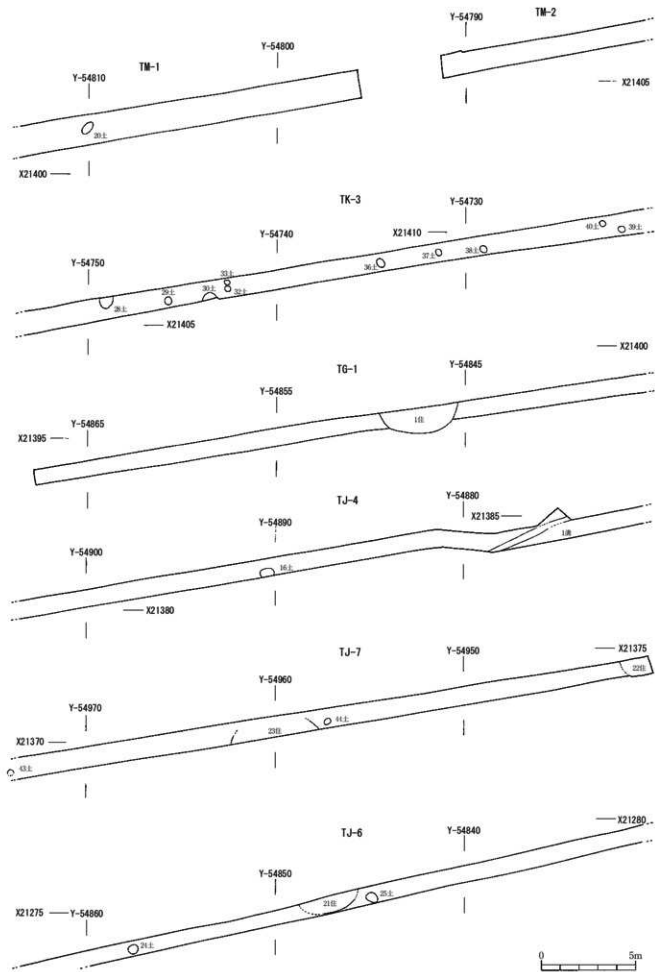
〈残存値〉

No.	図No.	次数 トレンチNo.	平面形 長軸方位	長軸×短軸×深(cm) 床面積(㎡)	伊形態 主柱穴	本址より旧		時期	備考
						本址より旧	本址より新		
1	8	2		<430>×<140>×26				新運式期	遺物は西南部に集中。 貼床下からP4・5を検出。
		TH-1		<395>	P1~P3				
2	8	2		<620>×<70>×20	石圍伊(P1)			唐草紋系土器 第2段階	周溝あり。 床面は軟弱。
		TH-2		<387>	P2か				
3	9	2		<655>×<58>×<38>	石圍伊			唐草紋系土器 第3段階古相	貼床、周溝あり。
		TH-2・3		<385>					
4	9	2		<490>×<120>×20	石圍伊			唐草紋系土器 第2段階古相	覆土中に炭化物多量混入。 周溝あり。床面は堅固。
		TJ-2		<320>	P1				
5	10	2		<272>×<76>×10				唐草紋系土器 第2段階新相	貼床、周溝あり。 貼床の下からP2を検出。
		TJ-2		<157>	P1				
6	10	2		<560>×<82>×26				唐草紋系土器	床面は堅固。
		TJ-2・5		<350>	P3				
7	11	2		<780>×<60>×41				唐草紋系土器 第1段階	土俵の片足破片出土。 床面は軟弱。
		TJ-3		<482>	P1・P3・P4・ P7・P8				
8	12	2		<510>×<64>×35				井戸尻式甕式 期	周溝あり。P1・P2は貯蔵穴か。 P2から多量の土器・石器片出土。
		TJ-3		<306>	P3				
9	10	2		<492>×<65>×10	石圍伊			唐草紋系土器 第3段階	床面は軟弱。
		TI-4		<319>					
10	11	2		<525>×<90>×18	石圍伊(P2)	11住		唐草紋系土器 第3段階	貼床、周溝あり。
		TH-3		<438>	P1	13住			
11	11	2		<131>×<83>×36	石圍伊			唐草紋系土器 第3段階	周溝あり。 床面は堅固。
		TH-3		<109>	P3	10住・12住			
12	12	2		<175>×<64>×11		11住		唐草紋系土器 第2~3段階	貼床あり。 貼床の下にP1~3を検出。
		TH-3		<99>					
13	11	2		<340>×<28>	石圍伊	10住・11住			伊のみ調査。
		TH-3		<14>					
14	13	2		<422>×<83>×20	石圍伊(P1)			中期後半か	貼床下から伊を検出。 伊の覆土から土俵の破片出土。
		TH-4		<316>	P2				
15	13	2		<372>×<81>×<22>	石圍伊(P1)			唐草紋系土器 第1段階	貼床あり。
		TH-4		<268>		16住・2溝			
16	13	2		<320>×<72>×<10>				唐草紋系土器 第2段階	貼床あり。
		TH-4		<223>	P1	15住			
17	13	2		<322>×<80>×20	地床伊か			唐草紋系土器 第1段階	貼床あり。 床面の一部が被熱、焼土化する。
		TH-4		<246>		16住			
18	14	2		<246>×<77>×18	石圍伊			唐草紋系土器 第4段階	床面は軟弱。
		TH-4		<168>		19住			
19	14	2		<570>×<96>×18	石圍伊(P2)	18住		井戸尻式甕式 期~唐草紋系 土器第1段階	貼床、周溝あり。 床面は堅固。
		TH-4		<471>	P4				
20	14	2		<490>×<102>×30	石圍伊(P2)			唐草紋系土器 第4段階	周溝あり。
		TH-4		<486>	P1・P3				
21	15	3		<310>×<82>×20					壁は不明瞭。床面は軟弱。 規模から竪穴建物址とした。
		TJ-6		<214>	P1・P2				
22	15	3		<130>×<120>×25				新運式期	床面は堅固。
		TJ-7		<185>	P1				
23	15	3		<242>×<58>×18					壁は明瞭。 床面は堅固。
		TJ-7		<211>	P2~P4				
24	15	3		<330>×<75>×24					規模から竪穴建物址とした。 床面は軟弱。
		TH-5		<151>					
25	15	3		<254>×<123>×15	石圍伊			唐草紋系土器 第2段階	貼床、周溝あり。
		TI-6			P1				

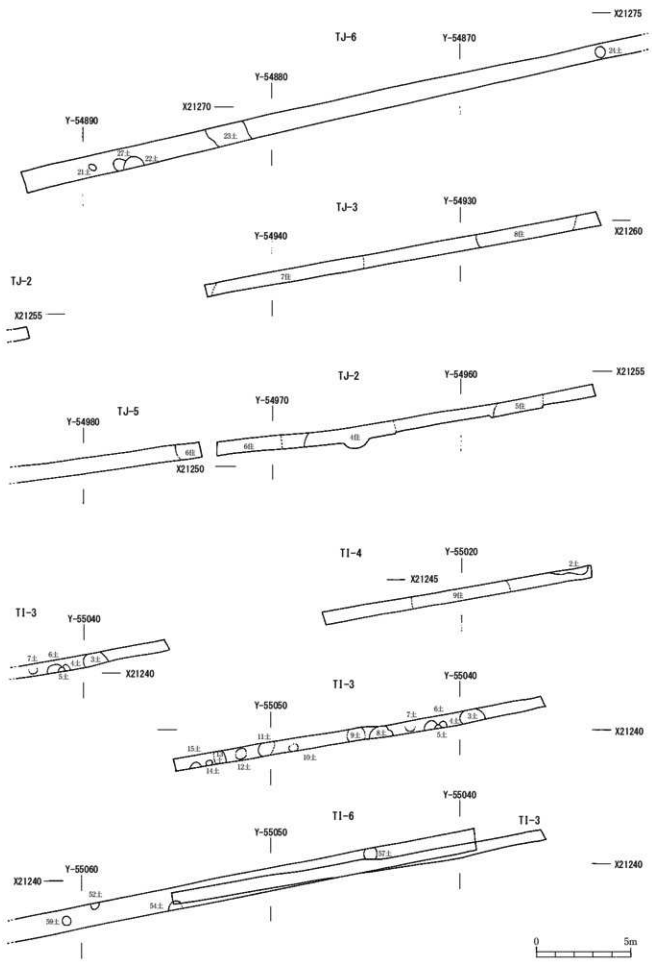
第2表 土坑一覧表

(推定値)

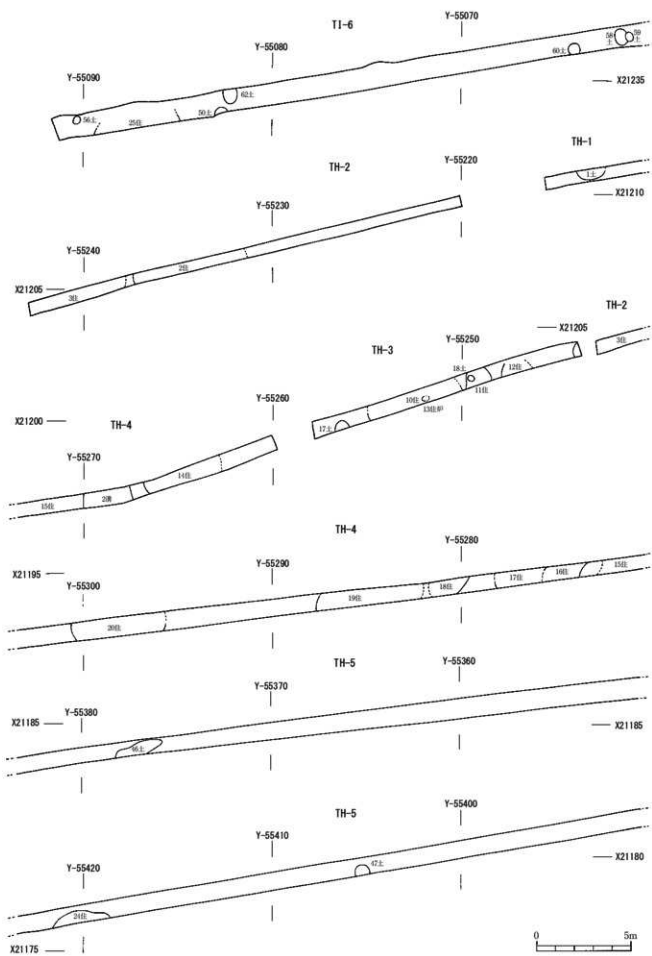
No.	図No.	次数	トレンチNo.	平面形	長×短×深(cm)	本址より旧	本址より新	出土遺物	備 考
1	16	2	TH-1	楕円	(150)×(57)×24			唐草紋系土器	覆土に黄色ローム混入。
2	16	2	TI-4	不整	(198)×(35)×48				
3	17	2	TI-3	楕円	130×(62)×32			唐草紋系土器第1段階 (No.80)・石器	
4	16	2	TI-3	円か	(30)×33×30		5土		壁面硬化。
5	16	2	TI-3	円か	60×(19)×95	4・6土		唐草紋系土器・石器	
6	16	2	TI-3	円か	83×(50)×20		5土	唐草紋系土器	
7	16	2	TI-3	不明	(58)×(48)×33			唐草紋系土器・石器	遺物は上層から出土。底面硬化。
8	16	2	TI-3	円か	155×(63)×83			唐草紋系土器・石器	底面上に3cm厚の黒色硬化土。
9	16	2	TI-3	円か	97×(67)×52			唐草紋系土器第2段階・石器	螺旋状の炭化物層あり。人為堆積か。
10	16	2	TI-3	円か	56×40×35			唐草紋系土器第2～3段階・石器	底面は僅かに硬化。
11	16	2	TI-3	円か	(62)×(69)×45			唐草紋系土器第2段階	
12	16	2	TI-3	楕円	(58)×41×38			唐草紋系土器・石器	底面直上に焼土・炭化物を検出。
13	16	2	TI-3	不明	(55)×(45)×13			唐草紋系土器・石器	貼底あり。
14	16	2	TI-3	楕円	(25)×21×11				貼底あり。壁面も3cm厚の硬化。
15	16	2	TI-3	円か	(75)×(30)×59			唐草紋系土器	人為堆積か。
16	17	2	TJ-4	円か	62×(37)×56				炭化物出土。壁・底面が硬化。
17	17	2	TH-3	円か	72×(47)×36				
18	2	TH-3	円か	(43)×(50)×47	11住				
20	3	TH-1	楕円	56×26×14					覆土はしまりの弱い暗褐色土。
21	3	TJ-6	楕円	44×25×18					覆土はローム粒と暗褐色土粒の混合土。
22	3	TJ-6	円か	105×(58)×15	27土				
23	3	TJ-6	不明	(100)×(180)×20					
24	3	TJ-6	楕円	57×40×20					
25	3	TJ-6	楕円	53×40×26					底面はやや硬化したローム。
27	3	TJ-6	円か	(48)×(46)×20			22土		
28	3	TK-3	不整	(52)×54×22					自然由来(植物の根痕か)の可能性あり。
29	3	TK-3	楕円	35×25×12					覆土はしまりの弱い暗褐色土。
30	3	TK-3	楕円	80×(35)×16					
32	3	TK-3	円か	20×(12)×13					
33	3	TK-3	円か	18×(13)×9					
36	17	3	TK-3	円	45×45×76				柱痕を有する。底面に黒褐色土。
37	3	TK-3	円	28×26×17					覆土は暗褐色土。
38	3	TK-3	円	36×30×10					
39	3	TK-3	円	28×24×13					覆土はしまりの弱い暗褐色土。
40	3	TK-3	円	28×24×19					底面に黒褐色土の混入したローム。
43	3	TJ-7	不明	24×(8)×23					底部に暗褐色土の混入したローム。柱痕か。
44	3	TJ-7	円	24×20×18					
46	3	TH-5	不整	258×(78)×34					
47	3	TH-5	円か	(54)×70×23					
50	17	3	TI-6	円か	65×(28)×47以上			唐草紋系土器・石器	断面形は袋状を呈する。底面は未確認。
52	3	TI-6	方	(25)×35×19					底面の一部にロームブロック混入。
54	3	TI-6	方	(55)×(30)×37					底面はやや硬化したローム。
56	3	TI-6	円	26×26×12					覆土はしまりの弱い暗褐色土。
57	3	TI-6	円	55×(48)×26				唐草紋系土器	
58	3	TI-6	楕円	90×68×13			59土		
59	3	TI-6	円	40×34×14	58土				
60	3	TI-6	円	(58)×59×34					覆土はしまりの強い暗褐色土。
62	3	TI-6	円	(62)×58×38					覆土はしまりの強い暗褐色土。



第 5 図 遺構配置図 (1)

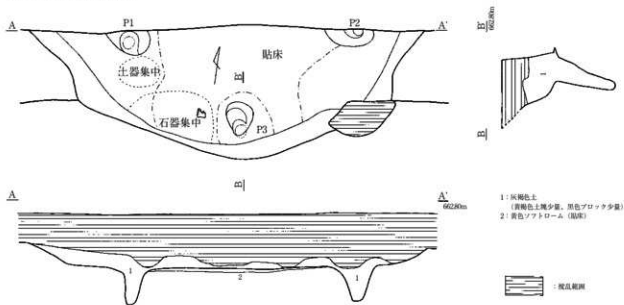


第 6 図 遺構配置図 (2)

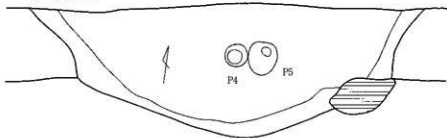


第7図 遺構配置図(3)

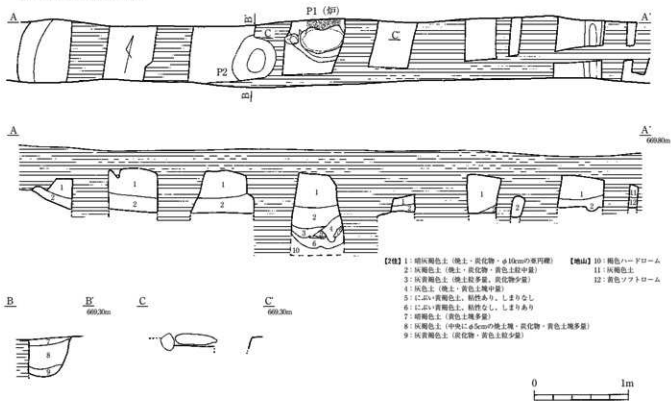
第1号竪穴建物址 (TG-1)



2面 (貼床下)

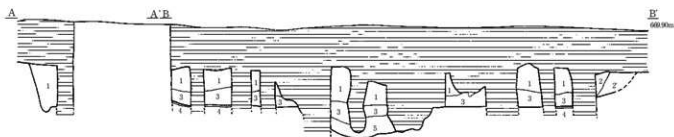
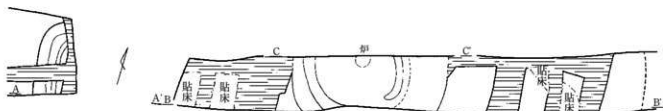


第2号竪穴建物址 (TH-2)

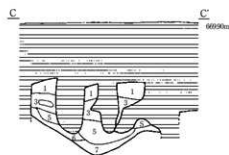


第8図 竪穴建物址 (1)

第3号竖穴建物址 (TH-2・TH-3)

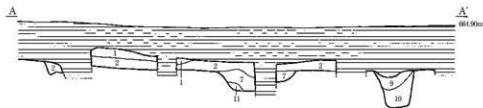
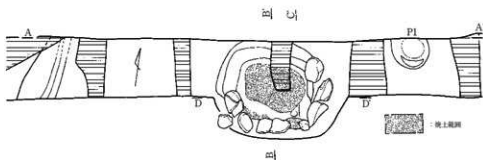


炉 出土状況

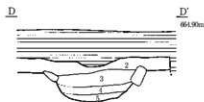
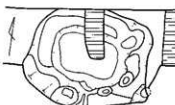


- 1: 褐色～灰青褐色土 (灰化物少量) 粘質
- 2: 灰青褐色土 (黄褐色土粒中量) 粘質, しまりあり
- 2': 灰青褐色土 (黄褐色土粒多量) 粘質, しまりあり
- 3: 赤褐色土 (黄褐色土粒少量) 中粘質, しまりあり
- 4: 赤色ソフトローム (粘質)
- 5: 褐色土 (黄褐色土粒中量, 灰化物少量) 粘質, しまりあり
- 6: 灰青褐色土 (黄褐色土粒少量, 灰化物少量) 粘質, しまりあり
- 7: 灰青褐色土 (粘土多量, 灰化物少量, 黄褐色土粒少量) 粘質, しまりあり

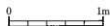
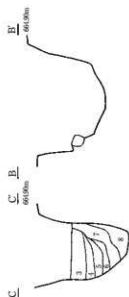
第4号竖穴建物址 (TJ-2)



炉 完掘状況

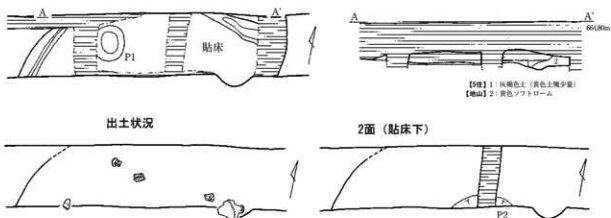


- 1: 灰褐色土 (黄褐色土粒少量, 灰化物中量)
- 2: 暗褐色土 (灰化物中量, 粘土少量)
- 3: 暗褐色土 (灰化物中量)
- 4: 暗褐色土 (灰化物少量, 粘土少量)
- 5: 暗褐色土 (粘土粒多量)
- 6: 粘土 (硬化)
- 7: 黄色土 (硬化) 褐色土が腐植層状に入る
- 8: 褐色土 (硬化)
- 9: 暗褐色土 (灰化物・粘土中量)
- 10: 灰褐色土 (黄褐色土塊・灰化物少量)
- 11: 黄色ソフトローム

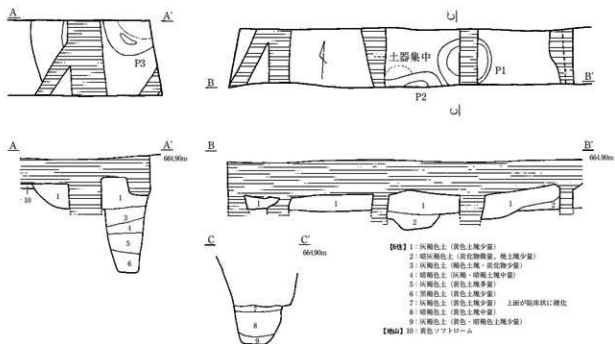


第9図 竖穴建物址 (2)

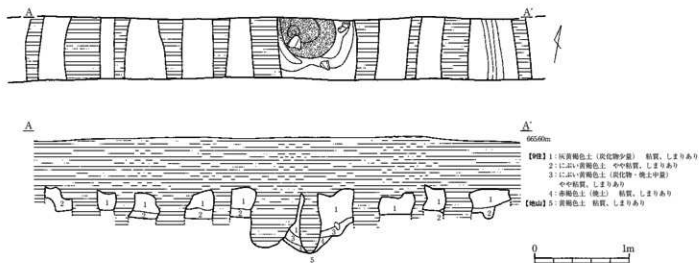
第5号竪穴建物址 (TJ-2)



第6号竪穴建物址 (TJ-2・TJ-5)

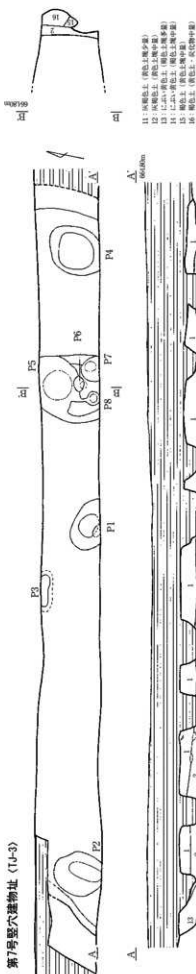


第9号竪穴建物址 (T1-4)



第10図 竪穴建物址 (3)

第7号竪穴建物址 (TJ-3)

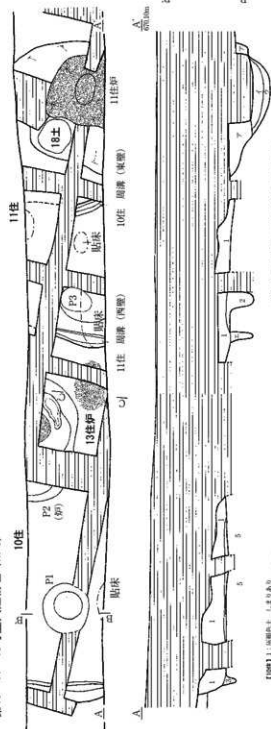


- 11: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 12: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 13: 1.5m中黄褐色土 (褐色土層少量)
- 14: 1.5m中黄褐色土 (褐色土層少量)
- 15: 灰褐色土 (褐色土層少量)

- 6: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 7: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 8: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 9: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 10: 灰褐色土 (褐色土層少量)

- 【TJ3】1: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 2: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 3: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 4: 黄褐色土 (褐色土層少量)
- 5: 黄褐色土 (褐色土層少量)

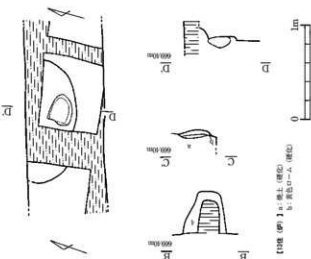
第10・11・13号竪穴建物址 (TH-3)



- 【TH3】1: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 2: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 3: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 4: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 5: 灰褐色土 (褐色土層少量)

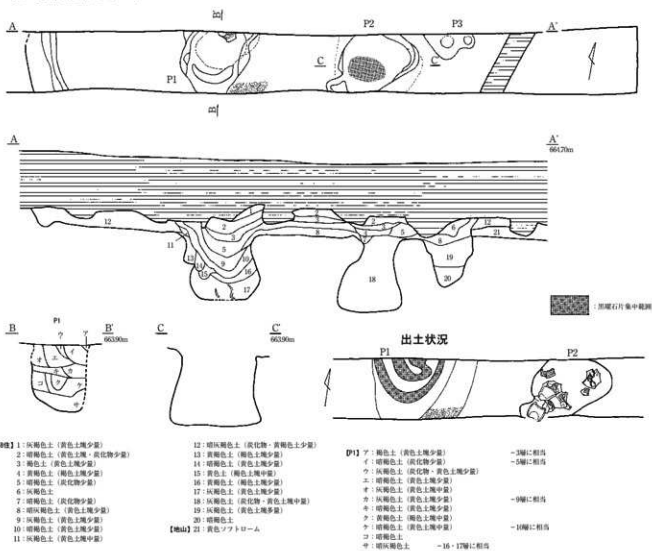
- 【TH2】1: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 2: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 3: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 4: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 5: 灰褐色土 (褐色土層少量)

10住 (P2) 出土状況

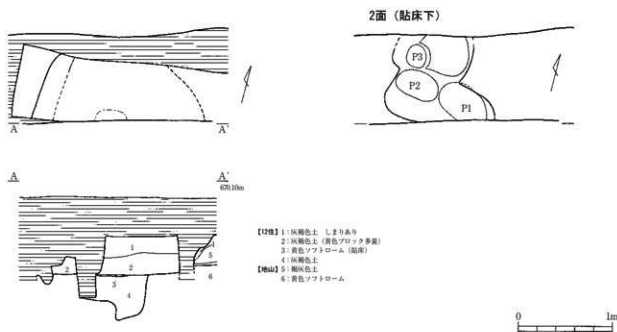


- 【P2】1: 灰褐色土 (褐色土層少量)
- 2: 灰褐色土 (褐色土層少量)

第8号竪穴建物址 (1J-3)

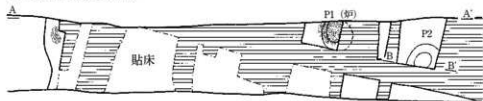


第12号竪穴建物址 (1H-3)

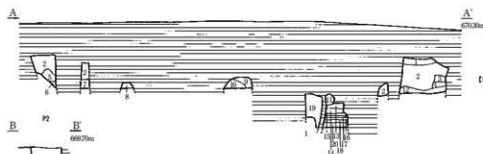


第12図 竪穴建物址 (5)

第14号竪穴建物址 (TH-4)

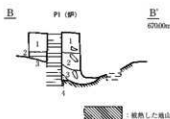
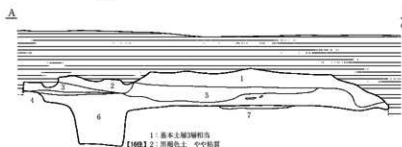
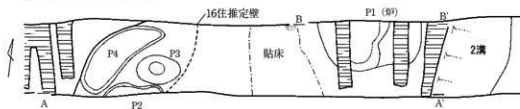


- 1: 灰褐色土、やや粘質、しりりあり
- 2: 褐色土・暗褐色土、やや粘質、しりりあり
- 3: 灰褐色土（焼土中量）やや粘質、しりりあり
- 4: 褐色土（焼土・灰化物少量）粘質、しりりあり
- 5: 暗褐色土（焼土少量）粘質、しりりあり
- 6: に近い暗褐色土、やや粘質、しりりあり
- 7: 灰褐色土、やや粘質、しりりあり
- 8: 褐色土（灰化物少量）粘質、しりりあり
- 9: に近い暗褐色土（焼土少量）やや粘質、しりりあり
- 10: 暗褐色土、やや粘質、しりりあり
- 11: 灰褐色土（暗褐色土中量）やや粘質、ややしりりあり
- 12: 明灰褐色土（ロームに灰褐色の土がしりりに入る）
やや粘質、しりりあり
- 13: 暗褐色土（黄色フロック多量）
上部に砥石が埋まる
- 14: 焼土
- 15: 赤灰褐色土（礫化）
- 16: 黄色土（礫化）
- 17: 暗褐色土、しりりなし
- 18: 黄色土（礫化）
- 19: 黄色ソフトローム
- 20: 褐色ハードローム



【P2】 褐色土（暗褐色土中量、灰化物少量）
粘質、しりりあり

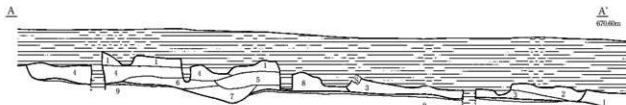
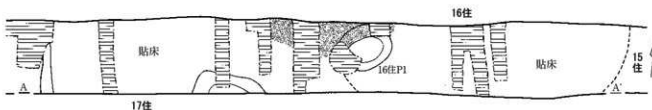
第15号竪穴建物址 (TH-4)



- 1: 基本土層(埋り合)
- 2: 暗褐色土、やや粘質
- 3: 灰褐色土（黄色フロック・焼土多量）
- 4: 黄色ソフトローム（貼床）
- 【16住】 5: 暗褐色土（灰化物微量）しりりあり
- 6: 灰褐色土（黄色フロック多量）
- 7: 黄色ソフトローム（貼床）

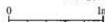
- 1: 暗褐色土（灰化物・焼土微量）やや粘質
- 2: 暗褐色土（灰化物・焼土・黄色土塊少量）粘質
- 【P1 (P4)】 3: 灰褐色土（灰化物・焼土・黄色土塊中量）粘質
- 4: 褐色ローム (P4の上部で礫化)

第16・17号竪穴建物址 (TH-4)



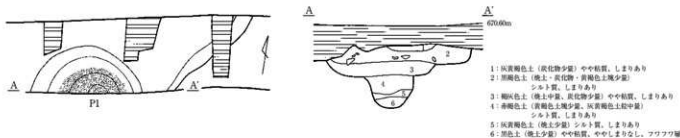
- 1: 基本土層(埋り合)
- 【16住】 2: 暗褐色土、やや粘質
- 3: 灰褐色土（黄色フロック・焼土多量）

- 【17住】 4: 褐色土（黄色土塊多量、灰化物微量）やや粘質
- 5: 暗褐色土（暗褐色土塊多量）
- 6: 暗褐色土（黄色フロックφ5cm大多量）しりりあり
- 7: 灰褐色土（黄色フロック含む）しりりあり
- 8: 暗褐色土（黄色土塊含む）
- 9: 黄色ソフトローム（貼床）

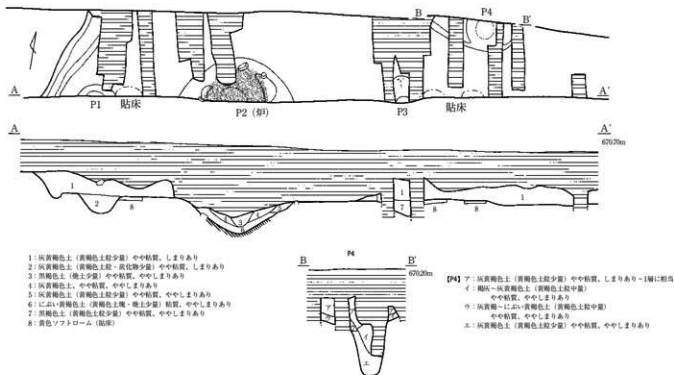


第13図 竪穴建物址 (6)

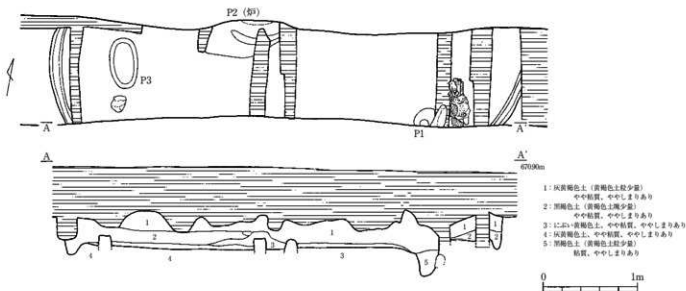
第18号竪穴建物址 (TH-4)



第19号竪穴建物址 (TH-4)

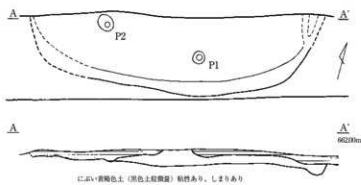


第20号竪穴建物址 (TH-4)

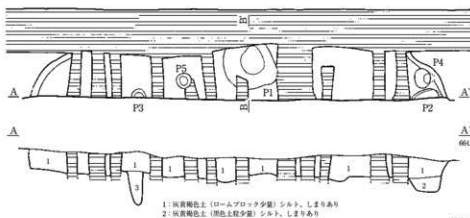


第14図 竪穴建物址 (7)

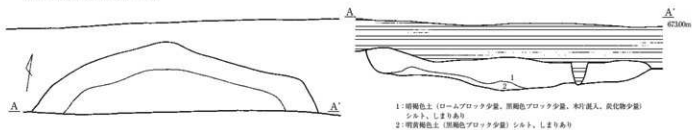
第21号竪穴建物址 (TJ-6)



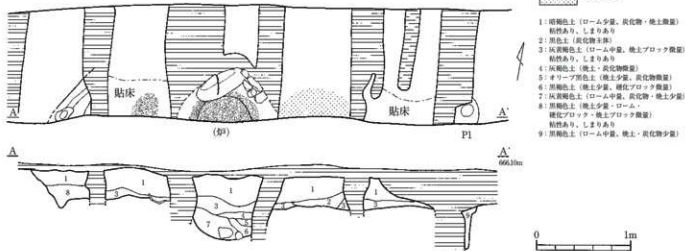
第23号竪穴建物址 (TJ-7)



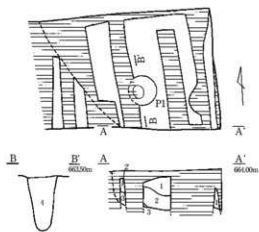
第24号竪穴建物址 (TH-5)



第25号竪穴建物址 (TI-6)



第22号竪穴建物址 (TJ-7)



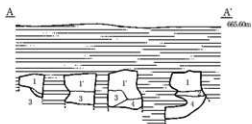
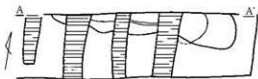
第15図 竪穴建物址 (8)

1土 (T1-1)



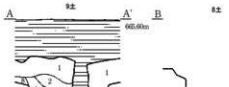
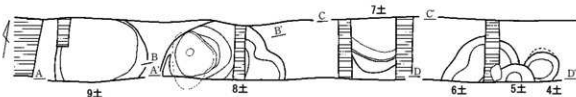
- 1: 灰褐色土 (黄色土・黑色土層中盤)
2: 黄色ソフトローム

2土 (T1-4)



- 【2土】1: 灰褐色土 (灰化物少量)
やや粘質, しまりあり
2: 灰褐色土 (灰化物少量)
やや粘質, しまりあり
3: 灰褐色土 (1層より深い)
ややシト質, しまりあり
4: 灰褐色土, やや粘質, しまりなし
5: 灰色土
6: 灰色土 (1層より深い)
やや粘質, しまりあり

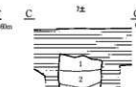
4土・5土・6土・7土・8土・9土 (T1-3)



- 【4土】1: 灰褐色土 (灰化物・礫土・黑色土層中盤)
2: 灰褐色土 (灰化物・黑色土層中盤)
3: 灰褐色土 (黄色ソフトローム)
4: 灰褐色土 (黄色土層多量)
5: 暗褐色土 (灰化物・礫土・黄色土層多量)



- 6: 灰褐色土 (灰化物・黄色土層多量)
7: 褐色土ローム
8: 黄色ソフトローム

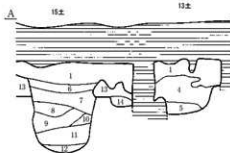
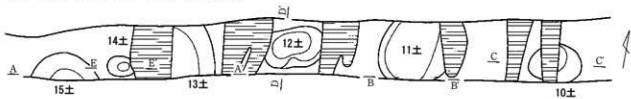


- 【6土】1: 灰褐色土, シルト質, しまりあり
2: 暗褐色土, やや粘質, しまりあり
3: に近い黄褐色土 (礫山ソフトローム)
やや粘質, しまりあり

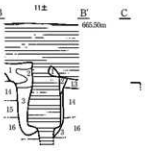


- 【7土】1: 暗褐色土, シルト質, しまりあり
2: 暗褐色土 (礫山ソフトローム) やや粘質, しまりあり
3: 灰褐色土 (礫山ソフトローム) やや粘質, しまりあり
4: 暗褐色土 (暗褐色土ソフトローム) やや粘質, しまりあり
5: 灰色土
6: 暗褐色土, やや粘質, しまりあり
7: に近い黄褐色土 (灰褐色土層多量) 粘質, しまりあり

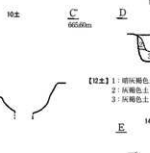
10土・11土・12土・13土・14土・15土 (T1-3)



- 1: 基本土層埋相相当
【10土】2: 暗褐色土 (黑色土層・黄色土層中盤)
【10土】3: 暗褐色土 (黄色土層多量)
【10土】4: 灰褐色土 (灰化物・礫土・黄色土層中盤)
5: 暗褐色土 (黄色土層多量)



- 【10土】6: 黄褐色土 (黄色土層中盤)
7: 暗褐色土 (灰化物・礫土・黄色土層多量)
8: 黄褐色土 (黄色土層多量)
9: 灰褐色土 (黄色土層多量)
10: 灰褐色土 (黄色土層中盤)
11: 暗褐色土 (黄色土層多量)
12: 褐色土 (黄色土層多量)



- 【12土】1: 暗褐色土 (灰化物少量)
2: 灰褐色土 (黄色土層多量)
3: 灰褐色土 (黄色土層・黄色土層多量)

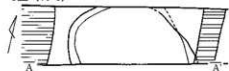


- 【14土】1: 黄色ロームに灰褐色土層中ロ
2: 黄色ソフトローム
3: 黄色ソフトローム



第16図 土坑 (1)

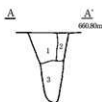
3土 (TI-3)



出土状況



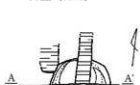
36土 (TK-3)



【36土】

- 1: 灰黄褐色土 (ローム殻, ロームアブロック含む)
粘性あり, しまりあり
- 2: 比色黄褐色土 (黄褐色土中量)
- 3: 灰黄-黒褐色土 (ローム殻含む)
粘性あり, しまりあり

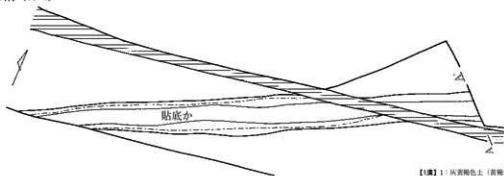
50土 (TI-6)



【50土】

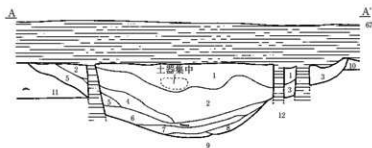
- 1: 暗褐色土 (ローム少量, 礫土・炭化物微量) 3: 灰黄褐色土 (ローム殻中量, 焼土少量)
粘性あり, しまりあり 粘性あり, しまりあり
- 2: 暗-黒褐色土 (炭化物中量, ローム少量) 4: 黒褐色土 (ロームアブロック・ローム殻少量)
粘性あり, しまりあり 粘性あり, しまりあり

1溝 (TJ-4)



- 【1溝】 1: 灰黄褐色土 (黄褐色土粒少量) やや粘質, しまりあり
2: 黒褐色土 (黄褐色土粒中量) やや粘質, 礫化 (貼底少)
3: 明黄褐色土, やや粘質, 礫化 (貼底少)
【地山】 4: 比色黄褐色土, 粘質, しまりあり, ローム

2溝 (TH-4)



- 【2溝】 1: 黒色土 (黄褐色土粒中量) やや粘質, しまりあり
2: 黒褐色土 (黄褐色土粒・炭化物少量) やや粘質, しまりあり
3: 灰黄褐色土 (黄褐色土粒少量) やや粘質, しまりあり
4: 灰黄褐色土 (燧土より褐色) (黄褐色土粒少量) やや粘質, しまりあり
5: 暗褐色土 (黄褐色土粒少量) やや粘質, しまりあり
6: 黒褐色土 (黄褐色土粒少量) やや粘質, しまりあり
7: 黒色土 (黄褐色土粒少量) 粘質, しまりあり
8: 暗褐色土 (黄褐色土粒中量) やや粘質, しまりあり
9: 砂礫層, 厚約2-3cm
【地山】 10: 基本土層埋没地
【15土】 11: 灰黄褐色土 (黄色アブロック多量)
【地山】 12: 黄色ソフトローム



第17図 土坑(2)・溝

第V章 出土遺物

第1節 縄紋時代の遺物

1 土器 (第3表・第18～30図)

波田下原遺跡から出土した縄紋土器は、総量 82.3kg、整理用テンバコ 12 箱である。ほとんどが堅穴建物址から出土し、時期は中期中葉～中期後葉に限られる。このうち代表的・特徴的な 330 点を抽出し、図化・提示した。本書での縄紋土器の年代観は、吉川金利 2008「唐草文系土器」[総覧 縄文土器]に準拠した。

トレンチ状の調査地の制約に加え、耕作等の破壊や攪乱に伴う混入・消失があり、回収量は極めて限定される。帰属遺構が明確な堅穴建物址の埋喪も皆無である。このため良好な一括資料は少なく問題点も多いが、本稿では各遺構からの出土土器を群として扱い、概観を試みたい。唐草紋系土器第 2～3 段階が中心である。

1 住出土土器群 (1～4・99・100)

1・3 は小形土器またはミニチュア土器と考えられる。2 は口縁部を欠損している。横位隆帯と沈線で施紋しているが、胴部下半部は無紋である。4 は器高 38.4cm を測る。楕円区画紋を多用し、区画内の紋様構成は変化に富む。

2 住出土土器群 (5～8・101～110)

8 は横方向の渦巻紋と 2 段の交互刺突紋があり、その下に縦位沈線が施されている。101 は条線紋を地紋とし、縦位沈線と蛇行沈線を施している。106 は列点状の刺突で器面を埋めている。

3 住出土土器群 (9～24・111～129)

唐草紋系土器第 3 段階古相が中心ある。14 は入組渦巻紋と縦位沈線を口縁下に施す。18 は雑な作りで、紋様構成等の判別は難しいが、唐草紋系第 4 段階に相当する混入品と考えられる。22 は他の 3 住出土品と縄紋を地紋とする点で異なり、縦横に沈線のみ加えている。23・127 は撚紐状隆帯紋が特徴的である。24 は橋状の把手が 4 単位付く。口縁部の区画紋内には交互刺突紋と入組渦巻紋を施紋している。胴部以下も渦巻紋を多用する紋様構成である。129 は指による勾玉状紋が施される唐草紋系土器第 4 段階の混入品である。

4 住出土土器群 (25～29・130・131)

唐草紋系土器第 2 段階古相を中心とする土器群である。25 は樽形器形を呈す。腕骨紋による区画内を綾杉紋で埋めている。27 は渦巻状の突起部の破片で 4 単位であろう。29 は橋状の把手が付く。口縁部紋様帯は縦位沈線のみで充填される。3 住 24 の橋状把手に比べ、作りが雑である。

5 住出土土器群 (30～34・132)

30 は口縁下に隆帯が巡り、沈線で器面を埋めている。31・32 は腕骨紋と綾杉紋が施され唐草紋系土器第 2 段階に該当する。33 は胴部が膨らむ形を呈す。横位沈線後に刺突、綾杉紋を充填後に腕骨紋を施している。31・33 に施されている腕骨紋は、J 字状または U 字状に渦を巻いている。34 は左巻き・右巻きの渦巻紋を有する突起と橋状の把手を持つ。口縁部紋様帯は縦位沈線を充填している。

7 住出土土器群 (36・134～141)

36 は台付土器の脚部で、V 字状沈線のみである。140 は列点刺突が特徴的である。141 は大柄渦巻紋を配し、横位沈線紋を施している。

8 住出土土器群 (37～44・142～153)

37 は蛇行隆帯の貼付の際、隆帯を上下から交互に押し曲げて蛇行させた指頭圧痕が顕著に残る。38 は小破片であるが、ミガキと赤色塗彩が施される。39 はキャリパー形口縁で腰がくびれる深鉢である。器高

23.4cmを測る。細かい角押紋を多用して、口縁部紋様帯と櫛形紋による胴部紋様帯を配する。40は器高36.8cmの井戸尻Ⅲ式の深鉢である。口縁部には4単位の突起があり、そこから垂下したところに眼鏡状突起が付く。隆帯上には特徴的な刻みが施されている。41は他に比べて器厚が薄い。隆帯のみで構成され、縦位・横位・環状・弧状に張り付けられている。42は器面全体を結節縄紋のRLで充填している。43は4住出土品と遺構間接合した。4単位の波状口縁で、口縁部紋様帯は横位隆帯と三角形の隆帯で区画されている。区画内は縦位沈線で埋めている。隆帯上には刻みが施され、三角形の区画内には三叉紋がある。44は小形である。145～148はP1出土品で、すべて波状口縁部の破片である。150は蛇行隆帯の貼付け、152は斜行する隆帯の脇に押し紋が施紋される。153は波状口縁部の破片である。

9 住出土土器群 (154～160)

155は二次焼成による被熱で外面が黒変している。渦巻紋貼り付け後に沈線と刺突を施している。157・158は懸垂紋または大柄渦巻紋があり、その周囲を斜行沈線で埋めている。154・156は綾杉紋または斜行沈線で器面を充填した後に蛇行沈線を施している。唐草紋系土器3段階に該当する。159・160は炉内出土品である。

10 住出土土器群 (161～163)

161～163の3点のみである。161・163は綾杉紋または沈線を地紋としているが、162はRL縄紋の施紋後に2本の沈線を施している。

11 住出土土器群 (164～169)

すべて炉内出土品である。164は頸部に沈線を巡らし、その下に刺突紋がある。168は口唇部の刻みが特徴的な深鉢である。166はLR縄紋、167・169は沈線を地紋としている。

12 住出土土器群 (170～173)

170は隆帯による渦巻紋を配した後に斜行沈線で器面を埋めている。173は櫛形土器の口縁部で隆帯と交互刺突紋が施される。

14 住出土土器群 (45・174～177)

45は口縁部に稜線が入るのみでほぼ無紋である。176は半截竹管による沈線が梯子状のモチーフとなっている。177は縦位沈線による隆帯に、細い粘土紐を縦横に数本ずつ並べて貼り付けている。

15 住出土土器群 (46～49・178～185)

46は口唇部に刻みを施し10住168と類似する。48・178・185は隆帯による褶曲紋土器である。49は器高27センチを測る。懸垂紋によって4区画され、区画内には横位沈線と縦位沈線が充填される。懸垂紋の上には指頭圧痕があり、底部際は無紋となる。181・182は同一個体ではないが、49に類似した紋様を構成する。また、これらに183は類似するが、区画内の充填は半截竹管による押し引きによって施されている。

16 住出土土器群 (50)

胴部のみ破片だが、算盤玉の形をした壺形深鉢と推定される。刺突紋を多用し、撚紐状隆帯紋と櫛形紋で紋様をなす。

17 住出土土器群 (51～55・186～189)

51は平行する2本の横位隆帯上に蛇行隆帯を重ねて貼り付けている。その下には逆U字形の隆帯を下垂させている。隆帯との境目には沈線を引き、その内側は縦位集合平行沈線で埋めている。52・53は隆帯の側面に刻みを施している。54は隆帯間に押し引きをし、器面は縦位集合平行沈線で充填している。55は一部に隆帯の貼り付けがあるものの、ほぼ器面全体に渦巻きや梯子状の沈線を施紋している。186はLR縄紋を地紋とし、沈線により大柄渦巻紋を施文している。189は176に類似している。

18 住出土土器群 (56～59・190～202)

57・58は把手部分である。57は粘土紐を貼り付け、沈線を施している。58は環状に粘土紐を貼り付けている。

59は雑に作られた突起部分の破片で、いびつな孔とくぼみのみで施紋がない。200・201は縄紋を地紋とし、縄紋施紋後に沈線を施している。199は指による勾玉状紋を施紋しており、唐草紋系土器第4段階相当と考えられる。

19 住出土土器群 (60～62・203～206)

60は懸垂紋で大きく区画され、条線紋で器面を埋めている。61・62は同一個体で、62は波状口縁の破片である。205は隆帯と沈線間に刺突を施しているのが特徴的である。

20 住出土土器群 (63～75・207～228)

綾杉紋、沈線を施文する唐草紋系土器第4段階の深鉢が多数出土している。64・73・74は縄紋を施紋している。64は底面に網代痕が残る。69は把手部分で、粘土紐を環状に貼り付けている。70は頸部に弧状の隆帯を配している。隆帯以下は条線紋を地紋とし、沈線により剣先紋、渦巻紋を施紋している。唐草紋系土器第2段階に相当する。

22 住出土土器群 (76～78・229～233)

76は縦位沈線施紋後に横位沈線を施し、平出Ⅲ類A土器の特徴を示している。78は頸部に2重の並行する沈線を巡らせ、帯状の沈線間には上下交互に三叉紋を配している。器面全体にRL縄紋が施紋されている。

25 住出土土器群 (79・234～236)

79は口縁部に舌状の張り出しがあり、その内外両面に雑な渦巻紋が付く。器面全体を斜行沈線で充填し、渦巻紋、蛇行沈線を施している。234は横位沈線施紋後に蛇行隆帯を貼り付けている。235は樽形の器形で、交互刺突紋の下に渦巻紋を配し、綾杉紋を器面全体に充填している。

3 土出土土器群 (80・237・238)

80は口縁部が内湾し、重弧状のモチーフの褶曲紋による口縁部紋様帯、斜行沈線と粘土紐貼り付けによる格子目紋、方形の隆帯を有する頸部区画紋帯、櫛形紋による胴部紋様帯からなる大型の深鉢である。237は口縁部の小破片で、沈線が梯子状に施されている。

6 土出土土器群 (241・242)

241は弧を描く隆帯を貼り付けた後に沈線を施紋している。242は底部の小破片で網代痕が残る。

7 土出土土器群 (81・243・244)

81は無紋であるが、外面に指頭圧痕らしき痕跡が残る。243は縄紋を施紋し、隆帯と刺突がある。244は渦巻紋と蛇行沈線を施紋している。

8 土出土土器群 (245～247)

246は磨減が激しく、明確ではないものの2本の縦位沈線とLR縄紋が施文されるもの、245は波状口縁の深鉢と考えられる。

10 土出土土器群 (248～250)

248・250は大柄渦巻紋を配し、沈線で器面を充填している。

11 土出土土器群 (83・251)

83は深鉢の把手部分と考えられ、縦位沈線と交互刺突紋が施される。

50 土出土土器群 (253～255)

3点は綾杉紋を施された唐草紋系土器である。綾杉紋または縦位沈線のみで施紋されている。

参考文献

山形村教育委員会 1987 『殿村遺跡』

山形村教育委員会 2009 『下原遺跡 三夜塚遺跡IV』

2 石器・石製品（第4・5表、第31～36図）

第2・3次調査及び試掘調査で回収した石器・石製品は総数1,267点（2次1,207点・3次57点・試掘3点）である。その内、自然石と判断したもの等（2次109点）を除く1,158点が広義の石器となる。定型的な石器と原石・石核は以下のとおりである。

① 石鏃	18点	(10.2%)	⑦ 大形刃器	39点	(22.2%)
② 石錐	6点	(3.4%)	⑧ 凹・敲・磨石	22点	(12.5%)
③ 小形刃器	35点	(19.9%)	⑨ 砥石	10点	(5.7%)
④ 石匙	3点	(1.7%)	⑩ 石皿	2点	(1.1%)
⑤ 打製石斧	14点	(8.0%)	⑪ 石核	14点	(8.0%)
⑥ 磨製石斧	2点	(1.1%)	⑫ 原石	11点	(6.3%)

このうち、遺存状態の良い定型石器を中心に62点を図化し、概要を述べる。また、二次加工ある剥片、微細剥離ある剥片、剥片・碎片、礫片が大量に出土している。紙面の都合上、それぞれの点数と黒曜石とチャートの比率のみ提示した。石器・石製品の帰属時期は共存する土器に準じ、ほとんどのものが縄紋時代中期中葉～後葉に帰属すると推定される。なお、実測図中における研磨・摩耗面はスクリーンと断面に矢印を付し表現した。新欠は白抜きとした。

① 石鏃（1～11）

有茎鏃が1点、無茎鏃が13点（凹基8点、平基4点、円基1点）、不明が2点、未成品（有茎鏃）2点がある。1は、無茎凹基の部分磨製鏃である。研磨調整は片面のみで、場所は最大厚部分で、研磨方向は横向きである。出土地点は、中期後葉主体の土器を含む4住である。部分磨製石鏃は草創期～早期と後期～晩期と、2度みられると考えられており、1は2度目の出現期頃のものと考えられる。異論はあるが、中期末の他の資料に、長野市宮崎遺跡のものがある。3はチャート製無茎凹基鏃で、鋸歯状の側縁を持つ。8は、形態的に石錐の可能性はあるが、先端の断面が平坦であることから石鏃とした。

② 石錐（12～17）

棒状錐が1点、明瞭なつまみをもつ錐が5点ある。石材は黒曜石製とチャート製があり、それぞれ5点と1点ある。15は平面形がT字形で、複数の先端が錐部であると考えられる。16は幅広扁平な先端をもつため、穿孔用に使用されたかどうかは不明である。

③ 小形刃器（18～24）

概ね、石鏃や石錐などの小形打製石器に使われる石材を用いて、側縁の長さの1/2以上に連続的な調整があり、定型的な刃部を有するものを小形刃器と呼ぶ。また、刃部の形態により細分類できる。刃角が急斜度のものを搔器、刃角が緩斜度のものを削器、側縁の1か所または複数か所に細部調整によって抉りの刃部が設けられものを抉入石器とした。また、刃器と呼べるかどうかは議論の余地はあるが、ピエスエスキューも小形刃器に含めた。二次加工ある剥片は、側縁の長さ1/2未満の調整があるものと定義し、小形刃器及び大形刃器と区別した。

搔器が8点（22.2%）、削器19点（52.8%）、抉入石器3点（8.3%）、ピエスエスキュー6点（16.7%）がある。長剥片を素材とし、末端部に刃部を作出するものが多い。

④ 石匙（25～27）

横型2点、縦型1点、不明1点がある。26は、粗製の作りで、刃部にみられる剥離痕のほとんどは調整によるものというよりは、使用による微細剥離と考えられる。27は、撥形打製石斧の可能性も否めないが、端部より側縁に刃部を作出するような調整加工が施されているようにみえるため、石匙とした。

⑤ 打製石斧（28～38）

全体形状が確認できるものは10点あり、細分すると分銅形2点、撥形5点、短冊形3点がある。折損品

の中には、大形刃器や二次加工ある剥片、石核と区別が困難なものも含まれる。30は、刃部に摩耗痕が観察できる。33は、上半部裏面の稜線に摩耗痕がみられ、柄との摩擦痕と考えられる。37は、刃部への加工調整が少ない。

⑥ 磨製石斧 (39)

39は、凝灰岩製の定角式である。刃部は、両凸の外湾刃で、使用によると思われる刃こぼれがみられる。基部と側面一部は研磨されず、敲打痕が残る。

⑦ 大形刃器 (40～48)

概ね、打製石斧などの大形打製石器に使われる石材を用いて、剥片を素材とし、一辺または複数辺に刃部を形成しているもののうち、他の定型石器に入れ難いものを大形刃器と呼ぶ。さらに形態により細分類ができる。剥離により、尖頭部が形成されるものを尖頭石器とし、それ以外のものを横刃形石器とした。

横刃形石器34点、尖頭石器3点がある。41～43の刃部は、明瞭な加工調整は少なく、微細な剥離痕が目立つ。45は、チャート製で、石材としては小型刃器の範疇であるが、サイズから大型刃器として扱った。

⑧ 凹・敲・磨石 (49～59)

自然礫を素材とし、凹部、敲部、研磨・摩耗痕が観察されるものを一括して扱った。小凹みと敲打痕の識別は困難な場合があるが、便宜的に敲打痕(の集合体)の直径が2cm以上、深さが5mm以上のものを凹みとした。凹・敲・磨痕の複合状況は、凹・敲1点、凹・磨2点、敲のみ1点、敲・磨4点、磨のみ11点、凹・敲・磨3点である。49は、両面に磨痕をもち、うち1面はほぼ平らになるまで使用されている。50・59は両面に直径1.5cm程度の凹みと磨痕を両面にもつ。53・54は、表面に溝状の痕跡が複数観察されるため、砥石的要素も含むものと思われる。56は、平面形が三角形で、面に2つの凹部を持つ。重量2.300gあり、台石として使用されたものであろうが、端部に敲打痕がみられ、使用状況は不明である。

⑨ 砥石 (60)

平坦面をもち、研ぐ作業が想定されるものを砥石とした。点数は少なく、一部磨石としたものの中にも含まれている可能性がある。60は、面にのみに砥面がみられるが、溝状の研磨痕が両面にある。また、側面に敲打痕も観察されるので、敲石に(から)転用した(された)ものと考えられる。砥面と敲打痕は接しておらず、切り合い関係はつかめない。

⑩ 石皿 (61・62)

2点出土している。いずれも破損品で全体をうかがえるものはない。61は、安山岩製で割り石を素材している。割れ面は側面のみみられる。62は、安山岩製の自然礫を素材にし、幅広の縁が残されている。

打製石斧が定型石器の9.3%、凹・敲・磨石が14.6%で、松本盆地の中期の平均的な組成に比べると極端に少ない。また、小形・大形刃器が23.2%・25.8%と多いのも特徴である。山形村教育委員会で平成19年度に発掘調査を行った下原遺跡の成果では、打製石斧点78点22.3%、凹・敲・磨石が169点48.4%、小形・大形刃器33点9.5%・8点2.3%である。器種認定の問題が多少あるとは考えられるが、今回の調査地が山形村調査時より北側に位置しているために、集落内での生業の差が出たものと言えるのではないかと。

石器の出土地点は、3住と8住に極端に集中することも特筆すべきである。8住からは、石鏝が6点あり全体の37.5%、剥片・砕片が全体の30.1%が出土している。

参考文献

長野市教育委員会 1988 『宮崎遺跡』

山形村教育委員会 2009 『下原遺跡 三夜塚遺跡IV』

3 土製品 (第30図)

3点出土し、提示した。全て土偶の破片である。

1は14住覆土中から出土した。胴部～右腕部の破片である。いわゆるバンザイ土偶で、腕が斜め上方にのびている。乳房は断面台形の粘土を張り付けて表現する。へそは「U」字形の沈線で表現され、やや斜いで開口する。正面・背面ともに腕部下端～胴部端に2本の沈線があり、へそ辺りで折り返してつながっている。手は正面の上側の沈線が上方に短く折り返され表現される。下側の破断面には芯棒孔があり、乳房の辺りまでのびている。

2はTH-4から出土した。右胴～右腕部の破片である。乳房は断面半円形の粘土を張り付けて表現している。右腕は乳房の高さで水平に伸び、上下端に沈線がある。正面、背面ともに沈線間には交互に上下端部に寄る縦方向の沈線を加えている。破断面には破片全体を上下に貫通する芯棒孔がみえる。

3は7住覆土中から出土した。左足部の破片である。内足を除き、縦方向の沈線があり、外足～背面には「の」字形の沈線と交互衝突を加える。指は縦方向の沈線間に3カ所の楔形の刻みを入れ、表現している。

第2節 古代の遺物

土師器と須恵器があるが、圧倒的に土師器が多く、須恵器は少ない。土器の器種器形分類と土器群の年代観は、例言に挙げた文献に準拠した。黒色土器A、須恵器、軟質須恵器が認められる。

今回の調査において、遺構からの出土は2溝のみである。遺構外の出土も2溝のあるTH-4とその西隣に設定したTH-5の検出面に限られる。2溝は導水を目的に築かれた水路の可能性があり、覆土上層から多数の小破片が出土した。そのうち37点を図化し、提示した。

第2号溝出土品 (第6表・第37図1～35)

図化・提示できないものも含め食膳具の黒色土器Aの杯・皿B、須恵器杯A・杯蓋・軟質須恵器杯がある。煮炊具・貯蔵具の出土は認められない。黒色土器Aの杯Aは底部回転糸切り痕が残る。

墨書土器が多く、18点ある。このうち図化可能な17点を提示した。土師器杯Aの体部に書かれたものが多く、腕の体部と底部もある。何れも小破片で文字全体が残存しておらず、判読できるものはないが、16は「東」と推定できる。18・27は「井」の可能性があり、くさかんむりの文字かもしれない。21は文字のつくり部分が残存し、「尾」の可能性もある。

軟質須恵器を伴う土器器種組成からみて、7期の所産と推定される。松本地域の同時期の遺跡に比べ、出土量に対する墨書土器の比率が非常に高い感があり、2溝の性格に係わる可能性がある。

第3表 縄紋土器一覧表

図 No.	遺構	器形	部位	地紋	主な紋様	時期	備考
1	1住	深鉢	口縁		縄紋(乱横)	中期中葉	部分的に磨り消されている。小形土器orミニチュア土器か。
2	1住	深鉢	胴～底		槽内区画紋、隆帯紋	中期中葉	内面、被熱。
3	1住	深鉢	口縁		沈線紋(横位・縦位・斜行)	中期中葉	外面一部、被熱。小形土器orミニチュア土器か。
4	1住	深鉢	ほぼ完		頸部槽内区画紋、横位沈線紋、刺突紋	新石器末期	内・外面一部、被熱。内面一部、スス付着。
5	2住	甕	口縁			中期後半	外面一部、被熱・スス付着。
6	2住	甕	底			中期後半	内面、被熱。
7	2住	甕	底			中期後半	
8	2住	深鉢	胴		渦巻紋、交互刺突紋、縦位沈線紋	唐草紋系土器 第2段階	
9	3住	深鉢	口縁		横位沈線紋、綾杉紋	唐草紋系土器 第3段階(古)	内・外面一部、被熱。
10	3住	深鉢	胴		渦巻紋、胸骨紋、刺突紋、斜行沈線紋	唐草紋系土器 第3段階(古)	
11	3住	深鉢	口縁		懸垂紋、入組渦巻紋、沈線紋	唐草紋系土器 第3段階(古)	
12	3住	深鉢	口縁		沈線紋(横位・縦位)	唐草紋系土器 第3段階(古)	外面一部、被熱。
13	3住	深鉢	口縁		交互刺突紋、隆帯紋(横位・逆U字状)、刺突紋、横位沈線紋	唐草紋系土器 第3段階	
14	3住	深鉢(皮状)	口縁		隆帯紋、入組渦巻紋	唐草紋系土器 第3段階	外面一部、スス付着。
15	3住	深鉢	胴		胸骨紋、綾杉紋、縦位沈線紋	唐草紋系土器 第3段階	
16	3住	深鉢	胴～底		沈線紋(斜行・縦位)	唐草紋系土器	内・底一部、被熱。
17	3住	深鉢	底		渦巻紋、沈線紋	唐草紋系土器 第3段階	
18	3住	深鉢	口縁		隆帯紋、沈線紋	唐草紋系土器 第4段階	外面一部、被熱。
19	3住	深鉢	胴～底		沈線紋(渦巻状、斜行)	唐草紋系土器 第3段階	内・外面一部、被熱。網代痕あり。
20	3住	深鉢	胴～底		懸垂紋(胸骨紋か)、綾杉紋	唐草紋系土器 第3段階	網代痕あり。
21	3住	深鉢	口縁		交互刺突紋、隆帯紋(横位・渦巻紋)、刺突紋、斜行沈線紋	唐草紋系土器 第3段階	内面一部、被熱により黒変。
22	3住	深鉢	胴	縄紋(乱横)	沈線紋	唐草紋系土器	内・外面一部、被熱。外面一部、スス付着。
23	3住	深鉢	胴		沈線紋(横位・縦位)、隆帯紋(横位・縦位)、縞紐状隆帯紋、渦巻紋、刺突紋	唐草紋系土器 第3段階	
24	3住	深鉢	口縁		渦巻紋、交互刺突紋、入組渦巻紋	唐草紋系土器 第3段階	外面一部、被熱・スス付着。突起・内外面、渦巻紋あり。
25	4住	深鉢	胴		胸骨紋、交互刺突紋、綾杉紋	唐草紋系土器 第2段階	外面一部、被熱。
26	4住	深鉢	底		沈線紋	唐草紋系土器	内・外面一部、被熱・スス付着。
27	4住	伊	突起		渦巻紋(隆帯)、沈線紋	唐草紋系土器 第3段階	外面一部、被熱。
28	4住	深鉢	口縁		沈線紋(縦位蛇行・斜行)、交互刺突紋、入組渦巻紋	唐草紋系土器	
29	4住	深鉢	口縁		渦巻紋、沈線紋(縦位蛇行・縦位)、胸骨紋	唐草紋系土器	外面一部、スス付着。
30	5住	深鉢	口縁		隆帯紋(横位)、沈線紋(縦位)	唐草紋系土器 第2段階(新)	外面一部、スス付着。
31	5住	深鉢	胴～底		綾杉紋、縦位沈線紋、隆帯紋(胸骨紋か)	唐草紋系土器 第2段階	内・外面一部、被熱。
32	5住	深鉢	胴		綾杉紋、懸垂紋(胸骨紋か)、沈線紋(縦位・縦位蛇行)	唐草紋系土器 第2段階	内面一部、被熱・スス付着。
33	5住	深鉢	胴		綾杉紋、沈線紋(横位)、刺突紋、隆帯紋(胸骨紋か)	唐草紋系土器 第2段階	外面、被熱。
34	5住	深鉢	口縁		渦巻紋、沈線紋(縦位・斜行)	唐草紋系土器 第2段階	外面一部、被熱。
35	6住	深鉢	胴～底		隆帯紋、沈線紋	唐草紋系土器	内・外面一部、被熱。
36	7住	深鉢(台付)	脚		沈線紋	唐草紋系土器 第1段階か	外面一部、被熱。
37	8住	深鉢	口縁		隆帯紋(縦位蛇行)、首頭庄痕、刺突紋(交互刺突紋か)、横位沈線紋	井戸尻式前期	
38	8住	深鉢	口縁		横位沈線紋	中期中葉	ミガキ、赤色痕跡あり。内・外面一部、被熱。内面一部、スス付着。
39	8住	深鉢	ほぼ完		押し紋(口縁部紋様帯)、縞紐状(胴部紋様帯)	井戸尻式前期	内面一部、スス付着。外面一部、被熱。
40	8住	深鉢	ほぼ完		縞紐状突起、縞紐状、隆帯紋(上に刻み)	井戸尻式前期	内面一部、スス付着。内・外面一部、被熱。胴部下手の内面、磨滅が激しい。
41	8住	深鉢	口縁～胴		隆帯紋(横位・縦位・横状)	中期中葉	内・外面一部、被熱・スス付着。
42	8住	深鉢	口縁～胴		結節縄紋(乱横)	中期中葉	内・外面一部、被熱・スス付着。
43	8住	深鉢	口縁		隆帯紋(上に刻み)、交互刺突紋、縦位沈線紋、三叉紋	中期中葉	4住出土品と連携関係。内・外面一部、被熱・スス付着。
44	8住	深鉢(皮状)	口縁		隆帯紋(横位蛇行か)、沈線紋(横位・縦位)	中期中葉	外面一部、被熱。小形土器orミニチュア土器か。
45	14住	深鉢	口縁			中期後半小	内面一部、被熱により黒変。
46	15住	深鉢	口縁		口唇部に刻み	唐草紋系土器 第1段階	内・外面一部、被熱。内面一部、スス付着。
47	15住	深鉢	胴		縞紐状突起、縦位沈線紋、隆帯紋(上に刻み)	唐草紋系土器 第2段階	内面一部、被熱。
48	15住	深鉢	胴		縞紐状、横状の粘土貼付	唐草紋系土器 第1段階	外面一部、被熱。
49	15住	深鉢	口縁～底		懸垂紋(上に首頭庄痕)、沈線紋(横位・縦位)	唐草紋系土器 第1段階	内・外面一部、被熱。内面一部、スス付着。
50	16住	深鉢	胴		横位沈線紋、刺突紋、縞紐状隆帯紋、縞紐紋	唐草紋系土器 第2段階	外面、磨滅が激しい。
51	17住	深鉢	胴	桑繰紋	隆帯紋(縦位蛇行・横位・逆U字状)、沈線紋	唐草紋系土器 第1段階	

図 No.	遺構	器形	部位	地紋	主な紋様	時期	備考
52	17住	深鉢	口縁		棒子状沈線紋、隆帯紋(側面に刻み)	唐草紋系土器 第1段階	内面、割離あり。外面一部、被熱。
53	17住	深鉢	口縁		縦線状突起、隆帯紋(側面に刻み)、沈線紋(斜行・縦位)	唐草紋系土器 第1段階	内面一部、被熱。
54	17住	深鉢	胴		隆帯紋、縦位集合平行沈線紋、押引紋	唐草紋系土器 第1段階	外面一部、スス付着。
55	17住	深鉢	口縁～胴		渦巻紋(沈線)、沈線紋(棒子状・縦位)	唐草紋系土器 第1段階	外面一部、被熱。内面一部、スス付着。
56	18住	深鉢(底状)	口縁		渦巻紋、刺突起、沈線紋(縦位・斜行)	唐草紋系土器 第2段階	
57	18住	深鉢	突起		沈線紋	唐草紋系土器 第4段階	内・外面一部、被熱。
58	18住	深鉢	把手			唐草紋系土器 第4段階	外面一部、被熱により黒変。
59	18住	深鉢	突起			唐草紋系土器 第4段階	穿孔あり。内・外面一部、被熱。
60	19住	深鉢	胴	糸線紋	懸垂紋	唐草紋系土器 第2段階	
61	19住	深鉢(底状)	口縁		隆帯紋(横位蛇行)、横位蛇行沈線紋	井戸尻皿式～唐草紋系土器 第1段階	内・外面一部、スス付着。62と同一個体。
62	19住	深鉢(底状)	口縁		横位蛇行沈線紋	井戸尻皿式～唐草紋系土器 第1段階	内・外面一部、被熱。61と同一個体。
63	20住	深鉢	胴		縦線紋(沈線)立字状・縦位	唐草紋系土器 第4段階	
64	20住	深鉢	胴～底		懸垂紋(胸骨紋か)、縦位沈線紋	唐草紋系土器 第4段階	胴代痕あり。
65	20住	深鉢	胴～底		縦位沈線紋	唐草紋系土器 第4段階	外・底面一部、被熱。底面、雑なつくり。
66	20住	深鉢	胴～底		縦位沈線紋	唐草紋系土器 第4段階	内面一部、スス付着。外面、磨減が激しい。
67	20住	深鉢(底状)	口縁		横位区画紋(渦巻紋、斜行沈線紋)、沈線紋(縦位・逆字状)、縦線紋	唐草紋系土器 第4段階	外面一部、スス付着。
68	20住	深鉢	胴～底		縦位隆帯紋、斜行沈線紋	唐草紋系土器 第4段階	胴代痕あり。
69	20住	深鉢	把手		沈線紋	唐草紋系土器 第4段階	
70	20住	深鉢	胴	糸線紋	隆帯紋(扇形状)、沈線紋(斜行・縦位蛇行)、渦巻紋(沈線)	唐草紋系土器2段階(新)	外面一部、被熱・スス付着。一部、磨減あり。
71	20住	深鉢	胴		懸垂紋(胸骨紋か)、蛇行隆帯紋、沈線紋(縦位・蛇行)	唐草紋系土器 第4段階	外面一部、被熱。内面一部、割離あり。
72	20住	深鉢	口縁		渦巻紋(隆帯)、沈線紋(縦位・横状)	唐草紋系土器 第4段階	
73	20住	深鉢	胴～底	縄紋(LR縦)	縦位沈線紋	唐草紋系土器 第4段階	外面一部、スス付着。磨減が激しい。
74	20住	深鉢(底状)	口縁	縄紋(LR横)	横位区画紋(隆帯)、沈線紋(縦位・縦位蛇行)	加曾利E式系土器か	内・外面一部、スス付着。舌状の突起を4単位持つ。
75	20住	深鉢(底状)	口縁		隆帯紋(渦巻状か)、沈線紋(逆字状・斜行)	唐草紋系土器 第4段階	内・外面一部、被熱・スス付着。
76	22住	深鉢	胴		沈線紋(横位・縦位)	平出皿A	
77	22住	深鉢	胴		縦状突起(部みあり)、刺突起、沈線紋	新道式期	内面一部、被熱。
78	22住	深鉢	口縁(皿縁)	縄紋(皿横)	横位沈線紋	新道式期	内面、被熱。内・外面一部、スス付着。
79	25住	深鉢	口縁～胴		隆帯紋(渦巻か・斜行)、沈線紋(渦巻か・蛇行・斜行)	唐草紋系土器 第2段階(新)	輪縁のみあり。外面一部、スス付着。内面、渦巻紋の施紋あり。
80	3土	深鉢	口縁～胴		縦線紋、縦線状突起、頸部区画紋(横位隆帯紋、格子目状紋)、沈線紋(横位・縦位)	唐草紋系土器 第1段階	内・外面一部、被熱。
81	7土	深鉢	口縁			唐草紋系土器	外面、被熱。外面一部に頸項直痕か。
82	9土	深鉢	突起		渦巻紋(沈線)	唐草紋系土器 第2段階	内面、被熱。
83	11土	深鉢	把手		交互刺突起、縦位沈線紋	唐草紋系土器 第2段階	
84	2溝	深鉢(底状)	口縁		沈線紋、横位区画紋、縄紋(皿横)	加曾利E式系土器か	混入品。
85	TH-2 横	深鉢	口縁		渦巻紋、沈線紋(横位・縦位)、刺突起	唐草紋系土器 第4段階	外面一部、被熱・スス付着。
86	TH-4 横	深鉢	突起		沈線紋	唐草紋系土器 後半か	内面一部、被熱。
87	TH-4 横	深鉢	口縁		隆帯紋(側面に刻み)、縦位沈線紋	唐草紋系土器 第1段階	内・外面一部、被熱。
88	TH-4 横	深鉢	口縁		縦線状突起、方形区画紋(横位隆帯紋、縦位沈線紋)	中期後半	内・外面一部、被熱。
89	TI-4 横	深鉢	口縁		隆帯紋、沈線紋(縦位・斜行)	唐草紋系土器	外面一部、被熱。
90	TI-3 包	深鉢	底		縦位沈線紋	唐草紋系土器	
91	TI-3 包	深鉢	底			唐草紋系土器	
92	TI-3 包	深鉢	底			唐草紋系土器	外面の調整が確。
93	TI-3 包	深鉢	口縁	縄紋(LR縦)	隆帯紋、逆字状沈線紋	唐草紋系土器	
94	TI-3 包	深鉢	口縁		沈線紋、縄紋(LR縦)	唐草紋系土器 第4段階	内面一部、スス付着。
95	TI-3 包	深鉢	口縁		沈線紋、縄紋(皿横)	唐草紋系土器 第4段階	内・外面一部、スス付着。
96	TI-3 包	深鉢	胴	糸線紋	交互刺突起、縦位蛇行沈線紋	唐草紋系土器 第3段階	外面、磨減が激しい。
97	TI-6 覆	深鉢	胴		刺突起	唐草紋系土器	突起部分
98	TI-7 覆	深鉢(底状)	口縁		縦線状突起、斜行沈線紋	唐草紋系土器	外面一部、被熱により黒変。
99	1住	深鉢	胴		縄紋(皿横)	中期中葉	内・外面一部、被熱。内面一部、スス付着。
100	1住	深鉢	胴		縄紋(皿横)	中期中葉	内・外面一部、被熱。内面一部、スス付着。
101	2住	深鉢	胴	糸線紋	沈線紋(縦位、蛇行)	唐草紋系土器 第2段階	外面一部、スス付着。
102	2住	深鉢	胴		縦位沈線紋、縦線紋	唐草紋系土器 第2段階	外面一部、スス付着。
103	2住	深鉢(内湾)	口縁		沈線紋	唐草紋系土器	
104	2住	深鉢	胴		横位隆帯紋、刺突起、縦位平行沈線紋	唐草紋系土器	
105	2住	深鉢	口縁		隆帯紋(逆字状)、刺突起	唐草紋系土器	内面に割離あり。
106	2住	深鉢	口縁		刺突起	唐草紋系土器	外面一部、被熱・スス付着。
107	2住	深鉢(底状)	口縁		斜行沈線紋、連続押引紋	唐草紋系土器	

図 No.	造構	器形	部位	地紋	主な紋様	時期	備考
108	2住	深鉢	胴	隆帯紋(上に刻みあり)、縦位比隣紋	唐草紋系土器		
109	2住	深鉢	胴	隆帯紋(上に刻みあり)、沈線紋(縦位・斜行)	唐草紋系土器		
110	2住	深鉢	胴	隆帯紋(横位・縦位)、縦位沈線紋	唐草紋系土器		外面一部にスス付着。
111	3住	深鉢	胴	懸垂紋(胸骨紋)か、綾杉紋	唐草紋系土器		内面に輪積み痕あり。
112	3住	深鉢	胴	懸垂紋(胸骨紋)か、縦位平行比隣紋	唐草紋系土器		外面一部、スス付着。
113	3住	深鉢	胴	懸垂紋(胸骨紋)か、綾杉紋	唐草紋系土器 第3段階		内面一部、被熱。
114	3住	深鉢	胴	蛇行沈線紋、綾杉紋	唐草紋系土器 第3段階		
115	3住	深鉢	胴	横位隆帯紋(上に刻み)、縄紋(縦)	唐草紋系土器 第3段階		
116	3住	深鉢(内湾)	口縁	沈線紋(横位・縦位)	唐草紋系土器 第3段階		外面一部、被熱。
117	3住	深鉢	胴	隆帯紋(横位・蛇行)	唐草紋系土器 第3段階		
118	3住	深鉢	胴	渦巻紋、横位比隣紋	唐草紋系土器		
119	3住	深鉢	胴	懸垂紋、綾杉紋	唐草紋系土器 第3段階(古)		
120	3住	深鉢	胴	縦位比隣 懸垂紋(上に刻み)、沈線紋(横位・縦位)	唐草紋系土器 第3段階		輪積み痕あり。
121	3住	深鉢	胴	縦位平行比隣紋	唐草紋系土器 第3段階		輪積み痕あり。外面一部、被熱。
122	3住	深鉢	口縁	刺突紋、横位比隣紋、交互刺突紋、隆帯紋	唐草紋系土器 第3段階		内面に粘土結着付。
123	3住	深鉢	胴	渦巻紋、縦位比隣紋	唐草紋系土器 第2～第3段階		
124	3住	深鉢	胴	連続刺突紋	唐草紋系土器 第3段階		
125	3住	深鉢	胴	交互刺突紋、渦巻紋(沈線)	唐草紋系土器 第3段階		
126	3住	深鉢	胴	綾杉紋	唐草紋系土器 第3段階		内面一部、被熱。
127	3住	深鉢	胴	櫛状隆帯紋、渦巻紋か	唐草紋系土器 第3段階		
128	3住	深鉢	胴	沈線紋(波状・斜行)、隆帯紋(への字状)	唐草紋系土器		
129	3住	深鉢(波状)	口縁	勾玉状紋	唐草紋系土器 第4段階		縄紋(縦)が地紋小。
130	4住	深鉢	胴	綾杉紋、胸骨紋、刺突紋	唐草紋系土器 第2段階(古)		外面一部、被熱。
131	4住	深鉢	胴	渦巻紋(隆帯)、斜行沈線紋	唐草紋系土器 第2段階(古)		内・外面一部、被熱。
132	5住	深鉢	胴	隆帯紋(上に刻み)、縦位平行比隣紋	唐草紋系土器 第2段階(新)		
133	6住	深鉢	口縁	拍頭圧痕小	唐草紋系土器		
134	7住	深鉢	胴	綾杉紋	唐草紋系土器		輪積み痕あり。内・外面一部、被熱。
135	7住	深鉢	口縁	交互刺突紋	唐草紋系土器		内・外面一部、被熱。
136	7住	深鉢	胴	隆帯紋、隆帯隆帯連続押圧紋	唐草紋系土器		
137	7住	深鉢	口縁	横への字状の刻み	唐草紋系土器		
138	7住	深鉢	胴	結節縄紋(2段)	唐草紋系土器		外面一部、被熱。
139	7住	深鉢	胴	胸骨紋、沈線紋(縦位・綾杉紋)	唐草紋系土器 第2段階		内面一部、被熱。
140	7住	深鉢	胴	比隣紋、刺突紋	唐草紋系土器 第1段階		外面一部、被熱。
141	7住	深鉢	胴	渦巻紋、沈線紋	唐草紋系土器 第2～第3段階		
142	8住	深鉢	口縁	摺曲紋小	中期中葉		外面一部、被熱。
143	8住	深鉢	胴	刺突紋、連続押圧紋	中期中葉		内面、被熱。
144	8住	深鉢	胴	沈線紋、交互刺突紋	中期中葉		内面一部、被熱。
145	8住 P1	深鉢(波状)	口縁	懸垂紋、J字状比隣紋	中期中葉		外面一部、スス付着。
146	8住 P1	深鉢(波状)	口縁	懸垂紋、沈線紋(J字状・縦位)	中期中葉		外面一部、スス付着。
147	8住 P1	深鉢(波状)	口縁	懸垂紋、比隣紋(J字状・縦位)	中期中葉		外面一部、スス付着。
148	8住 P1	深鉢	胴	隆帯紋、縦位比隣紋	中期中葉		外面一部、被熱・スス付着。
149	8住 P2	深鉢	口縁	刺突紋、押引紋	中期中葉		外面、被熱。
150	8住 P2	深鉢	胴	横位波状隆帯紋	中期中葉		
151	8住 P2	深鉢	胴	隆帯紋	中期中葉		内面一部、スス付着。
152	8住 P2	深鉢	胴	懸垂紋、連続押圧紋(隆帯輪)	中期中葉		
153	8住 P2	深鉢(波状)	口縁	縦位隆帯紋、縦位比隣紋	中期中葉		外面一部、被熱・スス付着。
154	9住	深鉢	胴	綾杉紋、蛇行沈線紋	唐草紋系土器 第3段階		外面一部、被熱。
155	9住	深鉢	胴	渦巻紋、沈線紋、刺突紋	唐草紋系土器 第3段階		
156	9住	深鉢	胴	斜行比隣 沈線紋(蛇行・縦位)	唐草紋系土器 第3段階		
157	9住	深鉢	胴	綾杉紋、胸骨紋or渦巻紋	唐草紋系土器 第3段階		胎土が粗い。
158	9住	深鉢	胴	斜行沈線紋、胸骨紋or渦巻紋	唐草紋系土器 第3段階		石英・雲母多量。外面一部、スス付着。
159	9住 P ⁴	深鉢	胴	綾杉紋	唐草紋系土器 第3段階		
160	9住 P ⁴	深鉢(波状)	口縁	斜行沈線紋	加賀利E式系土器小		内面に剥離あり。
161	10住	深鉢	胴	懸垂紋、綾杉紋、縦位比隣紋	唐草紋系土器 第3段階		
162	10住	深鉢	胴	縄紋(縦)、懸垂紋	唐草紋系土器 第3段階		内面、拍頭圧痕あり。内面一部、スス付着。
163	10住	深鉢	胴	胸骨紋	唐草紋系土器 第3段階		
164	11住	深鉢	口縁	横位比隣紋、横位隆帯紋、刺突紋	唐草紋系土器 第2段階小		外面一部、スス付着。内面一部、剥離あり。

図 No.	遺構	器形	部位	地紋	主な紋様	時期	備考
165	11住	深鉢	胴		条線紋	唐草紋系土器 第2段階小	外面一部、被熱により黒変。
166	11住	深鉢	胴		沈線紋、縄紋(LR縦)	唐草紋系土器 第2段階小	内面、被熱。
167	11住	深鉢	胴		横位珠帯紋、縦位沈線紋	唐草紋系土器 第2段階小	外面、被熱。
168	11住	深鉢	口縁		条線紋、口唇部に刻み	唐草紋系土器 第2段階小	内・外面一部、被熱。
169	11住	深鉢	胴		懸垂紋、斜行集合沈線紋(綾杉紋小)	唐草紋系土器 第2～第3段階	磨減が激しい。
170	12住	深鉢	胴		渦巻紋(胸骨紋小)、斜行沈線紋	唐草紋系土器 第2～第3段階	外面一部、被熱。
171	12住	深鉢	胴		横位沈線紋、綾杉紋	唐草紋系土器 第2～第3段階	外面、被熱。
172	12住	深鉢	胴		渦巻紋、斜行沈線紋	唐草紋系土器 第2～第3段階	外面一部、被熱。
173	12住	深鉢	口縁		横位珠帯紋、横位沈線紋、交互刺突紋	唐草紋系土器 第2～第3段階	内面に粘土結貼付。
174	14住	深鉢	胴		珠帯紋、縦位沈線紋(浅)	唐草紋系土器	
175	14住	深鉢	胴		綾杉紋	唐草紋系土器 第2段階	磨減が激しい。
176	14住	深鉢	胴		梯子状沈線紋、刺突紋	唐草紋系土器 第1段階	内面、被熱・スス付着。
177	14住	深鉢	胴		縦位沈線紋、珠帯紋(上に粘土結貼付)	唐草紋系土器 第1段階	内面、被熱。
178	15住	深鉢	胴		襷曲紋	唐草紋系土器 第1段階	外面一部、被熱。
179	15住	深鉢	胴		縄紋(RL横)	唐草紋系土器	外面一部、被熱・スス付着。
180	15住	深鉢(皮状)	口縁		懸垂紋、縦位沈線紋	唐草紋系土器 第1段階	内面、三又状の施文あり。
181	15住	深鉢	胴		懸垂紋、沈線紋(横位・縦位)	唐草紋系土器 第1段階	外面一部にスス付着。
182	15住	深鉢	胴		懸垂紋、沈線紋(横位・縦位)	唐草紋系土器 第1段階	外面一部、被熱。
183	15住	深鉢	胴		横位沈線紋、押引紋(縦位)	唐草紋系土器 第1段階	
184	15住	深鉢	胴		縦位集合平行沈線紋	唐草紋系土器 第1段階	輪積み痕あり。外面一部、被熱。
185	15住	深鉢	口縁		縦位集合平行沈線紋	唐草紋系土器 第1段階	内・外面一部、被熱。内面、粘土結貼付。
186	17住	深鉢	胴		渦巻紋(沈線)、縄紋(LR横)	唐草紋系土器	外面一部、被熱。
187	17住	深鉢	胴		渦巻紋(珠帯)	唐草紋系土器	
188	17住	深鉢	胴		懸垂紋、刺突紋小	唐草紋系土器	内・外面一部、スス付着。
189	17住	深鉢	胴		梯子状沈線紋	唐草紋系土器	
190	18住	深鉢	胴		懸垂紋小、縦位沈線紋	唐草紋系土器 第4段階	外面一部、被熱。
191	18住	深鉢	胴		珠帯紋(渦巻紋小)、縄紋(RL横)	唐草紋系土器 第4段階	
192	18住	深鉢	胴		懸垂紋	唐草紋系土器 第4段階	内面、剥離あり。
193	18住	深鉢	胴		懸垂紋(胸骨紋小)、斜行沈線紋(綾杉紋小)	唐草紋系土器 第4段階	外面一部、被熱。
194	18住	深鉢	胴		縦位沈線紋	唐草紋系土器 第4段階	内面一部、スス付着。
195	18住	深鉢	胴		刺突紋(胸骨紋小)	唐草紋系土器 第4段階	
196	18住	深鉢	口縁		珠帯紋	唐草紋系土器 第4段階	内・外面一部、被熱。
197	18住	深鉢	胴		縦位沈線(浅)	唐草紋系土器 第4段階	内面、輪積み痕・指頭圧痕あり。外面一部、被熱。
198	18住	深鉢	胴		懸垂紋(胸骨紋小)、斜行沈線紋(綾杉紋小)	唐草紋系土器 第4段階	内面、被熱。磨減が激しい。
199	18住	深鉢	胴		与工状、斜行沈線紋	唐草紋系土器 第4段階	外面一部、スス付着。
200	18住	深鉢	胴	縄紋(LR横 or無筋)	沈線紋(縦位・縦位蛇行)	唐草紋系土器 第4段階	磨減が激しい。内面、被熱。
201	18住	深鉢	胴	縄紋(LR縦)	渦巻紋(沈線)	唐草紋系土器 第4段階	
202	18住	深鉢	胴		縦位沈線紋	唐草紋系土器 第4段階	輪積み痕あり。外面一部、指頭圧痕あり。磨減が激しい。
203	19住	深鉢	胴		襷曲紋	唐草紋系土器 第1段階	
204	19住	深鉢	胴		襷曲紋	唐草紋系土器 第1段階	内・外面一部、被熱。
205	19住	深鉢	胴		胸骨紋、縦位沈線紋、綾杉紋、刺突紋	中期中葉～唐草紋系土器 第1段階	
206	19住	深鉢(皮状)	口縁		懸垂紋、縦位沈線紋	井戸尻式期小	外面一部、被熱。
207	20住	深鉢	口縁		横位珠帯紋、楕円区画紋	加舍利式土器小	外面一部、被熱。
208	20住	深鉢	胴		懸垂紋(胸骨紋小)、斜行沈線(綾杉紋小)	唐草紋系土器	磨減が激しい。
209	20住	深鉢	口縁		渦巻紋(沈線)、横位沈線紋	唐草紋系土器 第4段階	内面一部、被熱。内面に粘土結貼付。
210	20住	深鉢	胴	縄紋(LR縦)	縦位沈線紋	唐草紋系土器 第4段階	輪積み痕あり。外面一部、被熱・スス付着。
211	20住	深鉢	胴	縄紋(LR横)	縦位沈線紋	唐草紋系土器 第4段階	輪積み痕あり。外面一部、被熱・スス付着。
212	20住	深鉢	胴		胸骨紋、斜行沈線紋(綾杉紋小)	唐草紋系土器 第3段階	内面一部、被熱。
213	20住	深鉢	胴		縄紋(LR縦)	唐草紋系土器	外面一部、スス付着。一部、磨消あり。
214	20住	深鉢	胴		渦巻紋、刺突紋、横位沈線紋	唐草紋系土器	
215	20住	深鉢	胴		縦位沈線紋、綾杉紋	唐草紋系土器	内面、指頭圧痕あり。外面一部、被熱・スス付着。
216	20住	深鉢	胴		渦巻紋、斜行沈線紋、条線紋	唐草紋系土器	内面、被熱・スス付着。
217	20住	深鉢	胴		綾杉紋	唐草紋系土器	内面一部、被熱。
218	20住	深鉢	胴		渦巻紋(沈線)	中期後半	
219	20住	深鉢	胴		懸垂紋(胸骨紋小)、斜行沈線紋(綾杉紋小)	唐草紋系土器	内面一部、被熱。外面一部、スス付着。
220	20住	深鉢	口縁		渦巻紋、沈線紋(横位・縦位・蛇行)	唐草紋系土器	内面、輪積み痕あり。

図 No.	遺構	器形	部位	地紋	主な紋様	時期	備考
221	20住	深鉢	胴		渦巻紋、交互刺突紋、刺突紋、縦位集合沈線紋	唐草紋系土器 第2段階	外面一部、被熱。一部、剥離あり。
222	20住	深鉢	胴		縦位沈線紋、波状集合沈線	唐草紋系土器	外面一部、被熱。
223	20住	深鉢	胴		懸垂紋(胸骨紋小)、斜行沈線紋(綾杉紋小)	唐草紋系土器	徒成が悪い。
224	20住	深鉢	胴		胸骨紋、縄紋(LX横)	唐草紋系土器 第3段階	内面、被熱・スス付着。
225	20住	深鉢	胴		蛇行沈線紋、縄紋(丸縦)	唐草紋系土器 第4段階	内面一部、被熱。
226	20住	深鉢	胴		縄紋(LX縦)	唐草紋系土器 第4段階	外面一部、被熱・スス付着。
227	20住	深鉢	胴		浮線紋(押し引き)	唐草紋系土器	磨減が激しい。
228	20住	深鉢	口縁		斜行沈線紋	唐草紋系土器	
229	22住	深鉢	胴		押し紋、縄紋(LX縦)、波状隆帯紋	新道式期	
230	22住	深鉢	胴		縦位沈線紋	平出田A小	
231	22住	深鉢	胴		半隆帯紋(上に刻み・縦位沈線)	新道式期	
232	22住	深鉢	口縁		押し紋	中期中葉	
233	22住	深鉢	口縁		比隣紋(横位・蛇行平行)	中期中葉	
234	25住	深鉢	胴		比隣紋(横位・蛇行)	唐草紋系土器 第2段階	
235	25住	深鉢	胴		渦巻紋(隆帯)、交互刺突紋、綾杉紋	唐草紋系土器 第2段階	内・外面一部、被熱。内面一部、スス付着。
236	25住 炉	深鉢	胴		楕円区画紋、縦位平行沈線紋、刺突紋	唐草紋系土器	内面、指頭圧痕あり。
237	3土	深鉢	口縁		縦位隆帯紋、縦位沈線紋	唐草紋系土器	
238	3土	深鉢	胴		平行沈線紋、懸垂紋(胸骨紋小)	唐草紋系土器	
239	5土	深鉢	胴		懸垂紋、縦位沈線紋	唐草紋系土器	
240	5土	深鉢	胴		斜行沈線紋	唐草紋系土器	
241	6土	深鉢	胴		隆帯紋(楕円区画紋小)、沈線紋(斜行・横位)	唐草紋系土器	
242	6土	深鉢	底		網代痕	唐草紋系土器	
243	7土	深鉢	胴	縄文(LX横)	懸垂紋(胸骨紋小)、刺突紋	唐草紋系土器	
244	7土	深鉢	胴		渦巻紋(沈線)、縦位蛇行沈線紋	唐草紋系土器	外面一部、スス付着。
245	8土	深鉢	胴		沈線紋(横位・斜行)	唐草紋系土器	
246	8土	深鉢	胴	縄文(LX縦)	縦位沈線紋	唐草紋系土器	内面、指頭圧痕小。磨減が激しい。
247	8土	深鉢	胴		渦巻紋	唐草紋系土器	
248	10土	深鉢	胴		懸垂紋、縦位沈線紋	唐草紋系土器	外面、被熱。
249	10土	深鉢	胴		半隆帯紋	唐草紋系土器	外面、被熱。
250	10土	深鉢	胴		渦巻紋、沈線紋(縦位平行・縦位蛇行・斜行)	唐草紋系土器 第2～第3段階	外面、被熱。
251	11土	深鉢	胴		縦位沈線紋	唐草紋系土器	外面一部、被熱。
252	15土	深鉢	胴		隆帯紋小	加曾利E系土器	
253	50土	深鉢	胴		懸垂紋、綾杉紋	唐草紋系土器 第2～第3段階	外面一部、スス付着。
254	50土	深鉢	胴		懸垂紋、綾杉紋	唐草紋系土器 第2～第3段階	内面一部、スス付着。外面一部、被熱。
255	50土	深鉢	胴		綾杉紋	唐草紋系土器 第2～第3段階	
256	2溝	深鉢(底状)	口縁		渦巻紋、逆U字状沈線紋、縄紋(丸横)	唐草紋系土器 第2～第3段階	混入品。内面一部、被熱。外面一部、スス付着。
257	2溝	深鉢	胴		綾杉紋、懸垂紋(胸骨紋小)	唐草紋系土器 第2～第3段階	混入品。外面一部、被熱により黒化。
258	2溝	深鉢	胴		渦巻紋、斜行沈線紋(綾杉紋小)	唐草紋系土器 第2～第3段階	混入品。
259	2溝	深鉢	口縁		勾玉状紋	唐草紋系土器 第4段階	混入品。
260	2溝	深鉢(底状)	口縁		渦巻紋(隆帯)、縄紋(LX縦)	加曾利E系土器小	混入品。
261	2溝	深鉢	口縁		刺突紋(円垂紋小)	唐草紋系土器 第2～第3段階	混入品。外面一部、被熱・スス付着。
262	2溝	深鉢	口縁		横位平行沈線紋	唐草紋系土器 第2～第3段階	混入品。内面、粘土線胎付。
263	2溝	深鉢	胴		沈線紋、縄紋(丸縦)	唐草紋系土器 第2～第3段階	混入品。輪痕み痕あり。外面一部、被熱・スス付着。
264	TH-2 検	深鉢	胴		懸垂紋(胸骨紋小)、綾杉紋	唐草紋系土器 第2～第3段階	
265	TH-2 検	深鉢	胴		比隣紋(横位・縦位平行)	唐草紋系土器	
266	TH-2 検	深鉢	胴		楕円区画紋(刺突紋、斜行集合沈線紋)	唐草紋系土器 第4段階	内面一部、剥離あり。
267	TH-2 検	深鉢	胴		胸骨紋、交互刺突紋、刺突紋	唐草紋系土器	
268	TH-3 検	深鉢	胴		楕円区画紋、斜行集合沈線紋	唐草紋系土器	磨減が激しい。
269	TH-4 検	深鉢	胴		棒子状比隣紋	唐草紋系土器 第1段階	外面一部、スス付着。
270	TH-4 検	深鉢	胴		懸垂紋(胸骨紋小)、沈線紋、刺突紋	唐草紋系土器 第4段階	
271	TH-4 検	深鉢	胴		比隣紋(横位・斜行)	唐草紋系土器 第4段階	外面一部、スス付着。
272	TH-4 検	深鉢	口縁		勾玉状紋	唐草紋系土器	内・外面一部、被熱。内面一部、スス付着。
273	TH-4 検	深鉢	口縁		懸垂紋、比隣紋(縦位・斜行)	唐草紋系土器	内面一部、スス付着。
274	TH-4 検	深鉢	胴		綾杉紋	唐草紋系土器 第4段階	指による傷痕。
275	TH-4 検	深鉢	胴		横位隆帯紋、綾杉紋	唐草紋系土器	外面一部、スス付着。

図 No.	遺構	器形	部位	地紋	主な紋様	時期	備考
276	TH-4 検	深鉢	口縁		隆帯紋、縦位平行沈線紋	唐草紋系土器	
277	TH-4 検	深鉢	胴		隆帯紋(一部、上に刻み)、斜行集合平行沈線紋	唐草紋系土器 第2~第3段階	
278	TH-4 検	深鉢	口縁		縦位隆帯紋(指頭圧痕あり)、横位蛇行沈線紋	唐草紋系土器	外面一部、被熱。
279	TH-4 検	深鉢	胴		比濃紋(縦位・縦位)	平出皿小	内面一部、スス付着。
280	TH-4 検	深鉢	胴		比濃紋(斜行・横位・縦位平行)、交互斜突紋	唐草紋系土器 第2~第3段階	
281	TH-4 検	深鉢	胴		渦巻紋、綾杉紋	唐草紋系土器	外面一部、被熱・スス付着。
282	TH-4 検	深鉢	胴		横位隆帯紋、梯子状沈線紋	唐草紋系土器	内・外面一部、被熱。
283	TH-6 検	深鉢	胴		縦位沈線紋	唐草紋系土器	
284	TI-4 検	深鉢	胴		比濃紋(斜行平行、縦位平行)	唐草紋系土器 第1段階	内・外面一部、被熱。外面、指頭圧痕あり。
285	TJ-2 検	深鉢	胴		横位隆帯紋(側面に刻み)、縄紋(LR縦)、斜突紋	唐草紋系土器	
286	TJ-2 検	深鉢	胴		綾杉紋	唐草紋系土器	外面一部、被熱。
287	TJ-3 検	深鉢	胴		懸垂紋(胸骨紋小)、綾杉紋	唐草紋系土器	外面一部、被熱。
288	TH-4 包	深鉢	胴		沈線紋(縦位・逆U字)、縄紋(LR横)、斜突紋	唐草紋系土器	
289	TI-3 包	深鉢	胴		横位蛇行隆帯紋、斜行比濃紋(浅)	唐草紋系土器 第4段階	
290	TI-3 包	深鉢	胴		蛇行隆帯紋、沈線紋(浅)	唐草紋系土器 第4段階	
291	TI-3 包	深鉢	胴		縄紋(LR横)	唐草紋系土器 第3段階以降	
292	TI-3 包	深鉢	胴		懸垂紋	唐草紋系土器	外面一部、被熱。
293	TI-3 包	深鉢	胴		比濃紋(縦位・縦位)	唐草紋系土器 第2段階	外面一部、被熱・スス付着。
294	TI-3 包	深鉢	胴		渦巻紋(沈線)、沈線紋(縦位・縦位蛇行)	唐草紋系土器 第2段階	外面一部、被熱・スス付着。
295	TI-3 包	深鉢	口縁		横位沈線紋	唐草紋系土器 第2段階	外面一部、スス付着。
296	TI-3 包	深鉢	胴		縦位沈線紋	唐草紋系土器	磨減が激しい。
297	TI-3 包	深鉢	胴		縦位隆帯紋、比濃紋(縦位・縦位)	唐草紋系土器 第3段階	内面一部、被熱。
298	TI-3 包	深鉢	胴		比濃紋	唐草紋系土器 第1段階	
299	TI-3 包	深鉢	胴		横位隆帯紋、斜突紋、縦位平行沈線紋	唐草紋系土器	
300	TI-3 包	深鉢	胴		縄紋(LR縦)	唐草紋系土器 第3段階以降	磨減が激しい。内面、被熱・スス付着。
301	TI-3 包	深鉢	口縁		懸垂紋(胸骨紋小)	唐草紋系土器	内面に横位沈線紋あり。
302	TI-3 包	深鉢(底状)	口縁		縦位沈線紋、横位隆帯紋、縄紋(LR横)	唐草紋系土器	内・外面一部、被熱。
303	TI-3 包	深鉢	口縁		横位沈線紋、隆帯紋(腹状or渦巻き)、縄紋(LR横)	唐草紋系土器 第4段階	外面一部、被熱。
304	TI-3 包	深鉢	口縁		沈線紋、縄紋(LR横)	唐草紋系土器 第4段階	
305	TI-3 包	深鉢	胴		懸垂紋、縦位沈線紋	唐草紋系土器	内・外面一部、被熱。
306	TI-3 包	深鉢	胴		隆帯紋(縦位・縦位)、縦位沈線紋	唐草紋系土器	
307	TI-3 包	深鉢	口縁		楕円区画紋(隆帯紋、縦位沈線紋)	唐草紋系土器 第3段階	外面一部、被熱により黒変。
308	TI-4 包	深鉢	口縁		縄紋(LR横)、縦位沈線紋	唐草紋系土器 第3段階以降	
309	TH-3 覆	深鉢	胴		縄紋(LR縦)	唐草紋系土器 第3段階以降	外面一部、被熱。
310	TH-3 覆	深鉢	胴		縦位隆帯紋、縦位沈線紋	唐草紋系土器 第4段階	外面一部、スス付着。
311	TH-6 覆	深鉢	胴		縄紋(LR横)	唐草紋系土器	
312	TI-3 覆	深鉢	胴		縄紋(LR横)	唐草紋系土器	内・外面一部、被熱。
313	TI-6 覆	深鉢	胴		楕円区画紋(隆帯紋(上に刻み)、交互斜突紋・横位沈線紋)	中期中葉	内面、被熱により変色。
314	TI-6 覆	深鉢	胴		斜行沈線紋、押引紋	中期中葉	
315	TJ-6 覆	深鉢(底状)	口縁		縦位隆帯紋(上に刻み)、連続押圧紋(縦位・隆帯輪)	中期中葉	
316	TJ-7 覆	深鉢	胴		横位隆帯紋(上に刻み)、横位蛇行沈線紋、縄紋(LR縦)	中期中葉	
317	TJ-7 覆	深鉢	口縁		斜行集合沈線紋	唐草紋系土器	
318	TH-3 排	深鉢	口縁		勾玉状紋	唐草紋系土器 第4段階	外面一部、被熱。
319	TH-3 排	深鉢	胴		蛇行沈線紋	唐草紋系土器 第2段階	内面、被熱。
320	TH-3 排	深鉢	胴		隆帯紋(縦位・横位)、縦位沈線紋	唐草紋系土器	外面一部にスス付着。
321	TH-3 排	深鉢	胴		比濃紋	中期後半	内面一部、黒変。
322	TH-3 排	深鉢	胴		渦巻紋(隆帯)、縄紋(LR横)	唐草紋系土器 第3段階or加曾利E系	内面一部、被熱。外面一部、スス付着。
323	TH-3 排	深鉢	胴		縦位沈線紋	唐草紋系土器	磨減が激しい。
324	TH-3 排	深鉢(底状)	口縁		渦巻紋	唐草紋系土器 第4段階	
325	TH-3 排	深鉢	胴		楕円区画紋(斜行沈線紋)、三叉紋	中期中葉	内面一部、剥離あり。
326	TH-3 排	深鉢	胴		渦巻紋(隆帯)	唐草紋系土器	外面一部、スス付着。
327	TH-3 排	深鉢	胴		渦巻紋、縦位沈線紋	唐草紋系土器 第2段階	
328	TH-3 排	深鉢	胴		胸骨紋、沈線紋、綾杉紋	唐草紋系土器 第2段階	
329	TH-3 排	深鉢	口縁		横位隆帯紋	唐草紋系土器	
330	TJ-2 排	深鉢	胴		懸垂紋、縦位沈線紋	唐草紋系土器 第1段階	内面一部、スス付着。

第4表 石器・石製品一覧表

注記 No.	例 No.	原種	次数	区	トレンチ No.	遺構	石材	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	破損状況	備考
780		石鏃	2	J	TJ-2	4住	黒曜石	12.9	9.8	2.9	10.3	片刃部欠損	無葉平基鏃
750	1	石鏃	2	J	TJ-2	4住	黒曜石	(12.8)	(15.3)	(3.5)	10.0	刃部・片刃部欠損	無葉凹基鏃、片刃部 分磨製
784	2	石鏃	2	J	TJ-2	4住	チャート	37.8	29.1	10.8	9.5		無葉凹基鏃
809	3	石鏃	2	J	TJ-3	7住	チャート	(32.1)	(14.1)	4.7	(1.7)	片刃部欠損	無葉凹基鏃
904		石鏃	2	J	TJ-3	8住	黒曜石	(15.2)	(13.9)	(4.3)	10.0	刃部欠損	
1009		石鏃	2	J	TJ-3	8住	チャート	20.5	13.7	5.0	1.5	基部・片刃部欠損	無葉平基鏃
1092		石鏃	2	J	TJ-3	8住	黒曜石	(27.6)	15.9	(4.7)	10.0	片刃部欠損	
1093	4	石鏃	2	J	TJ-3	8住	黒曜石	(16.5)	(11.0)	(4.0)	10.4	片刃部欠損	無葉凹基鏃
1134	5	石鏃	2	J	TJ-3	8住	黒曜石	21.9	15.3	4.1	1.4		無葉凹基鏃
1135		石鏃	2	J	TJ-3	8住	黒曜石	(24.0)	(10.9)	(4.2)	10.7	片刃部欠損	無葉凹基鏃
410	6	石鏃	2	H	TH-4	16住	黒曜石	18.7	14.0	2.4	0.5		無葉凹基鏃
428	7	石鏃	2	H	TH-4	17住	チャート	(20.6)	22.3	8.1	3.6	刃部欠損	無葉凹基鏃
573	8	石鏃	2	H	TH-4	横出面	黒曜石	17.3	9.4	3.5	0.4		無葉平基鏃、石鏃の 可能性あり
577	9	石鏃	2	H	TH-4	横出面	黒曜石	19.6	19.8	3.5	1.0		無葉平基鏃
593	10	石鏃	2	H	TH-4	横出面	チャート	24.5	12.4	3.9	1.0		有葉凸基鏃
648	11	石鏃	2	I	TI-3	8上	チャート	(16.0)	14.2	4.0	0.7	刃部欠損	無葉凹基鏃
874		石鏃未成品	2	J	TJ-3	7住	黒曜石	22.7	16.8	7.0	1.6		有葉凸基鏃
891		石鏃未成品	2	I	TI-3	横出面	黒曜石	25.7	11.8	3.8	1.0		有葉凸基鏃
785	12	石鏃	2	J	TJ-2	4住	チャート	25.1	7.8	2.9	0.5		棒状形
843	13	石鏃	2	J	TJ-2	6住	黒曜石	(23.9)	21.9	8.2	(3.2)	基部欠損	
873	14	石鏃	2	J	TJ-3	7住	黒曜石	17.5	11.0	4.3	0.6		
1136	15	石鏃	2	J	TJ-3	8住	黒曜石	(11.6)	15.8	4.8	10.0	基部欠損	基部段数ありか
1137	16	石鏃	2	J	TJ-3	8住	黒曜石	21.5	12.1	3.0	0.6		石鏃破損品小
729	17	石鏃	2	I	TI-3	横上	黒曜石	30.5	25.8	8.1	2.8		
751		柄鏃	2	J	TJ-2	4住	チャート	21.2	32.3	11.4	7.0		
845		柄鏃	2	J	TJ-2	6住	チャート	37.1	54.3	15.2	31.1		
896		柄鏃	2	J	TJ-3	7住	砂岩	(30.0)	(39.6)	(15.0)	(30.2)	1面欠損	
1010		柄鏃	2	J	TJ-3	8住	黒曜石	24.2	17.3	10.3	3.0		
1095	18	柄鏃	2	J	TJ-3	8住	黒曜石	16.2	19.8	6.9	2.6		
1139		柄鏃	2	J	TJ-3	8住	黒曜石	11.1	33.3	12.0	3.0		
644		柄鏃	2	I	TI-3	7上	チャート	32.8	50.4	21.1	32.5		
649		柄鏃	2	I	TI-3	9上	黒曜石	14.4	21.9	6.3	2.2		
781		柄鏃	2	J	TJ-2	4住	黒曜石	30.2	43.8	11.2	7.2		
868		柄鏃	2	J	TJ-3	7住	黒曜石	23.8	26.0	11.8	3.8		
905		柄鏃	2	J	TJ-3	8住	黒曜石	16.8	20.9	5.0	1.7		
1100		柄鏃	2	J	TJ-3	8住	チャート	29.0	36.5	8.9	8.2		
1098	19	柄鏃	2	J	TJ-3	8住	チャート	46.8	61.7	14.4	32.7		横刃割片素材
1138		柄鏃	2	J	TJ-3	8住	黒曜石	15.6	27.4	7.4	3.1		
308	20	柄鏃	2	H	TH-3	10住	黒曜石	12.6	29.2	7.2	1.6		
378		柄鏃	2	H	TH-4	14住	黒曜石	27.9	36.5	8.2	5.6		
406		柄鏃	2	H	TH-4	15住	黒曜石	24.0	19.5	6.2	2.7		
423		柄鏃	2	H	TH-4	17住	黒曜石	16.4	23.9	4.0	1.0		
416		柄鏃	2	H	TH-4	17住	チャート	46.4	44.2	13.9	26.3		
447		柄鏃	2	H	TH-4	19住	黒曜石	16.7	21.7	5.4	1.2		
456		柄鏃	2	H	TH-4	19住	チャート	25.4	38.7	11.3	8.8		
528		柄鏃	2	H	TH-4	20住	砂岩	31.8	41.5	8.2	10.5		
564		柄鏃	2	H	TH-4	横出面	黒曜石	(17.2)	(22.9)	(3.9)	(1.2)	1面欠損	
690	21	柄鏃	2	I	TI-3	横出面	黒曜石	14.7	25.6	10.0	2.9		

仕組 No.	用 No.	部材	次数	区	トレンチ No.	造機	石材	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	破損状況	備考
633		削面	2	I	TH-3	5土	黒曜石	17.2	25.2	7.0	2.1		残りありか
643		削面	2	I	TH-3	7土	チャート	20.2	33.5	9.5	3.7		
351		削面	2	H	TH-3	機尻		18.9	28.3	9.7	4.9		
313		抉入石部	2	H	TH-3	11住	黒曜石	16.6	19.5	6.3	1.6		
674	22	抉入石部	2	I	TH-3	13土	珪質頁岩	20.2	20.7	10.3	2.7		
698	23	抉入石部	2	I	TH-3	機出面	チャート	10.7	30.8	8.7	2.2		
4		ビスエスエーユ	2	G	TG-1	1住	黒曜石	14.4	14.2	5.3	0.7		石核素材
6		ビスエスエーユ	2	G	TG-1	1住	黒曜石	17.7	19.7	11.0	2.9		石核素材
196		ビスエスエーユ	2	H	TH-2	3住	黒曜石	33.4	19.3	9.3	4.0		削片素材
1011		ビスエスエーユ	2	J	TJ-3	8住	黒曜石	14.3	13.3	4.8	0.7		削片素材
1097		ビスエスエーユ	2	J	TJ-3	8住	黒曜石	16.9	14.1	7.6	1.4		削片素材
1142	24	ビスエスエーユ	2	J	TJ-3	8住	黒曜石	18.3	14.8	6.9	1.8		削片素材
41	25	石造	2	H	TH-2	2住	珪質頁岩	29.4	55.1	9.3	11.9		縦型削片
368		石造	2	H	TH-4	14住	珪質頁岩	(28.5)	(20.9)	(7.3)	(4.7)		縦型削片
408	26	石造	2	H	TH-4	15住	チャート	38.7	51.2	15.5	19.8		縦型削片
555	27	石造	2	H	TH-4	機尻	ホルンフェルス	112.5	43.7	11.4	71.6		縦型削片
141		打製石片	2	H	TH-2	3住	炭質頁岩	(44.0)	(40.9)	(8.3)	(19.5)		基部・片側欠損 円刃
836	28	打製石片	2	J	TJ-2	5住	炭質頁岩	(113.3)	57.0	14.9	(101.0)		刃部一部欠損 扇形円刃
312	29	打製石片	2	H	TH-3	11住	炭質頁岩	(70.0)	(56.4)	(22.2)	(128.9)		刃部・基部欠損 知照形
485	30	打製石片	2	H	TH-4	19住	頁岩	119.7	58.9	17.6	(145.5)		基部一部欠損 分銅型凹円刃
1223	31	打製石片	3	I	TH-6	25住	ホルンフェルス	(81.8)	62.5	21.3	(109.4)		基部欠損 扇形円刃
541	32	打製石片	2	H	TH-4	2溝	頁岩	(98.4)	(59.5)	(22.2)	(164.7)		分銅型
671	33	打製石片	2	I	TH-3	10土	ホルンフェルス	(58.2)	(40.0)	(11.2)	(32.5)		刃部欠損 扇形
624	34	打製石片	2	H	TH-4	機出面	粘板岩	74.1	50.5	10.2	46.5		
703	35	打製石片	2	I	TH-3	機出面	珪質頁岩	(166.4)	(65.0)	21.3	261.9		刃部欠損 扇形
746		打製石片	2	I	TH-4	機出面	凝灰岩	(75.1)	(47.7)	(13.8)	(41.9)		刃部欠損 扇形
352	36	打製石片	2	H	TH-3	耕上	炭質頁岩	(85.5)	(45.5)	(16.3)	(74.2)		刃部欠損 扇形
1201	37	打製石片	2	J	TJ-3	表採	粘板岩	81.4	44.6	14.2	53.8		知照形尖刃
710		打製石片	2	I	TH-3	包含層	炭質頁岩	(64.8)	(51.0)	(15.6)	(49.8)		下半欠損 扇形
1213	38	打製石片	3	H	TH-6	機出面	砂岩	(133.7)	(104.9)	(32.9)	(617.9)		刃部欠損 知照形
991		磨製石片	2	J	TJ-3	8住	凝灰岩	(17.9)	(16.0)	(5.5)	(1.5)		小片残 定角式
544	39	磨製石片	2	H	TH-4	2溝	凝灰岩	(115.5)	(48.8)	24.4	(221.3)		刃部一部欠損 定角式、両凸円刃
3		横対形石部	2	G	TG-1	1住	砂岩	86.1	61.0	23.2	135.8		縦長削片素材
29	40	横対形石部	2	G	TG-1	1住	砂岩	109.0	54.2	20.7	105.7		縦長削片素材
37	41	横対形石部	2	H	TH-2	2住	砂岩	92.7	76.3	30.7	174.1		縦長削片素材
42		横対形石部	2	H	TH-2	2住	砂岩	58.2	63.3	38.3	141.0		
195		横対形石部	2	H	TH-2	3住	砂岩	73.6	56.4	23.7	87.0		縦長削片素材
220		横対形石部	2	H	TH-2	3住	ホルンフェルス	(46.3)	(65.7)	(14.4)	(49.8)		2/3以上欠損 刃部破滅
221	42	横対形石部	2	H	TH-2	3住	砂岩	(100.0)	(70.1)	(22.4)	(107.5)		1/3欠損 縦長削片素材
902		横対形石部	2	J	TJ-3	7住	砂岩	(53.4)	(56.0)	(13.3)	(48.2)		
1143		横対形石部	2	J	TJ-3	8住	珪質頁岩	(45.1)	(47.0)	(11.3)	(23.1)		縦長削片素材
306		横対形石部	2	H	TH-3	10住	ホルンフェルス	76.7	43.7	19.4	67.8		縦長削片素材
304		横対形石部	2	H	TH-3	10住	砂岩	110.3	55.4	31.0	124.7		縦長削片素材
355	43	横対形石部	2	H	TH-4	14住	緑色凝灰岩	86.6	98.3	27.2	178.7		縦長削片素材
402	44	横対形石部	2	H	TH-4	15住	粘板岩	119.5	43.7	17.6	105.7		縦長削片素材
403		横対形石部	2	H	TH-4	15住	砂岩	112.1	(88.1)	35.8	323.3		1/3欠損 縦長削片素材
404		横対形石部	2	H	TH-4	15住	砂岩	79.5	86.5	23.3	157.0		縦長削片素材
412		横対形石部	2	H	TH-4	16住	頁岩	72.3	58.9	19.5	83.0		縦長削片素材
430	45	横対形石部	2	H	TH-4	17住	チャート	59.5	47.9	12.7	27.8		縦長削片素材

品目 No.	図 No.	名称	次数	区	トレンチ No.	造橋	石材	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	撮影状況	備考
465		横列形石蓋	2	H	TH-4	19 住	砂岩	119.3	78.6	44.8	289.4		縦長割片素材
524		横列形石蓋	2	H	TH-4	20 住	砂岩	73.1	77.5	29.5	159.0		
525		横列形石蓋	2	H	TH-4	20 住	砂岩	94.6	53.2	22.6	96.4		縦長割片素材
543		横列形石蓋	2	H	TH-4	2 溝	砂岩	94.3	72.8	22.4	132.8		縦長割片素材
542		横列形石蓋	2	H	TH-4	2 溝	鵜沢岩	80.3	56.3	23.5	110.3		縦長割片素材
645		横列形石蓋	2	I	TI-3	7 土	砂岩	58.4	37.9	12.8	20.5		
654		横列形石蓋	2	I	TI-3	9 土	頁岩	78.7	41.3	10.9	32.1		縦長割片素材
350		横列形石蓋	2	H	TH-3	横出面	鵜沢岩	97.4	50.4	20.9	119.1		縦長割片素材
359		横列形石蓋	2	H	TH-4	横出面	砂岩	70.4	65.8	16.7	65.7		
606		横列形石蓋	2	H	TH-4	横出面	砂岩	80.5	73.7	18.8	105.2		
608		横列形石蓋	2	H	TH-4	横出面	砂岩	91.1	47.1	23.2	73.5		縦長割片素材
610		横列形石蓋	2	H	TH-4	横出面	砂岩	87.1	67.6	30.5	97.9		縦長割片素材
612		横列形石蓋	2	H	TH-4	横出面	砂岩	89.6	42.9	27.1	98.6		縦長割片素材
613		横列形石蓋	2	H	TH-4	横出面	砂岩	66.3	58.7	10.2	32.6		
688		横列形石蓋	2	I	TI-3	横出面	霞貫頁岩	46.2	45.5	13.2	21.1		縦長割片素材
1208		横列形石蓋	3	H	TH-5	横出面	頁岩	(135.8)	(49.2)	(25.4)	(164.4)		縦長割片素材
1266	46	横列形石蓋	試験		T22	ビット-2	砂岩	84.9	44.0	9.3	46.8		縦長割片素材
878	47	丸蓋石蓋	2	J	TJ-3	7 住	緑色海尻岩	78.3	43.5	7.2	27.3		縦長割片素材
463		丸蓋石蓋	2	H	TH-4	19 住	砂岩	59.8	47.9	17.3	42.0		
349	48	丸蓋石蓋	2	H	TH-3	横出面	緑色海尻岩	79.0	51.9	15.1	98.6		
2	49	凹・崩・磨石	2	G	TC-1	1 住	砂岩	79.1	70.6	27.9	228.3		凹 2 面、崩 1
34	50	凹・崩・磨石	2	H	TH-2	2 住	砂岩	91.9	76.6	44.8	461.8		凹 2 面、崩 1、凹 2
35	51	凹・崩・磨石	2	H	TH-2	2 住	砂岩	68.8	45.4	21.4	110.6		凹 2 面、崩 2
36	52	凹・崩・磨石	2	H	TH-2	2 住	砂岩	85.4	65.2	31.4	291.3		凹 2 面
194	53	凹・崩・磨石	2	H	TH-2	3 住	砂岩	69.8	55.8	35.8	174.9		凹 2 面、崩 3、凹 1、溝は凹面側向きあり
872		凹・崩・磨石	2	J	TJ-3	7 住	安山岩	78.8	73.6	47.2	345.5		凹 2 面
741		凹・崩・磨石	2	I	TI-4	9 住	花崗岩	93.7	65.9	42.0	317.7		凹 1 面
327	54	凹・崩・磨石	2	H	TH-3	11 住	砂岩	(115.9)	(93.2)	(61.2)	(846.4)		凹 2 面、崩 2、溝は凹面側 2 本あり
437		凹・崩・磨石	2	H	TH-4	18 住	砂岩	(58.7)	(52.4)	(33.2)	(129.9)		凹 1 面
462		凹・崩・磨石	2	H	TH-4	19 住	砂岩	52.1	59.2	23.3	99.4		凹 2 面、崩 1
466	55	凹・崩・磨石	2	H	TH-4	19 住	安山岩	103.9	89.5	58.7	541.9		崩 2、凹 2
492		凹・崩・磨石	2	H	TH-4	20 住	砂岩	62.8	51.6	19.3	85.1		凹 2 面
534	56	凹・崩・磨石	2	H	TH-4	20 住	花崗岩	200.3	159.3	60.8	2300.0		凹 2 面、崩 1、凹 2
1210		凹・崩・磨石	3	H	TH-6	24 住	砂岩	113.4	61.8	45.3	423.0		凹 2 面、崩 1
639	57	凹・崩・磨石	2	I	TI-3	5 土	砂岩	121.0	70.1	36.6	432.8		凹 1 面
600		凹・崩・磨石	2	H	TH-4	横出面	砂岩	(112.4)	(60.3)	(46.6)	(401.7)		凹 1 面
601		凹・崩・磨石	2	H	TH-4	横出面	砂岩	(98.9)	(91.0)	(48.4)	(464.6)		凹 2 面
617		凹・崩・磨石	2	H	TH-4	横出面	砂岩	(30.3)	(42.2)	(9.2)	(13.8)		凹 2 面
621		凹・崩・磨石	2	H	TH-4	横出面	安山岩	(95.2)	(40.7)	(52.4)	(245.3)		縦軸に 2 分
684	58	凹・崩・磨石	2	I	TI-3	横出面	砂岩	59.1	52.3	45.6	181.8		崩 4
709		凹・崩・磨石	2	I	TI-3	凹面側	砂岩	(54.8)	(93.2)	(38.2)	(202.4)		凹 1 面
1214	59	凹・崩・磨石	3	H	TH-6	横出面	砂岩	98.1	72.1	30.7	299.0		凹 2 面、凹 2
752		巖石	2	J	TJ-2	4 住	砂岩	185.3	73.0	50.0	792.4		縦面 4 面
894	60	巖石	2	J	TJ-3	7 住	砂岩	(90.2)	(44.3)	(28.4)	(97.3)		2/3 以上欠損
999		巖石	2	J	TJ-3	8 住	砂岩	45.1	34.6	10.0	(20.8)		表面割落
1101		巖石	2	J	TJ-3	8 住	砂岩	(89.6)	(68.7)	(54.6)	(357.1)		2/3 以上欠損
413		巖石	2	H	TH-4	16 住	砂岩	(84.1)	(177.1)	(54.7)	(1220.0)		2/3 以上欠損
418		巖石	2	H	TH-4	17 住	砂岩	(141.6)	(70.8)	(48.5)	(761.9)		1/3 欠損
653		巖石	2	I	TI-3	9 土	頁岩	(31.5)	(66.7)	(27.3)	(38.5)		2/3 以上欠損

品目 No.	回 No.	銘柄	次数	区	トレンチ No.	造機	石材	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	破損状況	備考
597		原石	2	H	TH-4	抽出機	砂岩	1182.3	125.3	110.0	4180.0	1/2欠損	破面4面
685		原石	2	I	TI-3	抽出機	砂岩	75.7	120.3	36.4	461.2		破面4面
353		原石	2	H	TH-3	表採	砂岩	1138	85.5	60.3	827.7		樹皮状、溝状の微細 亀裂あり 破面2面
620	61	石皿	2	H	TH-4	抽出機	安山岩	222.0	165.2	79.0	3360.0	3/4欠損	
1204	62	石皿	2	J	TJ-4	攪乱	安山岩	251.1	145.9	68.0	2800.0	縦に1/2欠損	
711		不明	2	I	TI-3	包含機	泥質頁岩	25.3	17.0	4.7	1.9		打製石屑の破片か
17		石楯	2	G	GI-1	1往	黒曜石	14.4	19.7	11.5	2.1		打面数1
33		石楯	2	H	TH-2	2往	チャート	54.0	67.1	18.5	58.6		打面数1
95		石楯	2	H	TH-2	3往	チャート	34.8	52.3	29.6	55.4		打面数2
219		石楯	2	H	TH-2	3往	チャート	44.3	45.5	20.0	44.7		打面数2
786		石楯	2	J	TJ-2	4往	砂岩	56.8	52.5	54.8	153.4		打面数2
847		石楯	2	J	TJ-2	6往	チャート	18.3	44.2	31.3	17.0		打面数1、剥片素材
853		石楯	2	J	TJ-5	6往	泥質頁岩	61.5	66.4	42.5	158.6		打面数2
876		石楯	2	J	TJ-3	7往	チャート	15.7	24.4	33.2	15.0		打面数2
1131		石楯	2	J	TJ-3	8往	黒曜石	15.7	17.0	10.7	2.0		打面数2
438		石楯	2	H	TH-4	19往	黒曜石	19.3	33.3	18.2	9.7		打面数2
530		石楯	2	H	TH-4	20往	チャート	32.2	66.8	36.4	106.1		打面数2
545		石楯	2	H	TH-4	2溝	チャート	17.4	45.3	22.8	11.3		打面数1
697		石楯	2	I	TI-3	抽出機	チャート	64.9	39.0	23.6	52.3		打面数2
31		石楯	2	G	GI-1・2	表採	黒曜石	36.3	29.5	24.7	31.9		打面数2
45		原石	2	H	TH-2	2往	チャート	119.2	103.0	48.1	777.7		
49		原石	2	H	TH-2	2往	チャート	45.3	23.7	15.9	26.0		
268		原石	2	H	TH-2	3往	チャート	63.4	44.4	26.6	100.2		
846		原石	2	J	TJ-2	6往	チャート	76.9	43.6	25.0	101.1		古代以降か
1004		原石	2	J	TJ-3	8往	チャート	60.1	109.2	47.9	362.9		
1099		原石	2	J	TJ-3	8往	チャート	37.1	59.8	18.9	48.5		
637		原石	2	I	TI-3	5上	石英	63.0	20.6	20.6	39.8		
589		原石	2	H	TH-4	抽出機	チャート	39.7	64.7	41.1	104.7		
590		原石	2	H	TH-4	抽出機	チャート	32.5	74.4	59.7	133.9		
1207		原石	2			包含機	チャート	72.1	62.1	35.4	143.6		
1199		原石	2	J	TJ-3	攪乱	チャート	77.0	53.2	24.8	90.0		

※計測値の()内数値は現存値を表す。
※1.200g未満は0.1g単位、1.200g以上は20g単位。

	二次加工ある剥片	微細剝離ある剥片	剥片	破片	鏡片	合計
黒曜石	21	28	535	35		619
チャート	8	1	66	1	12	88
その他	1	1	178		87	267
合計	36	30	779	36	99	980

第5表 石器・石製品遺構単位器種組成一覧表

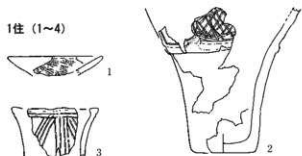
	石鏃	石鏃未成品	小形片断				石匙	打製石斧	磨製石斧	大形片断			磨石	石槌	原石	二次加工ある割片	微細磨面ある割片	割片	碎片	礫片	合計		
			削器	掻器	快入石器	ピエス工 スレユ				横刃部石器	尖頭石器	器・殻・磨石											
1住						2			2	1			1	1		22	1		30				
2住							1		2	3			1	2	2	13		8	32				
3住						1	1		3	1			2	1	2	9	151	6	12	189			
4住	3		1	1	1							1	1			2	69	2	81				
5住								1							2	3		1	7				
6住			1		1									2	1		1	6	12				
7住	1	1	1	1	1				2	1	1		1		2	2	17		5	36			
8住	6		2	3	3	3			1	2		2	1	2	3	3	224	29	7	291			
9住											1						8			9			
10住				1					2								2			5			
11住						1		1			1						9		3	15			
12住															1		6		2	9			
14住				1			1		1							2	18		1	24			
15住				1			1		3								14		2	21			
16住	1								1			1					3			6			
17住	1			2					1			1					1	9		15			
18住											1						3		1	5			
19住				2				1	1	1	2		1		4		25	1	4	42			
20住				1					2		2		1		2		14		8	30			
22住																	4			4			
23住																	1			1			
24住											1						2			3			
25住								1							1		26		4	32			
3土																	1			1			
5土				1							1				1		2		2	7			
7土				1	1				1								5			8			
8土	1																			1			
9土					1				1			1			2	2	15			22			
10土								1									1			2			
12土																			1	1			
13土						1											3			4			
50土																1	2			3			
1溝																	1			1			
2溝								1	1	2				1			4		1	10			
惣合制								1				1		1	1	2	5		5	16			
検出面	3	1			2	1		3	10	1	6	2	1	1	2	7	5	71		27	143		
その他				1	1			3	2			1	1	1	1	4	2	19	2		38		
合計	16	2	6	18	8	3	6	3	14	2	37	2	22	10	2	14	11	36	30	779	38	97	1158

第6表 古代の土器一覧表

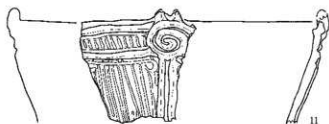
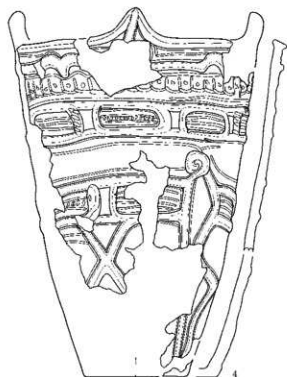
No.	地点	種別	器種	寸法 (cm)			残存度	成形・調整・形態		実測番号	注記
				口径	底径	器高		外面	内面		
1	2溝	黒色土器A	杯A	(17.2)			口1/10	ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-1	152
2	2溝	黒色土器A	杯A	(17.0)			口1/12	ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-2	153
3	2溝	黒色土器A	杯A	(16.6)			口1/8	ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-3	153
4	2溝	黒色土器A	杯A	(14.6)			口1/8	ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-4	152
5	2溝	黒色土器A	杯A		(5.8)		底1/4	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	2溝-5	158
6	2溝	黒色土器A	杯A		(7.4)		底1/2	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	2溝-6	151
7	2溝	黒色土器A	杯A		(6.0)		底1/2	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	2溝-7	151
8	2溝	黒色土器A	杯A	(12.0)	6.7	3.7	底3/4	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	2溝-8	151
9	2溝	黒色土器A	杯A	(14.4)			体1/8	ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-9	152
10	2溝	黒色土器A	杯A		6.5		底3/4	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	2溝-10	151
11	2溝	黒色土器A	杯A	(16.4)			口1/4	ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-11	152
12	2溝	黒色土器A	杯A	(12.6)			口1/4	ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-21	152
13	2溝	黒色土器A	杯A	(11.6)			口1/16	ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-22	152
14	2溝	黒色土器A	杯A	(10.8)			口1/12	ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-25	152
15	2溝	黒色土器A	杯A					ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-27	152
16	2溝	黒色土器A	杯A					ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-28	153
17	2溝	黒色土器A	杯A		(7.5)		底1/3	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	2溝-19	156
18	2溝	黒色土器A	杯A		(7.1)		底1/8	ロクロナデ、回転糸切	ミガキのち黒色処理	2溝-20	152
19	2溝	黒色土器A	杯A					ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-29	152
20	2溝	黒色土器A	杯A					ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-30	152
21	2溝	黒色土器A	椀					ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-31	152
22	2溝	黒色土器A	椀					ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-32	152
23	2溝	黒色土器A	皿B		(6.1)		底1/2	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	2溝-12	151
24	2溝	黒色土器A	皿B		5.8		底1/6	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	2溝-13	151
25	2溝	黒色土器A	皿B	(12.8)			口1/14	ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-23	152
26	2溝	黒色土器A	杯Aか					ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-33	152
27	2溝	黒色土器A	杯Aか					ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-34	153
28	2溝	黒色土器A	杯Aか					ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-35	152
29	2溝	黒色土器A	杯Aか					ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	2溝-36	152
30	2溝	黒色土器A	杯Aか					回転糸切	ミガキのち黒色処理	2溝-37	152
31	2溝	須恵器	杯A	(12.3)			口1/9	ロクロナデ	ロクロナデ	2溝-14	156
32	2溝	須恵器	杯A	(12.0)			口1/8	ロクロナデ	ロクロナデ	2溝-15	151
33	2溝	須恵器	杯A	(13.0)			口1/8	ロクロナデ	ロクロナデ	2溝-16	152
34	2溝	須恵器	杯A	(12.4)			口1/12	ロクロナデ	ロクロナデ	2溝-17	153
35	2溝	須恵器	杯A	(14.0)			口1/12	ロクロナデ	ロクロナデ	2溝-18	151
36	TH-4 検出面	黒色土器A	杯A	(10.5)			口1/12	ロクロナデ	ミガキのち黒色処理	TH4-4	202
37	TH-4 検出面	黒色土器A	皿B				底1/4	ロクロナデ、回転糸切、付高台	ミガキのち黒色処理	TH4-5	203

※寸法の () は、反転復元し、計測したもの。

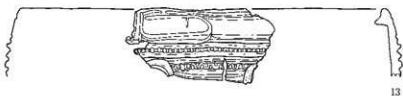
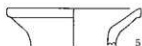
1住 (1~4)



3住 (9~24)

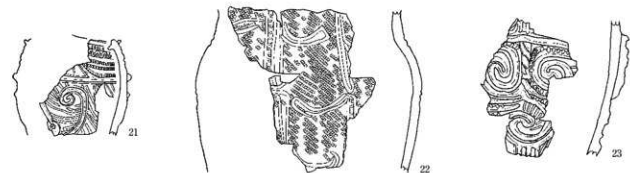


2住 (5~8)

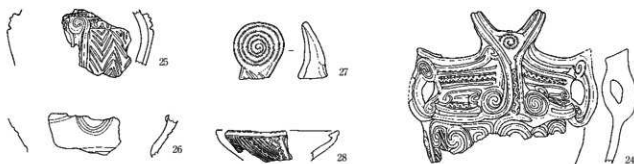


0 10cm

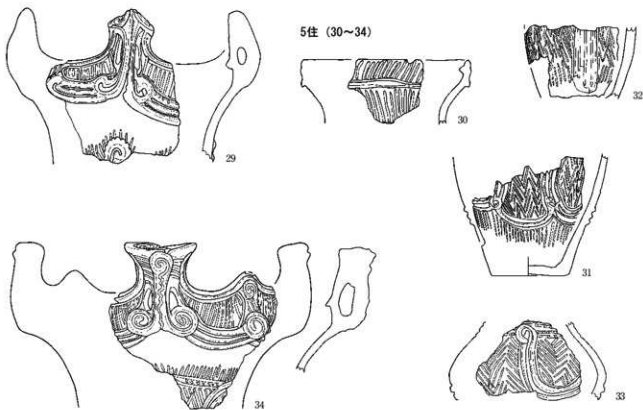
第18圖 縄紋時代 出土土器 (1)



4住 (25~29)



5住 (30~34)



0 10cm

第19圖 縄紋時代 出土土器 (2)

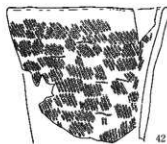
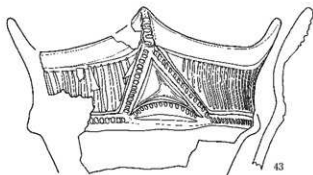
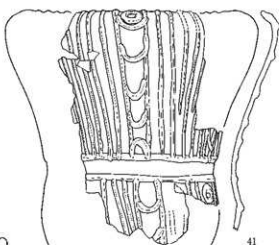
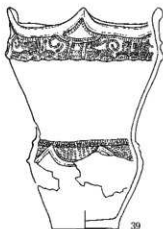
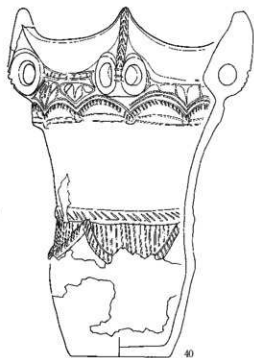
6住 (35)



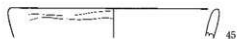
7住 (36)



8住 (37~44)

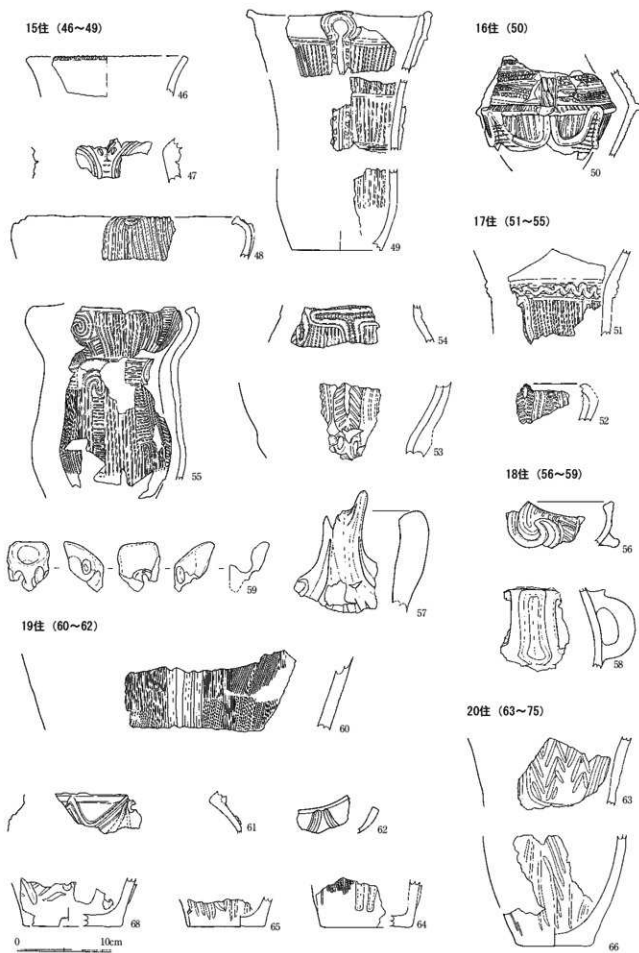


14住 (45)

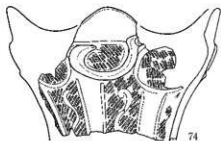
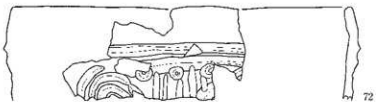
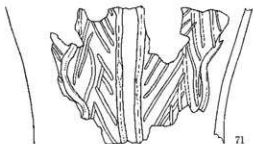
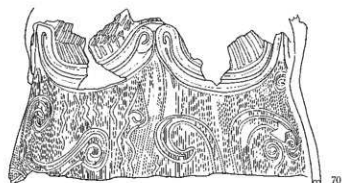
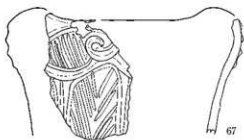


0 10cm

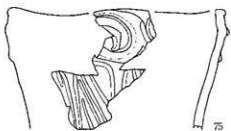
第20図 縄紋時代 出土土器 (3)



第 21 図 縄紋時代 出土土器 (4)



22住 (76~78)



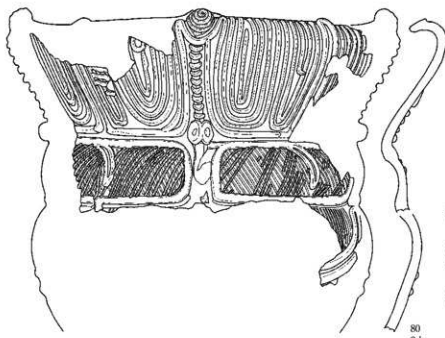
25住 (79)



0 10cm

第 22 図 縄紋時代 出土土器 (5)

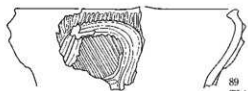
土坑 (80~83)



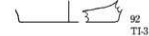
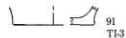
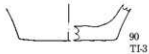
検出面 (85~89)



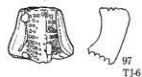
2溝 (84・混入品)



包含層 (90~97)



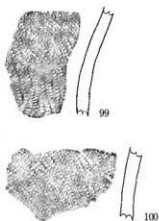
攪乱 (97・98)



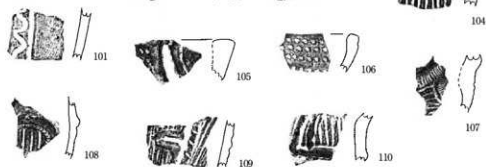
0 10cm

第 23 図 縄紋時代 出土土器 (6)

1住 (99・100)



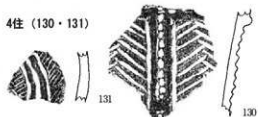
2住 (101~110)



3住 (111~129)



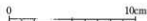
4住 (130・131)



5住 (132)

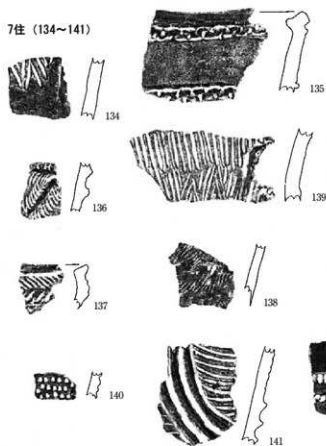


6住 (133)

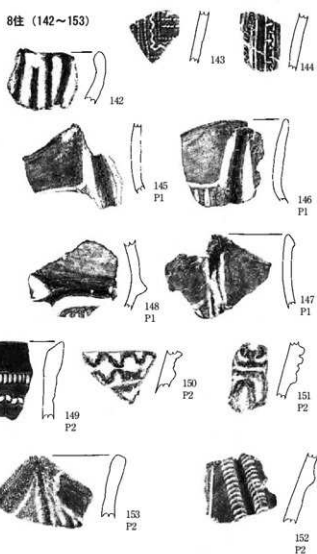


第 24 図 縄紋時代 出土土器 (7)

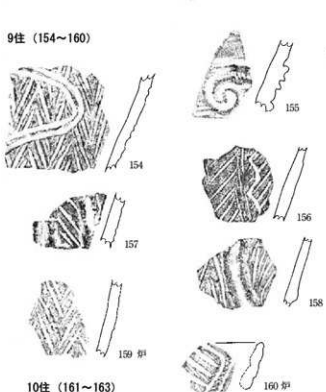
7住 (134~141)



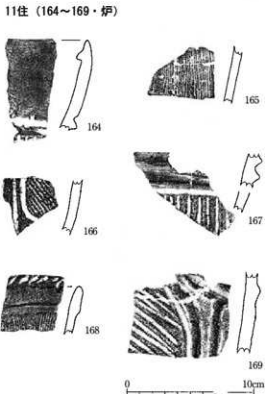
8住 (142~153)



9住 (154~160)



11住 (164~169・炉)



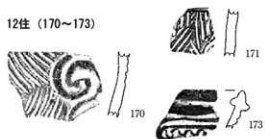
10住 (161~163)



0 10cm

第 25 図 縄紋時代 出土土器 (8)

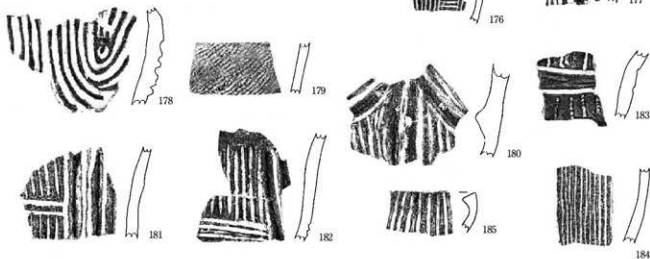
12住 (170~173)



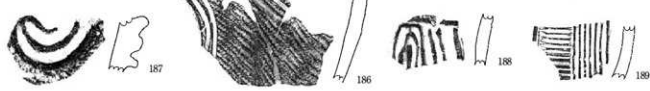
14住 (174~177)



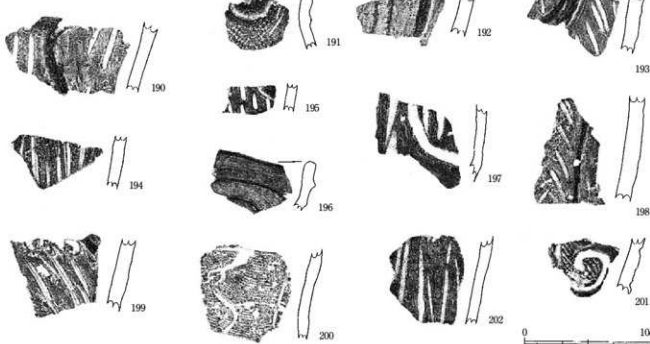
15住 (178~185)



17住 (186~189)



18住 (190~202)

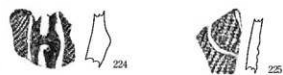
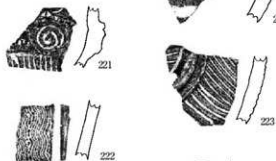
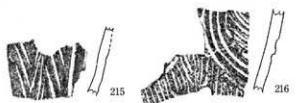
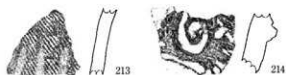
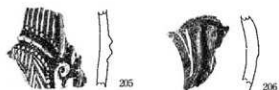
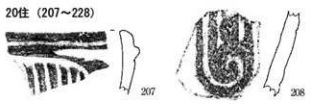


第 26 図 縄紋時代 出土土器 (9)

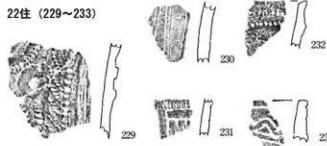
19住 (203~206)



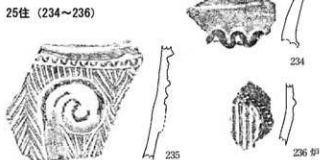
20住 (207~228)



22住 (229~233)



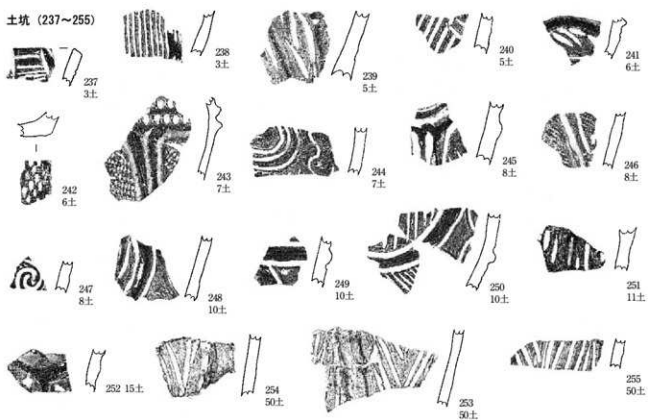
25住 (234~236)



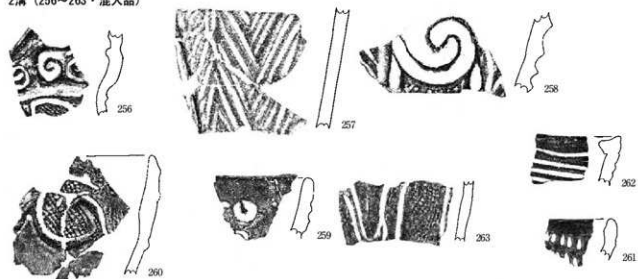
0 10cm

第 27 図 縄紋時代 出土土器 (10)

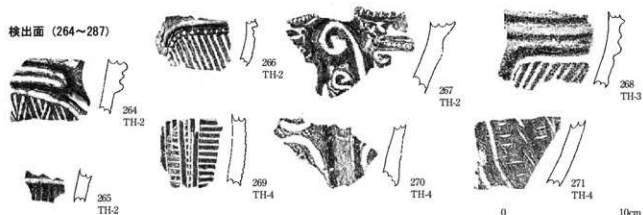
土坑 (237~255)



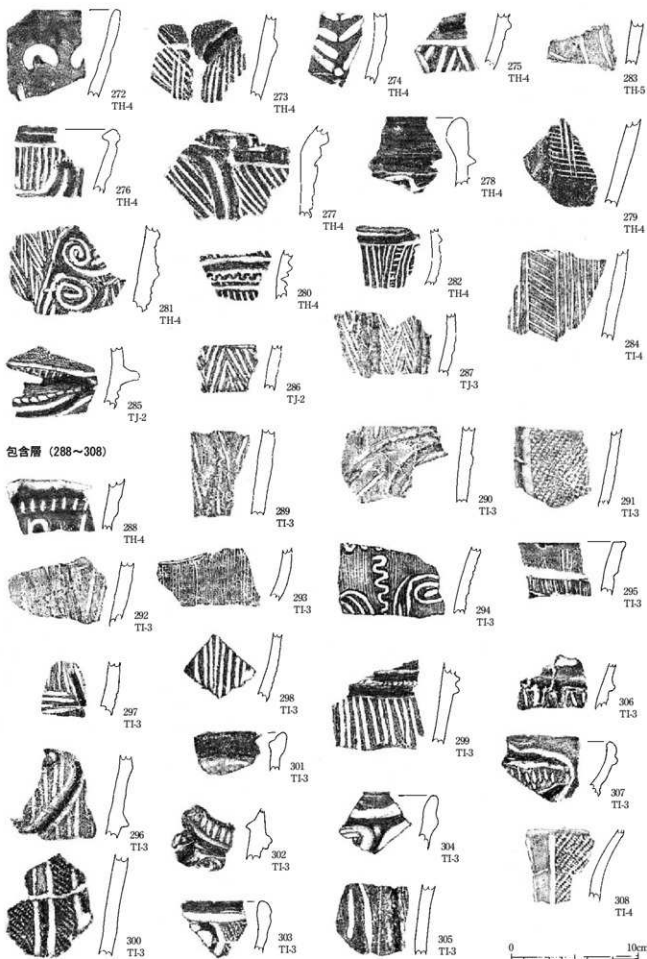
2溝 (256~263・混入品)



検出面 (264~287)

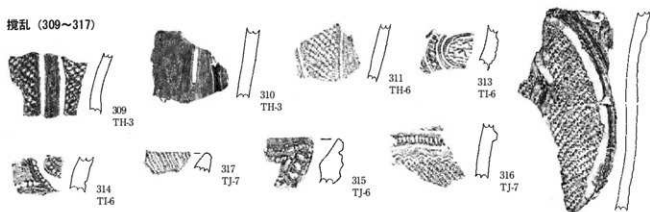


第 28 図 縄紋時代 出土土器 (11)



第 29 図 縄紋時代 出土土器 (12)

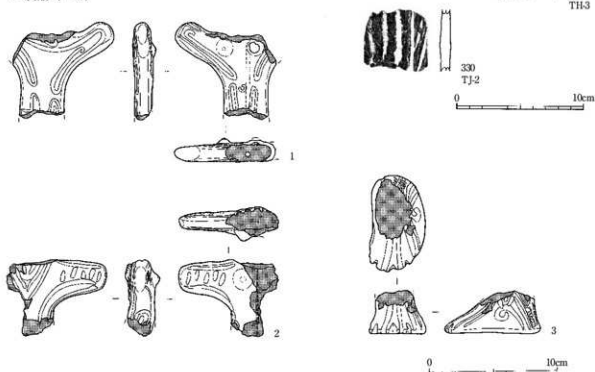
攪乱 (309~317)



拵土 (318~330)



土製品 (1~3)



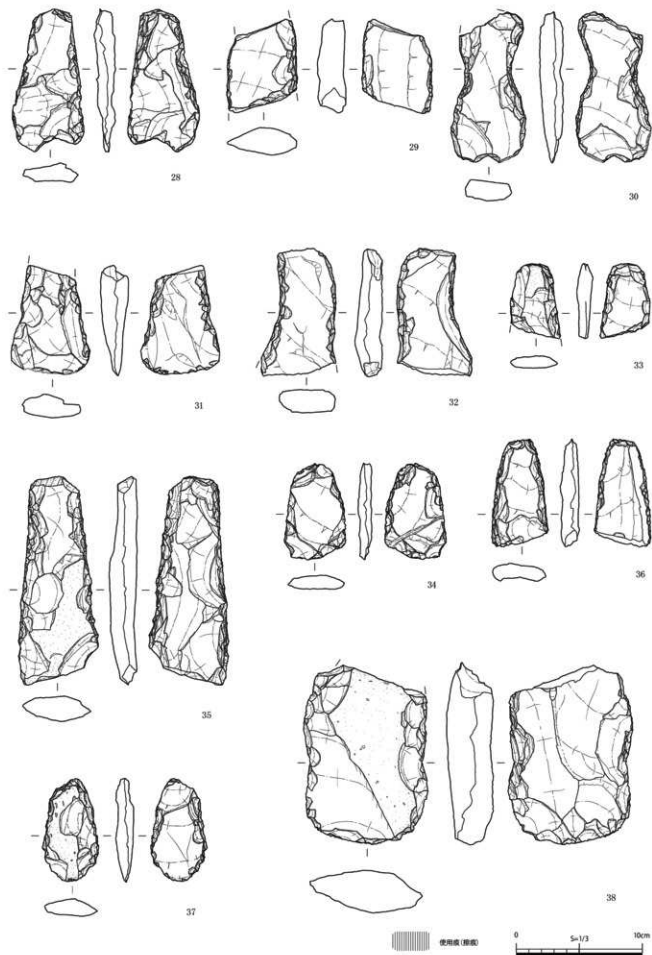
第30図 縄紋時代 出土土器 (13)・出土土製品



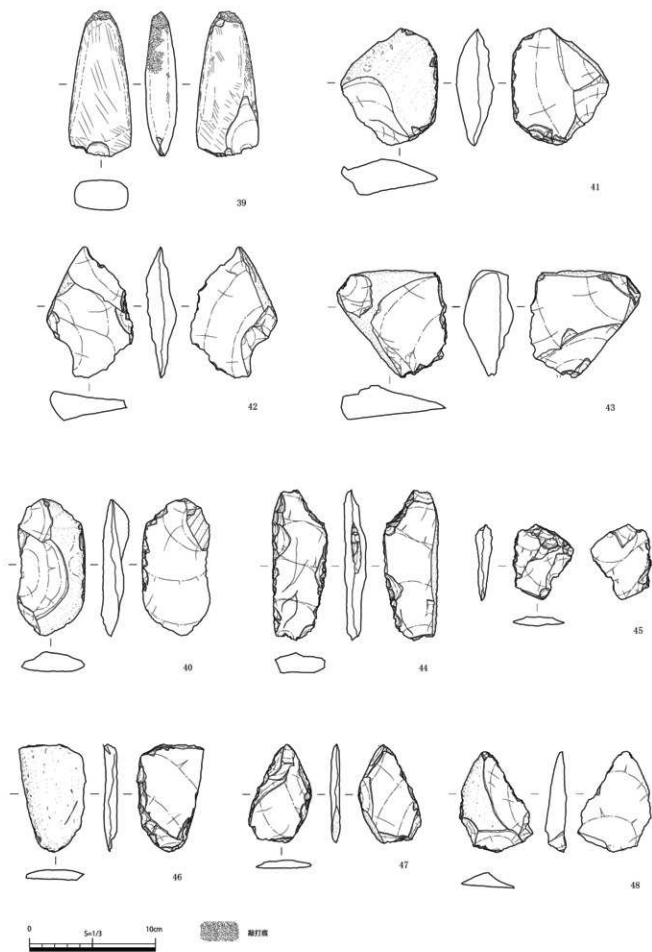
第 31 图 出土石器・石製品 (1)



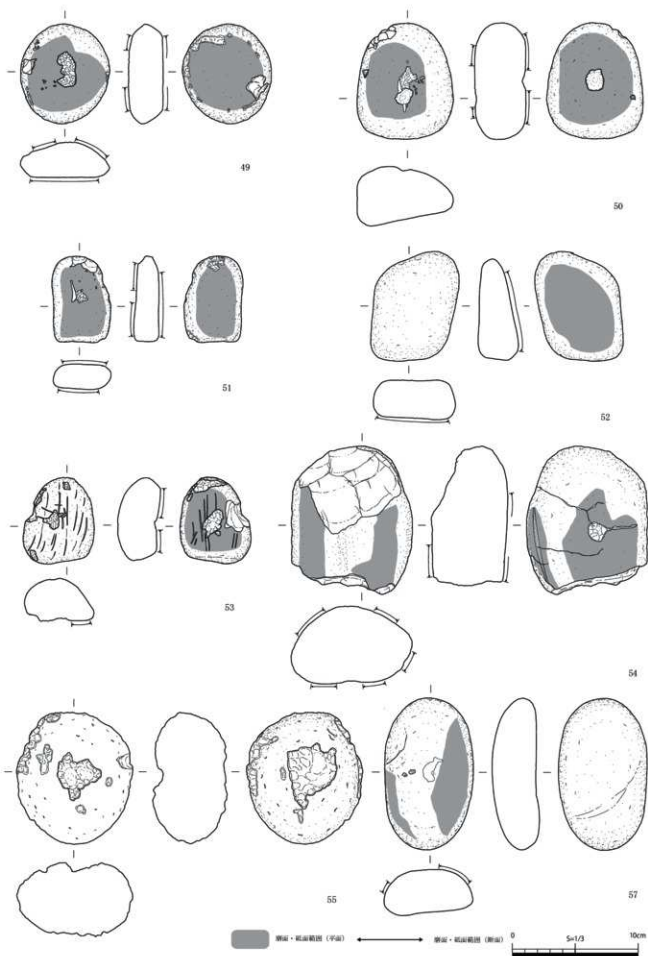
第 32 圖 出土石器・石製品 (2)



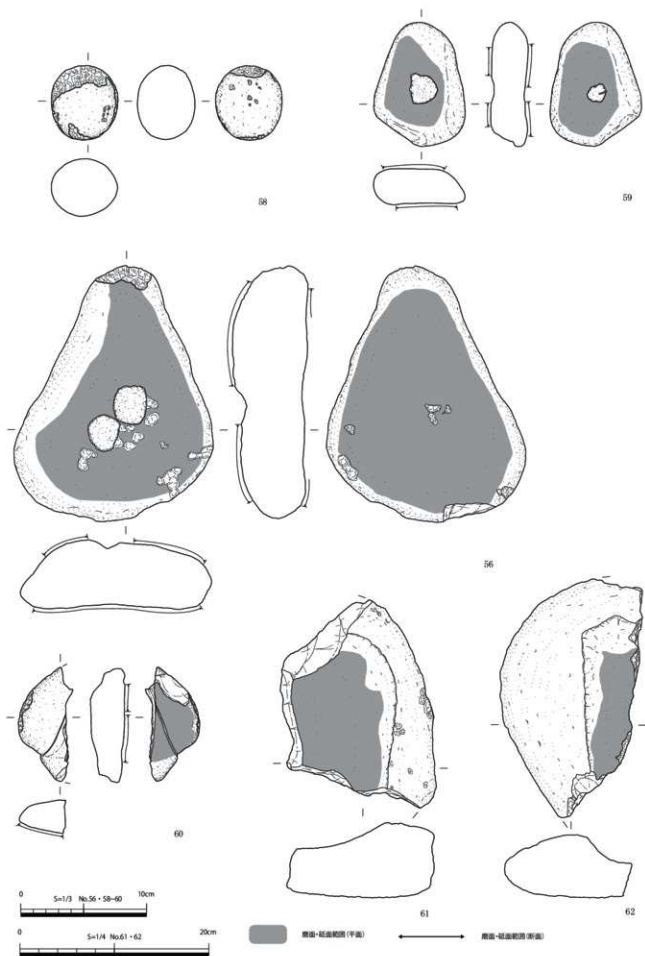
第33図 出土石器・石製品(3)



第 34 图 出土石器·石製品 (4)

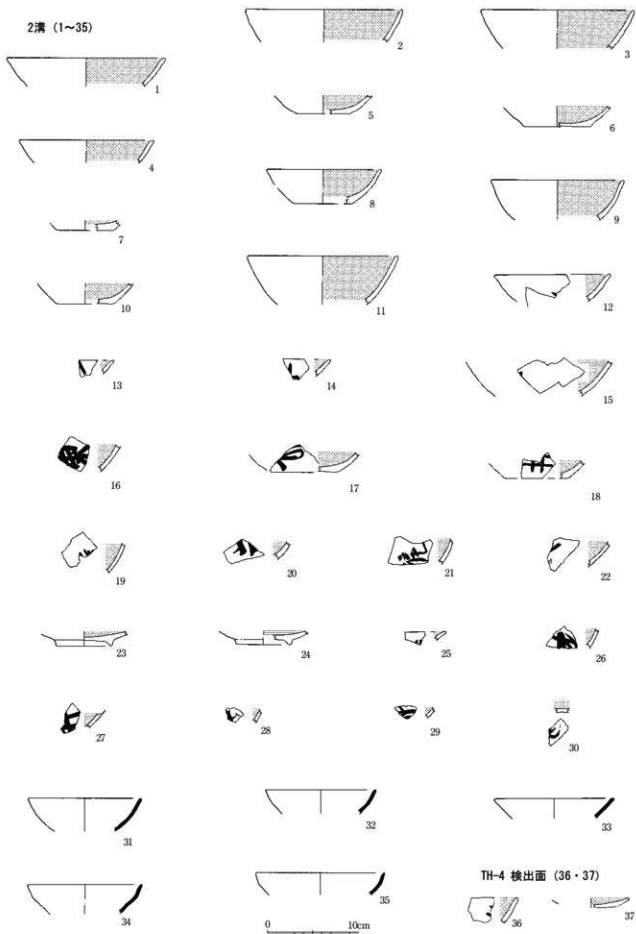


第 35 図 出土石器・石製品 (5)



第36図 出土石器・石製品(6)

2溝 (1~35)



TH-4 検出面 (36・37)

第37図 古代 出土土器

第六章 調査のまとめ

調査地は僅少で、いわば遺跡内に断続して引いた2本の線に過ぎないが、広範囲を対象にする事ができた。以下、波田下原・下原遺跡の遺構分布状況等を第1次調査の成果を含めて概観し、調査のまとめとしたい。

1 縄紋時代

竪穴建物址の時期は中期中葉～後葉で、ほとんどが後葉に属する。遺跡の西側で確認されており、4カ所の集中域がある。遺跡の南端に推定旧唐沢川の流路とされる幅50m程の凹地があり、そこから北に130m程離れた微高地上に10軒を超える2カ所の集中域がある。H区南東部(13軒)とI区の南東部から40m程南の山形村域(12軒)で、いずれも東西80m程の規模があり、120m程の間隔がある。次いでH区南東部の100m程南の山形村域(6軒)に南北20m程の範囲の集中域、推定旧唐沢川から北に200m程離れたJ区南西部(5軒)に東西50m程の規模の集中域がある。このうちI区の南東部から約40m南の山形村域(12軒)とJ区南西部(5軒)は一続きの集中域であった可能性もある。未確認ながら、更に北にひろがる可能性もある。H区南東部の100m程南の山形村域(6軒)は推定旧唐沢川の川岸際と推定され、他の集中域とは立地が異なる。その他に明確ではないが、単独で確認されたものが遺跡の北縁部、西縁部に散在している。

土坑は時期不明のものがほとんどだが、竪穴建物址と同時期であろう。今回の調査では、比較的少数であるがI区南東部等3カ所の集中域が認められた。I区南東部の集中域はJ区南西部の竪穴建物址集中域の西に隣接しているが、明確な混在は認められない。他の2ヶ所の集中域では単独と推定される竪穴建物址がある。一方、遺跡の南側にあたる推定旧唐沢川に近い山形村域では、削平を免れた範囲内の全域で、多数の土坑群が確認され、山形村内域の2カ所の竪穴建物址集中域では普通に近接、混在が認められる。調査地全体の土坑の分布は、遺跡南側にあたる推定旧唐沢川際に多く、北に離れるにつれ、減少している可能性が高い。

本遺跡の南には推定旧唐沢川を挟んで東西900m×南北400m程の規模をもつ三夜塚遺跡が隣接している。三夜塚遺跡も中期後葉に全盛期があり、本遺跡と同様に推定旧唐沢川沿いに中心域があるとされている。推定旧唐沢川を挟んでひろがる両遺跡は、密接に関係し、小河川から水の恩恵を得て、両岸の帯状微高地を中心に繁栄していたと考えられる。

2 古代

TH4で検出された2溝は幅約3m、深さ1m以上を測る大型の溝で、形状、堆積状況等から導水目的の水路である可能性が高い。確認部分は狭小で、流路の全体像は推測できないが、計画的な大規模土木工事によるものと考えたい。築造時期は不明だが、出土遺物から9世紀後半頃までは機能していたと推定される。現在は周辺に河川はないが、推定旧唐沢川もしくはその支流、分流から取水したのであろう。供給先も不明だが遺跡内外の集落、耕作地等に向かっていった可能性がある。本遺跡の北東には、今回調査の和田中西原、未調査の和田下西原遺跡があり、関連が注目される。また南東には三間沢川左岸遺跡が近接している。290軒超の竪穴建物址や14棟の掘立柱建物址等が輸入陶磁器、銅製品等の希少な遺物を伴って確認され、荘園に関わる大集落と推定されている。その存続時期は9世紀前半～10世紀後半頃で、本址と重なる。本址の性格は不明だが、周辺一帯の開発に関わる水路の可能性があり、今後の発掘調査による解明を期待したい。

最後に本調査の実施に際して多大なるご理解、ご協力を頂いた地権者の皆様、長野県農地整備課、下原地区県営畑総担い手支援型実行委員会、波田19区町会をはじめとする地元関係者の皆様にご感謝の意を表して、本書の締めくくりとしたい。

参考文献

山形村教育委員会 2002 『三夜塚遺跡Ⅲ』

山形村教育委員会 2009 『下原遺跡 三夜塚遺跡Ⅳ』

写真図版



調査地遠景 (山形村の清水寺から)



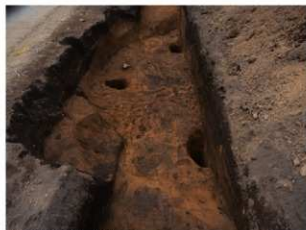
T1-3 作業風景



T1-4 北壁 基本土層



TG-1 遺構検出状況 (東から)



1住 完掘状況 (東から)



2住 完掘状況 (西から)



4住 石囲炉 完掘状況 (南から)



同 完掘状況 (東から)

写真図版 2



8住 P1 土層



同 遺物出土状況 (南から)



同 P2 遺物出土状況 (東から)



同 完掘状況 (東から)



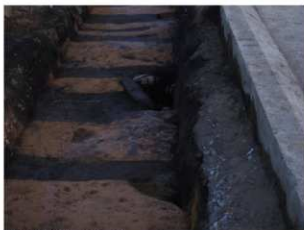
17住 完掘状況 (南から) 床面の一部が被熱



20住 完掘状況 (東から)



25住 石囲炉 完掘状況 (北から)



同 完掘状況 (西から)



3土 遺物出土状況 (南から)



同 完掘状況 (南から)



1溝 黒褐色土硬化面 検出状況 (北東から)



同 明黄褐色土硬化面 検出状況 (北東から)



同 完掘状況 (北東から)



2溝 土層



T1-3 土坑群 完掘状況 (東から)



TJ-7 完掘状況 (東から)





42 (8住)



43 (4・8住)



50 (16住)



65 (17住)



74 (20住)



70 (20住)



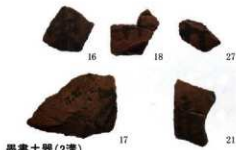
78 (22住)



79 (25住)



80 (3土)



墨書土器 (2溝)



土製品 (土偶正面・外足側)



同 (背面・内足側)

写真図版 6



石鏃



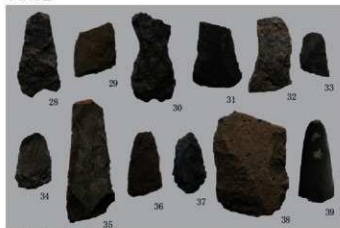
石鏃



小形刃器



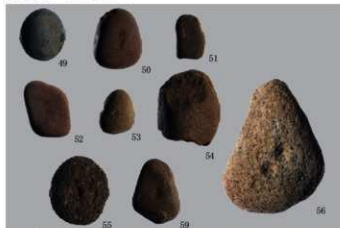
石鏃



打製石斧・磨製石斧



大形刃器



凹・鼓・磨石



石皿

長野県松本市 波田下原遺跡第2・3次・和田中西原遺跡第2次発掘調査 報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし はたしもほらいせきたい2・3じ わたなかりにしほらいせきたい2じ ほくつちようさほこくしよ							
書名	長野県松本市 波田下原遺跡第2・3次、和田中西原遺跡第2次 発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	No.217							
編著者名	三村竜一、石井佑樹、原田健司、片山祐介、石川真理子							
編集機関	松本市教育委員会							
所在地	〒390-8620 長野県松本市丸の内3番7号 TEL0263-34-3000(代) (記録・資料保管:松本市考古博物館 〒390-0823 松本市大字中山3738-1 TEL0263-86-4710)							
発行年月日	2015(平成27年)3月16日 (平成26年度)							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
はたしもほらいせ 波田下原	ながのけんまつもとし 長野県松本市 はた 波田9568-1 他	20202	1804	36度 11分 26秒	137度 53分 26秒	2011.10.03 ～ 2012.03.16 2013.05.31 ～ 2014.03.21	1,221㎡	県営畑地帯総合土地改良事業
わたなかにしほらい 和田中西原	ながのけんまつもとし 長野県松本市 はた 波田9439 他	20202	283	36度 11分 44秒	137度 53分 35秒	2011.10.03 ～ 2012.03.16	234㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
波田下原	集落	縄紋 平安	竪穴建物址 土坑 溝	25軒 48基 2条	縄紋土器 土製品 石器・石製品 土師器 須恵器	縄紋時代中期の集落跡の一部等を調査した。竪穴建物群と土坑群を確認し、良好な遺物を得ることができた。		
和田中西原	集落	縄紋				遺構・遺物は、確認できなかった。		
要約	<p>波田下原遺跡、和田中西原遺跡は松本市波田他に所在する縄紋時代中期を中心とする集落遺跡である。近現代の造成等による削平により、遺構が消滅している範囲も広く、遺存状況は極めて悪い。調査地は幅が80～100cm程と狭小であることに加え、広範囲に深い耕作による攪乱を受けているため、調査は困難を伴った。</p> <p>波田下原遺跡では、調査地の西側を中心に縄紋時代中期の竪穴建物址25軒と土坑48基を確認し、良好な遺物を得ることができた。平安時代の溝も確認された。縄紋時代には遺跡の南端に推定旧唐沢川が東流していたとされており、左岸に沿って帯状に連なる竪穴建物址群を中心とする集落が展開していたと推定される。土坑の分布は推定旧唐沢川岸周辺に集中がみられ、遺跡北側の外縁部に向かって減少する傾向が伺える。対岸には同時期の集落址である三夜塚遺跡があり、密接な関係があったものと推定される。平安時代の溝は、導水を目的とした人為的な水路の可能性が高い。</p> <p>和田中西原遺跡では遺構・遺物は確認されなかった。近現代の造成に伴う削平等により、調査範囲内では遺構が消失している可能性が高い。</p>							

松本市文化財調査報告 No.217

長野県松本市

波田下原遺跡第2・3次

和田中西原遺跡第2次

-発掘調査報告書-

発行日 平成27年3月16日

発行者 松本市教育委員会

〒390-8620

長野県松本市丸の内3番7号

印刷 株式会社 二光印刷
